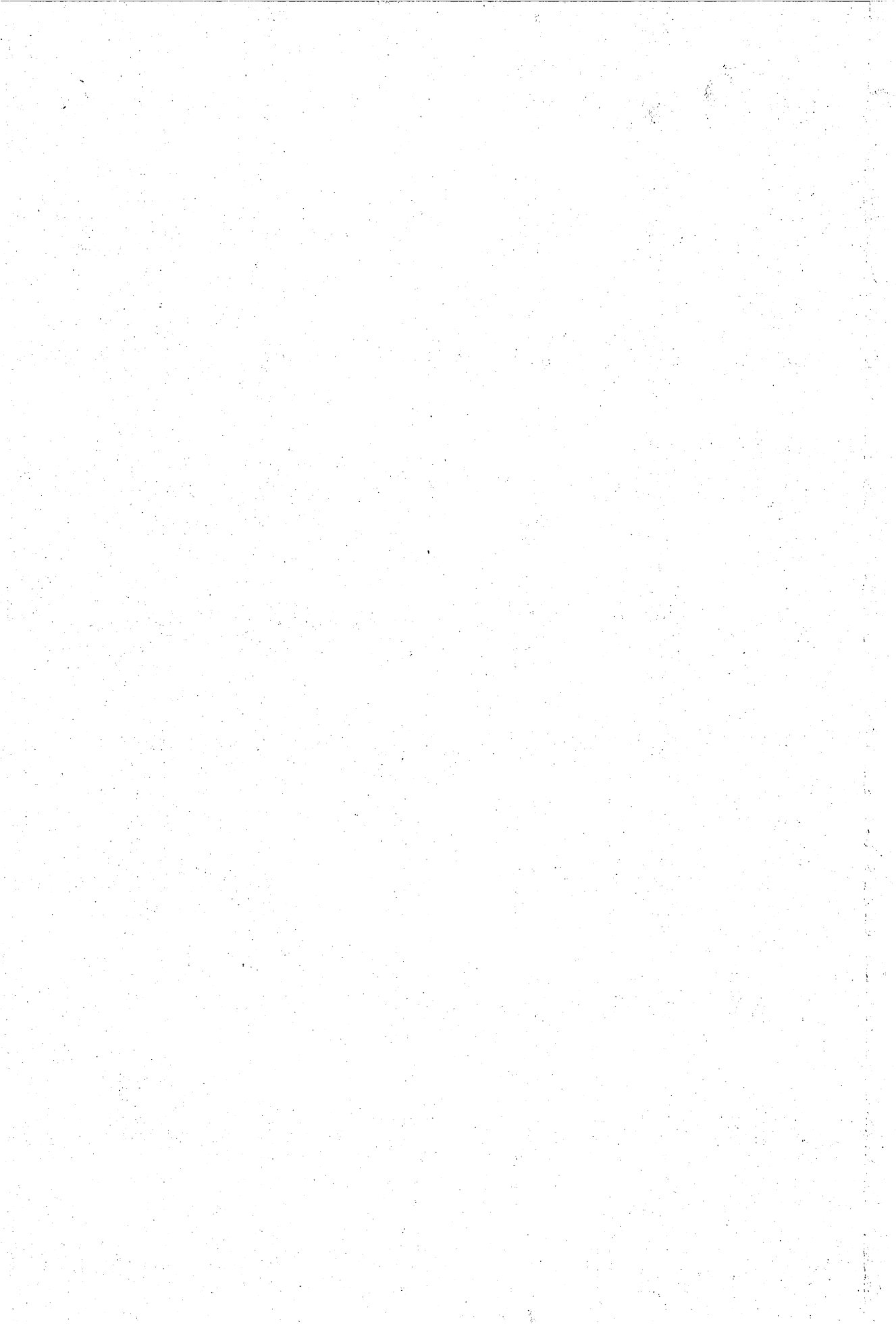


平成六年三月
津山郷土博物館紀要第六号

津山松平藩町奉行日記 三

津山郷土博物館



津山松平藩町奉行日記 三

凡例

- 一、本書には、津山郷土博物館に所蔵する愛山文庫の中から、「町奉行日記」宝暦十二年および明和三年を収録した。
- 一、本文の表記法は、つとめて原文の形にそうようにしたが、読解の便宜を図って、つぎの点に留意した。
 - 1 平出・欠字は、省略した。
 - 2 漢字は、原則として当用漢字および現行活字体に改めた。
 - 3 誤字・脱字と思われる場合は、右傍らに（ママ）と注記した。
 - 4 近世期一般に慣用されていた左記のような文字・用語等は、そのまま記載した。

躰	<small>てい</small>	扣	<small>ひかえ</small>	嘍	<small>あつかう</small>	歟	<small>か</small>	喧嘩	<small>けんか</small>	音物	<small>いんもつ</small>	稠敷	<small>きびしく</small>	又候	<small>またざら</small>	与風	<small>ふと</small>
---	-------------------	---	--------------------	---	---------------------	---	------------------	----	--------------------	----	---------------------	----	---------------------	----	---------------------	----	-------------------
 - 5 変体がなは、原則としてひらがなに改めたが、助詞等に用いられている、而（て）、江（え）、者（は）、茂（も）、与（と）は、小活字で示した。
夕（より）は、例外として残した。
 - 6 虫損・破損は、「」でその状態を示した。
 - 7 日記の表紙・奥書等は、その部分を□で囲み、（表紙）のように注記した。
 - 8 記載を配慮すべき地名・固有名詞は□□のようにした。
- 一、本資料中に、封建的身分差別を表現する名辞・賤称が認められるが、事実に基づく科学的な歴史研究を進める立場から、これらをそのまま掲げた。もとより我々は、この不当な差別を容認するものではなく、科学的な歴史認識を通じて差別と差別意識の根絶にいたることを望んでいる。読者においても、この立場を理解し、この資料を正しく利用されることを期待する。

宝曆十二年壬午 正月ヨリ
十二月至
御用日記
十五 大沢三平

宝曆十二年壬午

町奉行御用日記

正月ヨリ十二月至 大沢三平

元日 晴 御用番 佐々木内膳殿
月番 鈴木喜右衛門

- 一 恒例之通諸士登城於桜之間御帳付之由勘定奉行服部弥左衛門当役
- 一 三平大勘者大橋源右衛門御用席江罷出ル
- 一 大書院江御用席御出座大役人迄御礼申上ル檜之間ニ而小役人御徒中御礼有之御作法例之通之
- 一 左之通出之上下城

二日 晴 御用始

- 一 日参之面々出仕御勘奉行服部弥左衛門当役三平大勘者大橋源右衛門御藏奉行清水軍治嶋田義介広瀬義平御金奉行源右衛門も広瀬義平同役御金奉行
- 候へとも当時大勘者兼役源右衛門相勤候旨
- 例日之通郡代之次ニ罷出之尤御評義上相済而御祝義頂戴無滞相済

一 於会所八ッ時頃ハ大年寄ニ謁ス玄関並居候而面々向被受類石名平兵衛並目付川端又六出ル札元三人済引続直屋市左衛門受礼

三日 晴

一 四ッ前時ハ罷出若若党吉井栄内直屋ハ初而例歳之通相勤益事有之山本三右衛門方打一帰刻夜ニ入

四日 晴

一 於会所例刻御藏元謁ス玉置忠兵衛披露石名平太兵衛並目付川端又六出合而右大年寄共五切ほとに西に向受礼勿論名披露例格之通無滞相済候

一 西川役人今年始状到来

一 役所ニ而郡代所当役所申合ニ而酒少々至ス

五日 晴

一 西川ハ之返書遣ス倉敷へ相場付返書昨日遣ス

一 恒例之通さぎちう其外博奕之触出ス通銀錢引替七分銀札為持参銀錢引替一二歩三朱札場江出ス「一」ハ前々之通ニ相成旨札座奉行中ハ手紙到来ニ付今日触出ス

六日 晴

- 一 札座奉行ハ正銀取やう之儀惣町方心得違も有之候而却而難儀人も出来可申気毒ニ付触出し候様致呉候様手紙到来
- 一 非人頭とも襟かけ出来
- 一 乃井野川端藤大夫ハ年始銭相場聞合 来書
- 七日 晴 会所御出席
- 一 坪井役所今年札書候間返書遣ス

一惣町方之者とも兼申付置候事なから若心得違之儀「」儀正銀等遣候儀も「」談不致候而大年寄共申渡し心得を以触候様申渡候勿論此間札座奉行中其旨之儀申越候得共返答及置全此方之例格を以申付之

八日 晴

一西川江飛脚中間を遣ス尤去歳之通鱒一本簾卷_ニ而台居_ニ取賄遣ス
九日 晴 御用場

一久世御代官所去歳月々錢相場聞合状例之通来
一西川江飛脚帰り返書来

一來廿五日大般若御執行尤向後右之日限に相極候段大目付鈴木喜右衛門江被申聞候一御役左衛門不快罷在候付大御目付中江不參之届致呉候様申来り鈴木喜右衛門江其旨申達ス

十日 晴

一久世役所江返書遣ス尤右相場書賃遣ス

十一日 雪

十二日 晴 会所無御出席

一西今町直屋幸三郎孫兵衛と改号聞届

一町方人別来二月中可差旨申渡ス

一久世役所来書庄藏殿支配所御預所去已御困糶藏此度相建候付御入用を以御普請被仰付候間入札申触候御領分村々別紙書付之通触出し呉様尤入札届無之村々儀其段来廿二日迄差越候且前書

之外村々最寄之村々も触出可居村も候其節村名書付遣呉様申来り則刻内膳殿及御沙汰候処右願来候趣取計可申段返書差越可申旨被仰聞之書翰扣有之

十三日 晴

一昨日之返書今日遣ス右所々御困糶藏之入札書付之儀付町外江触呉候様申来今日玉置忠兵衛遣ス

十四日 晴 御用場

一茂渡市右衛門実方之弟去十日相果申付此節忌中引込罷在候処来十六日登城も仕候儀且此節役所も年始傍御用向多御座候付明日も忌指免出勤仕候様為致度乍去日数立不申登城之儀も難申付候哉不苦儀候猶以無滞登城も申付くれ候様被存候付札座奉行土居官左衛門江手紙尋則内膳殿へ伺申上候処其旨聞届遣候様被仰聞右之通書則日遣ス玉置忠兵衛も遣ス

一主計殿出仕無之

一安岡町売券願出ル売主久米屋金十郎買主生綿屋喜四郎

一同町願売主打穴屋忠吉買主生綿屋喜四郎

十五日 晴

一茂渡市右衛門儀差免明十六日登城之儀申渡ス

一明日大年寄三人札元三人登城之儀中奥目付中以書付御門通行之儀申付くれ候様申達ス

十六日 晴

一今日御具足之御祝儀諸士登城於芥子之間御祝義相濟_ニ而表方頂戴無滞相濟御奉行佐々木内膳殿

一御祝義早^而勘定奉行服部弥右衛門当役三平大勘者大橋源右衛門御席罷出^ル

一御退出於中之口大年寄札元地方目付ともへ主計殿次ニ内膳殿与兵衛殿御逢被成候大目付鈴木喜右衛門少し別^一並居候体見繕銀鷹之間ニ座着番役敷居之下ニ罷在名前披露年頭御祝義申上旨申之左之通

大年寄

北^ノ南^ニ向

藏合孫左衛門

齋藤孫右衛門

玉置忠兵衛

札元

同少し東^ニ向大

山本三右衛門

年寄^ヲ少し除^而

茂渡市右衛門

川口藤十郎

地方目付

土井宗内

段橋下東向

植月新右衛門

以前大庄屋之砌

立石五左衛門

居並候場

多胡勘右衛門

中嶋定八

中嶋宗右衛門

一於宅同心組牢番兩人中間迄三間屋兩人郡代下代兩人小付食吸物盃事石名平太兵衛ハ取計之為相扣

一植木鉄藏犬病氣之趣相聞候ニ付非人^江申付打殺候様申付取計之一非人頭共^江襟かけ脇差相渡候

十七日 晴

一去已歳迄御役格式御札於江戸表相濟候礼昨日相廻之

十八日 晴 御用場

一

十九日 晴

一勝間田町年寄苺田屋孫七次七郎と改号

一今日大年寄三人札元諸吟味不残相扣年始盃事吸物一二種之猪口肴硯蓋^ニ而相濟尤石名平太兵衛取持

一大目付鈴木喜右衛門^ハ内談致旨手紙致来罷越候処昨十八日屋後勝間田町苺田屋孫七^ト申者之藏之内米四五俵荒り候^而よほと入込候

者とも騒候^而早速鎮り致候処其節小やらう徳と申者徘徊いたし見なれ不申者其前日も入込候迎尋見申処此者俵に付木針なと持居申

ニ付敷敷しかり以来入込申候や申聞帰候由此儀ニ付所作ふりきみあしく如何候様間心得置候様被申聞候ニ付相応之及返答罷歸り早

速平太兵衛^江申達之玉置忠兵衛^江も申聞相尋させ候処則今日右苺田屋^ハも申出候旨申聞候付右徳と申者尋召連来候様ニ申付之夫々

同心目明共迄内尋申渡^ス

廿日 晴

一高田ニ居住いたし候小林惣ハ今度

一亀菊様御病氣ニ成御見^レ度ニ付昨日御飛脚被差越候之旨何之旅宿申付候様尤平沼吉藏方^江可着哉何分ニも旅宿支度之儀ハ着之上可

申付之段大目付鈴木喜右衛門手紙到来則二町目尾高屋江宿申付

一舟頭町仁助と申者横山村六兵衛ニて跡ハ押内養子ニ相成六兵衛

死後村方ハ世話もやき候為挨拶右家遣し村ハ追出し候処又々当春

村江入込屋敷を荒し候ニ付宜申吳候様ニ書付連判ニて差出し候ニ
付今日右仙助儀舟頭町へ尋申付之

一荊田屋ニて捕らへ候徳と申小野郎当役存寄相決今日目あかし共ハ
追払せ申候段内談なく鈴木喜右衛門江罷越及噂

一今日五時頃林田村山根出火有之四郎兵衛申者家ハ隣家平七宅
江移り類焼在分町分ハ追々駆集消止大目付鈴木喜右衛門出馬当役
罷出諸事例格申付引取御用番江相届鈴木喜右衛門被相届ル

廿一日 晴 会所御出席無之

一高田小林惣八今四時頃参着箆之者尾高屋へ遣し賄申付ル然ル処最

早御大切ニ被成御座候ニ付不及御伺勝手次第罷帰候様鈴木喜右衛
門宅ニ吸物御酒被取計銀壹枚道中入用四拾三匁出候由及噲置候追
而書付差出候様被申聞候

一今夕不時御用場有之候由大目付中ハ廻状到来日参之面々出仕候処

亀菊様御病氣御養生御叶不被成今未之中刻御早世被成候段於大目
付所御沙汰有之追廻状文段扣ニ有之候五刻御退出夫ハ会所江

罷出町在江廻文出ス

廿二日 晴

一栗田辰右衛門手紙到来被申達度儀有之ニ付下御屋敷江罷出候様
申来リ罷越候処来ル廿四日ハ時御葬送ニ付町分ハ御懸リ被成候

所町年寄罷出諸事氣を付候様ニ被申乍序御当日取計其外廻文等

伺申候処何分先例引合せ取計候様ニ内談前ニも御談合被成被仰聞
辰右衛門も同断罷帰於会所廻状差出ス扣ニ有之候得共大法相記
置候左之通

一亀菊様今未中刻御早世被成候依之今日ハ来ル廿七日迄鳴物高聲
半切 停止申付候町方商売銘々内さわかしき類ハ心を付商売可致候
一来ル廿四日ハ時御出棺御道筋掃除ニ入念可致候尤見世先へ見苦
敷物さけ置申間敷候

一御葬送之節横丁人立可申候間其町々年寄致裁許無礼口論かましき
儀無之様取計可申候勿論火之用心之義随分大可致候

右之趣惣町中人念可被相触候

正月廿一日 自名記名同例之

一階町元魚町下紺屋町細工町宮脇町西今町

右之町々御出棺之節御見通ニ相成候町々故今日ハ御葬送相済候迄
ハ自身番相勤尤当日ハ右町年寄とも平服町内江罷出御出棺之節
人留いたし随分物静ニ取計可申候

一同心共ハ兩人平服立付ニて掃除改相済見合横町辺ニ扣御葬式相済
候て及承候ハ引取候事此旨平太兵衛申候

一御道筋御作事門ハ会所前夫ハ佐治夫ハ江口前夫ハ蘭田町通行之由

廿三日 晴 御用場

一服部弥左衛門御役筋ニ付当時病氣不相勝勞疫之症積氣強眩暈仕
別且目味氣不メニ相成御役御用向難取計万端無覚束然共当時差

臥候御役御差免之儀奉願候儀甚恐人奉存候ニ付何卒先同役一兩人

被仰付被下ハ、少々保養等も支度奉存候旨口上書差出度相頼候ニ
付鈴木喜右衛門_江於閑談所ニ内意申達候上口上書之受取之扣有之
候

廿四日 晴

一綿実大坂_江積登_セ之節送り手形大年寄三人とも_ハ遣候様ニ申付候
ニ付青木義作_江印鑑差越申候尤追_而此方_江被相戻候様致度旨申出
候手形案紙も遣_ス書翰扣_ニ有之

一美濃職人町_ニ家売式百五十匁売主美濃屋仁兵衛買主杉屋十兵衛

一東新町田原屋嘉一郎弟忠三郎備前西大寺加登屋丈蔵_江後見_ニ罷越
候付人別離願書差出_ス

廿五日 晴

一今日亀菊様御葬送ハ半時有之会所_江透見等之儀随分氣を付様當番
_ハ申遣_ス

一今町辺_江同心_{三舟孫八}差出申候処成道寺之辺又_ハ宗堅寺之辺拜見
柴山伝内

之者余程相見候ニ付繩張もいたし候由支配違之事故伺候為今町年
寄指出申候ニ付泰安寺_ニ取次中_ニ居候付其旨申達取計候_而可
然段申遣し其旨取計事済御葬式無滞大目付中其外引取申_ニ付右同
心共も場所引取相届候付早刻粟田辰右衛門_江手紙を以中遣_ス

一魚住藏人_ハ年頭状到来しとう煙草進物

廿六日 晴 会所御出席

一此度亀菊様御不幸ニ付町方自然と相慎候処_ハ音高_キ細工職之者_ハ
差扣候勿論油米酒屋「一」「一」から白なと_ハ別_而相慎候趣伺出候
得_者先御葬送迄_ハ銘々心得致御申付置候処桶屋なと_ハ最早昨夜_ハ

指支候惣_而同用職分之儀_ハ不相構細工いたし候様為取計之尤粗_ハ
今日与兵衛殿_江も及御沙汰置之

一配当銀之儀去歳之通相請取候旨服部弥左衛門大勘者大橋源右衛門
_江も談候処近々可取計旨相済忠兵衛_江配当_江も申渡置候様申渡置
尤銀札老貫七百目之

一主計殿組村瀬伝平中之町か山屋勘兵衛借屋借同町河口屋与市妹林
田村徳兵衛養女同町紺屋助右衛門世倅重三郎勝南郡木ヶ原村円次
と申者方_ハ養子ニ參候願

一元魚町玉嶋屋安右衛門父助右衛門五ヶ年之間久米北条郡里公文村
平四郎方_江出職願

一新魚町村本屋次助世倅孫八式拾ヶ年計大坂ニ罷越播摩屋源兵衛方
_江罷在候処此度源兵衛引受住居支度ニ付御当地人離除願

一豊国屋十右衛門借屋八助_ハ願下高倉村仁兵衛_申者引請申度旨願

廿七日 晴

一大目付中_ハ廻文左之通

_{半紙}普請之儀_者明廿八日_ハ不苦鳴物停止之儀_者当月晦日迄_ニ而来月一
日_ハ不苦候此段可及演説之旨ニ付如此申候右之趣——

一右ニ付町中_ハ触書出_ス組中同断

廿八日 晴 御用場

一小頭神田権兵衛世倅権七儀兼_而病中ニ付外ニ男子無御座候此度本
多左門殿内石原平次と申者養子ニ仕度願書川端又六_ヲ以差出候
一御服中ニ付大般若御執行五月迄御延引ニ付来二月三日御用達共於
御用場御逢_ニ付内膳殿_ハ被仰渡石名平太兵衛_江申達候

一 大年寄三人座商売之儀已前之通銘々^江御戻し被成御変格已来差出

候齋藤方銀座五枚之増も相止木綿庭座相戻^ル蔵合方玉置方以前之

通勿論唯今年々被下候三十兩、此度^ハ御返上被成候於会所平太兵

衛立会申渡^ス御用席大目付中^ニ著廻動いたし候由

一 孫左衛門方庭座之儀五年之極之処二年分、相濟三年分中絶^ニ而今年

より年限相濟候得^キ又々其節切^メ取計可申旨申聞せ置候

一 歩銀之儀兼^ニ而服部弥左衛門申達置候処是又已前之通^ニ町奉行役^江

御渡し可被成旨御内分有之候由同人被申聞之

一 うをや吉兵衛娘林田上之町甚六方^江養女遣候願

一 船頭町大戸屋七兵衛娘太田村勤兵衛方、

廿九日 晴

一 小頭権兵衛養子石原平次義左門殿倍臣青木儀右衛門へ川端又六被

遣候御構其外不苦之思候哉聞合候処何分可然相頼候旨右儀右衛門

へ御口上有方申来り候

一 蔵合孫左衛門へ川筋運上物通切手之儀近年大年寄三人^ニ而月替^リ相

勤候処此度^ハ孫左衛門一人^ニ而取計候様申付候且又生綿実積下し之

義是又前格之通玉置忠兵衛一人^ニ取計せ候段吉ヶ原江見孫右衛門

小桁御番所^江為知遣候

卅日 晴

一 茅町作人瀧右衛門去^ル廿日頃^ハ以上四人田邑肝煎三左衛門方借次

事^ニ付入込昼夜賄等及困窮候尤三左衛門儀、地所改御用向^ニ付去

頃^ハ留主之儀妻子とも甚致難儀候旨注進申出候^ニ付玉置忠兵衛呼

寄申渡右瀧右衛門為引取可申旨取計方不申聞候処九時迄早速引取

候由注進申来^ル

二月朔日

御用番伊達与兵衛殿
月 番 村山平学

一 無御出席之

一 今夕□□□非人頭手下於綾部村野伏兩人捕^江来^リ此もの申候去冬

加茂した村矢物□□村穢多^{忠三}伊兵衛^右兩人盜取之趣於小屋致回状候

由会所当番村山伝内申出候旨則^メ召捕手段付候得共少々出所不定

候段先今延引右兩人之野伏^{喜四郎}

二日 晴又雨有

一 今日同心吉井榮内石名左五兵衛村上伝内右三人之者目明并非人三

人計召連□□□村へ右之穢多兩人召捕へ為差向候且□□村穢多

喜藤治^与申者も不審有之候事相聞之

三日 晴 御用場

一 今日紅座之儀願書出候処諸座一所に書付可差出旨与兵衛殿被仰聞

候^ニ付大年寄へ其旨申遣^ス

一 藤森権六部屋目付役申付候尤川端又六立合申渡之趣左之通

今般部屋目付役申付候同役申合入念可相勤候尤権兵衛儀病中^ニ而引

込罷有候儀候間諸事兩人氣を付仲間之者共^江も勤弁を加へ相互^ニ

無遠慮申合相勤可申候惣^而奉公人何傍輩和順いたし相勤候義專一

忠儀^ニ候別^而同心組之儀^者日々大切之勤方有之候得ハ平生随分む

つましく申合相勤可申事之たるも無之仲間内方一不和も有之候^而

不忠と申もの此段仲間一統ニ差心得相勤候様ニ兩人分も仲間へ可申聞候

一出火と申候節申迄も無之候得共聞付次第我等方へ一兩輩も駆付追々場所江差急キ可申候町火消之者当役引受之事候間場所ニ手配万端差図うく事候間当番之外人数有「」「」場所ニ罷出随分致出精取計可申候我等ニ付添とても供と申候て者無之候我等引連差図為致候と申もの「」「」無之候得共此段兼而心得違無之様可致候乍序申聞せ置候段申渡ス

一昨夜切紙ニ権六江明三日五時過申渡候儀有之間自宅江可罷出之旨申遣ス且又川端又六江も切紙ニ藤森権六江申渡候儀有之右刻限自宅江可罷出候段申遣候

一昨日差向候同心とも□□村ニ穢多兩人めし捕罷婦先日之野伏式人と一所に今日牢番あつげに申付御所江御届申遣ス

一御蔵元兩人今日御用場於玄関内膳殿与兵衛殿御逢被成村山平学出会当役取扱之直屋市郎右衛門不快不参福永屋藤右衛門病中

四日 晴

一安岡町家売式百目買主村永屋恵助買主下紺屋町吉田屋太四郎

一茅町嶋田松泉娘林田上之町徳衛門養女願

一同町作人瀧右衛門田邑肝煎三左衛門庄屋十郎兵衛取次貸米催促仕度再願差出ス

一昨日召捕来候穢多とも詮儀之為藤森権六江申付目明共かけ野伏とも口を聞せ候処不定之趣にて引取届之

五日 晴

六日 晴

一先達而川戸御蔵江出火之節駈付日「」申付候処此節御米も並之通ニ相成候ニ付最早其儀ニ不及之旨大目付中分先日申聞候付今日大年寄江申遣シ前々之通相心得候様可申旨申遣ス

七日 晴 会所御出席

一茅町瀧右衛門田邑三左衛門重兵衛貸付借物之儀ニ付田地屋敷渡し又ハ元利返済仕候か何分裁許申付呉様ニ願書差出与兵衛殿及御沙汰置則下代神西作兵衛へ申付田邑兩人江筋付候様ニ申渡候右願書相渡し候段申聞ス

一玉置忠兵衛方綿実座之儀「」於勘定奉行所先年御借入三百五十兩末御弁済無「」「」何とぞ今般三人とも座之儀以前江御返し被下候万端御憐愍之上前々通御沙汰被下候様御役外之御歎申上之

一先達而座商売之儀御停止之品々今日書面ヲ以差上置左之通
紅屋蠟座塩座木炭石灰醬油座

一元魚町西屋与吉借屋江林田上之町作人長三郎悴文六引越願

一京町阿部川屋須左衛門屋敷売五拾目同町平野屋次兵衛江買候願

一東新町鍛冶屋勘右衛門土岐領英田郡山口村八十兵衛と申者江借米方ニ一兩年之間奉公出職仕度願

一同町鍋屋義衛門在方質物之儀再願

一二階町三木屋三郎右衛門後家くせ「」願高田くさ屋吉右衛弟権右衛門と申者養子人別「」

八日 晴

九日 晴 御用場

一座商売之外左之通之書付与兵衛殿へ差出ス

鉄 木地 油粕 古鉄 黄粕 鍋釜 紙 紅花 荒苧 煙草

● 玉子 浅実 瓦

右之内○之印ハ和田屋清助●之印ハ豊野屋平十郎●之印ハ田戸屋木屋和田屋三人之

此分卯七月大年寄三人返切手差出し候 而月「御運上差出候様ニ被仰出候之

一右者元来座と申ニ而者なく自然と請込取計候処此度座商売之並ニ書出ス

一塩問屋願魚問屋願出ル

一西今町馬指嘉平治死馬届取捨申渡ス

十日

一此間小屋江連来候野伏藤七宇之助之兩人今日牢番預ニ取計尤兩人儀ハ

先頃下高倉村江這入候者之由藤七「弥這入候 而私ハ外」有 其後万「酒手もらい申候儘」人へ申候得共宇之助「決

而左様之儀不存候旨陳し申候 而「並大目付中江申達右之段

取計申候

十一日 晴

一於江戸表歳暮年頭大年寄共献上物代金書付進物方へ相廻し候付差越候旨田中幸助の書状来ル

一青木義作の來書先達 而遣し候大年寄の綿実積登セ手形並印鑑落手いたし候由申来ル

一京町へ先達 而家越いたし候醫師表に江戸牢人諸用療治井上惟吉房

ト有之由相聞候ニ付大年寄へ申遣し片書相除申旨申渡之

一神田権兵衛病氣及大切候ニ付養子与平治義「仕度川端又六を以伺聞届

十二日 晴 会所無御出席

一小頭神田権兵衛昨夜相果候旨目付川端文六届

一かち場渡し船籍之儀例歳之通申出

一船頭町仁兵衛儀先達 而横山村へ入込 「申者ハ養子内約有之由ニ而」歳「候儀我意を申」及難儀次「右仁助江尋

申付候ハ押 而返候答書出ス書中「心持見候へ共郷町願書不出故父子之儀ハ不取」併横山村庄屋次郎右衛門の皆済状取候由遂

吟味候ハ全皆済状もなく反古同事之物故役所取上以後村方へ入込 権六跡式之儀故障申間敷旨申渡ス

一來 十九日座頭とも罷出申候間十六日十七日之頃銀札御渡し被下

候様配当場願

一□□村穢多兩人村方庄屋へ相渡し追 而尋候義も候ハ、可差出他参等相慎「いたし可罷有段申付先願之趣に取計候

十三日 雪

十四日 晴 御用場

一服部弥左衛門不参之儀届申達ス

一座頭共配当銀札老貫七百目今日三原当分預リ手形御金奉行中江差出候受取大年寄孫右衛門江相渡ス

一下高倉村助「馬盜」這入候届有之「及御沙汰尤右場所江這入候由野伏兩人」可仕旨ニ付及御沙汰御用聞届相濟候ニ付

「取計之儀申達」

一 小頭神田権兵衛死去仕候義乍序及御噲置候

一 近年追々格式御役替被仰付候御礼干鯛七匁五分今日大納戸中へ来

廿三日迄ニ上納義申来候

一元魚町大庭屋善兵衛大坂行届

十五日 晴

一 石名平兵衛今日牢中見廻之上丈助ニ御内義ニて尋申達候書付有之候

一 茅町綿屋仁左衛門家売戸川町福山屋平右衛門買百五拾目

一 大年寄共年始歳暮献上物無滞御披露之处御気色ニ思召候趣江戸表

御奏者下村友右衛門岡村多仲へ書状致来いたし候則平兵衛へ申達

大年寄斎藤孫右衛門ニ両通之来書相渡し例之通御奏者中へ御礼勤

申由

一 鍛冶町才兵衛今日目明ニ申付ル庄兵衛十右衛門仮役差免ス

十六日 晴 会所御出席

一 服部孫左衛門不参

一 石名平太兵衛昨日牢中見廻り之上揚り屋丈助ニ御内分之尋筋人払

ニて申聞七候処申口大旨認与兵衛殿ニ差出ス

十七日 晴

一 藤森権六差免同役又六ニ申渡ス

一 昨日於牢中野伏藤七宇之助又へ無宿太助立帰之穢多仁右衛門拷問

之仕立ニ川端又六吉川栄内両人目明才兵衛ニ庄兵衛十右衛門召連

遂吟味仁右衛門ハ少々水も当申候得共何れも手掛り不相見候口書

取之

一 右仁右衛門昨夜夕口中痛不快ニ付牢番へ相届出候ニ付医師之儀大

年寄とも申渡ス

一 横山村之内惣作高之内元瓦町かねと申女所持之処御年貢滞當時ハ

村請ニ相成居申候へ共作物実のり候得ニ罷越まわり及迷惑候ニ付

指留願様願書差出し候ニ付大年寄へ其旨申渡ス尤村方ニ著作物ハ仕

付候ニ以後実のり候節氣を付及狼藉候ハ、申様申渡ス

十八日 晴 御用場

一 売券紺屋町商人源兵衛売式百拾匁買備前屋定七

一同人売百六拾匁買同町夷屋二郎右衛門

十九日 晴

廿日 晴

廿一日 晴 会所御出席

一 服部弥左衛門不参

「高山村四郎兵衛と申者」丁目林田屋辰右衛門取替銀先達ニ付

納所不相濟処又々此度久世御代官所出訴仕度添翰相願候ニ付先大

年寄とも右四郎兵衛ニ濟口如何致候哉書面遣可申旨及御沙汰齋

藤孫右衛門ニ申渡ス

一 西今町高松屋平兵衛身延参願同町升屋長十郎同断

一 中之町桜屋平三郎身延参一細工町善兵衛同断

一 大津屋とかき屋願内伺有之

廿二日 風

一 神田権兵衛番代跡式世倅与平治へ申渡ス尤部屋目付川端又六藤森

権六へ申渡ス

一 右与平治儀権兵衛と改号聞届

一 西新町紙屋幾右衛門方へ押入村平左衛門夫婦引受願

一 細工町米沢屋瀬助借屋かん小田中村才兵衛方へ引越

廿三日 御用場

一 服部弥左衛門不参断申達ス

一 町方人講旧冬之五人之者共於一宮市中ニ兩度右下河原ニ幸講と申

式刃札五千枚三步銀を以一宮道橋作申願書差出申与兵衛殿御受取

被候上又々御内々ニ旧冬右之者共視河原ニて興行之願書御覽可成

之趣被仰聞則日孫右衛門申付之

一 町医師とも近來何となく場所も忘心得違候哉重キ方江逢中敬義も

薄キ事も有之由尤當時節医師來も少く專ニ相勤候処ハ自然と左様

ニも相成事ともニ存候急度御呵と申ニ無之候得共以來之儀心得違

無之様申付候様ニ於御次与兵衛殿被仰渡候則刻大年寄江申渡候尤

二 三日取計之事ニ談置之

一 町在江御条目御文談ハ前々之通ニ當時之趣引合由尤追加之所之儀

ハ拔差可仕之段及御沙汰大目付中江も同断申置之

一 神田権兵衛今日対面川端又八扇子鳥内藤森権六同道持参一

一 此間風立候間町方廻り等入念候様ニ大目付所ハ被申聞候則日孫右

衛門江申渡ス

一 村山平学ハ今日呼ニ参上人塚大目付構之藪の内竹十三本切候ニ差

出し有之由下目付共ハ藪番長兵衛届候由差掛り取計之儀御座候ニ

付孫右衛門呼出非人番共へ申付若心掛り又々罷越候者も可有之候

間忍置居候ニ召捕候様ニ申付ル

廿四日 晴

一 与兵衛殿御宅江罷越此間御内分御座候講元五人之者とも旧冬之願

書御再見のため持参仕置

一 昨廿三日大目付所ハ廻状御家中之面々不宣手一之義御停止之段

兼而被仰付候処色々之名目を付一勝負之類相聞候儀ニ付此儀相

慎候様ニ可申候之旨之文段則日同心組其外江も廻文差出ス扣ニ有

之候

一 荻田屋次七郎甲州身延参留主中ハ林田町年寄頼置

一 売券式百拾匁之買船頭町舟持次郎兵衛売小性町作人助三郎

一 売券百四拾目之買西新町作人平四郎売林田町小山屋治兵衛

一 売券百九拾目買上紺屋町灰屋善右衛門借屋徳守社家小林権之進江

売堺町檜皮屋徳太郎

廿五日 晴

廿六日 晴 会所御出席

一 町医師之内重キ御方江対し於途中あしたなから義一ニ及候旨心

得違候条御呵と申以後無之候得共以來之儀申聞キ置候様与兵衛殿

より服部弥左衛門へ御沙汰有之由噂申聞候

廿七日 晴

一 先達ニ久世役所ハ添翰申來候高田塚吉屋市郎右衛門ハ河辺村触十

一 ケ村借請證文裏判御郡代井上弥兵衛御代官田中次左衛門銀置

一 「連判有之今般右之銀三拾貫之処濟」一拾貳貫九百目ニ返濟ニ付

戻り證文一印惣体相濟候

一 浜野屋七兵衛鳥羽屋和助会所^江 呼出勝部村藤左衛門丈助妻子とも
在方親類預申付候間其方とも儀^キ 丈助請人殊更縁家候間在方之
面々無懈意山林田畑等迄心付遣候様ニ申渡候

右立会^昇 藤森権六藏合孫左衛門斎藤孫右衛門茂渡市右衛門之
町々年寄三人五人組出^ル

一金嶋兵七不叶養生相果之届

廿八日 晴 御用場

一去^ル 廿三日与兵衛殿被仰聞候旧冬被御取上万人講願書翌日差出置
候処段々御評義被候上此間御受取成候一宮^ニ 幸講御取上無之旧冬
差出之視河原万人講当春中興行可仕旨被仰付之尤右幸講願旨大御
目付所^ル相戻^ル 則日大年寄へ申渡^ス 於会所右講元八百屋
しけ屋今屋五人^ノ者^江 申渡候由

廿九日 晴

一 玉置忠兵衛^江 申渡左之通会所^ニ 扣有之

綿実座之儀去^ル 卯歳之通^ニ 被仰付^ニ 老本^ニ 付運上式匁ツ、相納

可申内巻ケ年銀式十匁相納候様先年三百五十匁調達之儀右綿銀
を以追々濟口致候様金主^江 も及内談当時御上之御時節随分心掛
濟口いたし候様之趣之且別^ニ 弁書相渡し置^{担当年^ノ三ヶ年として}
之儀も可被仰付候旨^ニ 又其節申出候八ヶ年^一迄
勘定所引合申渡置候

一 久世御代官所手代 川村三郎治 安田長右衛門
小林 善助 中山林右衛門 合来書

菊屋清左衛門儀綿実請負唯今中付候処又々当年^ノ年限改候^{申付}
迎候^ニ 付久世^江 右^一 證人同道印形持参いたし候様申来^リ 右返書
遣清左衛門へも其段申付之

一 町医師之内へ大年寄^ノ 演達御勘定奉行中支配之医師松山寿軒芥子
之間中之内へ無礼いたし候由尤けた扱はき居候節之事之由ニ付御
勘定奉行支配之大小役人へ逢る之心得尋候処大役人へ芥子之間中
ハ下座御年寄中へはな緒之礼小役人^江 御年寄中以上^{下座}之由仍
之以来此^ニ 准し右之面々^ノ 相心得しかし病氣之節左様^ニ 難相成候
間其儘^ニ ても不^一 可心得様申渡有之由仍之当支配之内へも其
旨を以演達之儀孫右衛門^江 申渡^ス

一 一昨日申渡候万人講元方^ノ 来月日限伺且建札之儀書付差出^ス
一 安楽院願不動堂北之方^ニ 石松院折禱所^{三間半} 建立仕度之趣御城^江
足代おろし候願差出^ス

一 京町鍵屋与平治旅人宿屋株同町加茂屋和六へ讓願
一 勝間田町角屋太郎右衛借り同町福音屋五郎右衛門貸^シ 請返し願
一 御代間^{下代} 妹尾権六丈助へ下札扣尋^ニ 遣し^一 旨同心藤森権六差
添遣^ス 浜野屋方^ニ 有之差出し罷帰^ル 先印石丸敬吾当印^{権六} 相対^{権八}

卅日 晴

三月朔日 晴
御用番 佐々木内膳殿
大御目附栗田辰右衛門

一 会所御用席三木甚左衛門当病不参服部弥左衛門外^ニ 用不参上田喜
十郎出仕度
一 此間伺出候万人講日取之儀来^ル 廿二日^ニ 相極建札遣^ス 御両所^江 申
達^ス

一藤左衛門_江先達_而綾部村へ入込候儀_而同心川端又六潜_に遣し申候
其外_ニも逃候成沙汰相聞候事宇兵衛聞繕_セ候様今日御沙汰被成候
付則日右又六へ申付牢中へ罷越藤左衛門_江再聞候儀申付_ル
一安樂院地内_ニ石生院祈祷所之儀御沙汰大目付栗田辰右衛門_江申達_ス

一西今町紺屋太郎兵衛方落牛鹿

二日 晴

一東新町山内屋藤右衛門妻娘京都東寺参

一同町裏屋与七郎参宮

一伏見町辻屋六郎右衛門大坂登

一福渡町理左衛門只今迄伊藤内藏組相勤候処前名桑嶋伝次_与申候処

病心_ニ付番代家内三人町人別入

一同町和助_与申者吉永清左衛門長屋引越

一久世御代官所_江返書扣_ニ有之候

三日 晴

一節句礼勤

四日 晴

一西新町富倉宗也悴和助_与申者当年_台三ヶ年之間大坂_江勤_に罷出候

趣願聞届一東新町山内屋藤右衛門妻娘川筋通手形遣_ス

一入牢藤左衛門へ同心川端又六遣し尋候趣大旨左之如し

五日 晴

一金嶋栄治番代国七跡式目付之

六日 晴

一今朝新魚町い、の屋横町魚屋久四郎借屋五兵衛と申もの方火燒_台

失火候得共早速近辺駈寄消留尤多分之儀有無之他行掛り合候_ニも
不及趣孫左衛門_台申来会所当番_台も申越早刻大目付栗田辰右衛門

_江申遣之御用番中_江著_{不及}御沙汰之旨端書_ニ申遣_ス

一部屋目付共_台も致演達承置候

一讚州金毘羅願参之願追々申出候由孫左衛門申出_ル願書_ハ追_而可指
出之旨申遣候

一金嶋栄治儀今日对面部屋目付_{川端又六}藤森権六_{同道}尤前格之通扇子等持参
尤明日_台会所見習_ニ可罷出候旨申渡_ス

七日 晴_{夕雨}会所御出席

一船頭町仁助禁足差免申渡_ス

一元魚町藤の屋多右衛門桶屋町売家百六拾目買主常右衛門

一戸川町長ハ安岡町引越願

一重屋理右衛門親忠六四国遍路

一豆腐直段拾文_ニ相願及御沙汰置

八日 晴

一同心神田権兵衛今日_台出番

九日 晴 御用場

一唯今迄牢番預_に申付置候者とも今日伺相濟左之通

目明ともへ申付召捕候以来遂吟味候

へとも旧悪之儀_ニ付此度以憐愍追払

無宿 大助

非人頭とも連来候_ニ付遂吟味候処

野伏

為指不届も無之ニ付非人頭へ申付相渡ス

喜四郎
宇之助

作三「」

「」頃盜賊ニ被誘落杯に不届

野伏
藤七

参候儀白状ニ付其儘牢番預置候

一此者立帰り者ニ候間死罪之者ニ

穢多
仁右衛門

候へとも以憐愍差免追払申付候以後

於徘徊者可為曲事旨書付を以申渡シ

一大信寺見世物建札之儀寺社取次伊達金右衛門が被申聞候則日大年

寄へ可然取計候様申渡ス

一藤左衛門丈助尋書ハ与兵衛殿へ差出置之

一東新町くま屋清兵衛多胡勘右衛門江入貸米百六拾俵再訴差出ス

一三室屋宇左衛門高野山参願出ル

一銀札場御奉公中が服部弥左衛門江通用之

来ル十六日新札通用仕候義与兵衛殿申達相濟之何之町分江大

年寄へ直に相渡し申候郷中江員数何ほと差出し可然哉之旨当役所

江聞合有之候間今日弥左衛門江申談し候上来ル十二日肝煎十人札

場江罷出相受取尤手形差出百拾ヶ村へ為見置耆ヶ村へ耆奴札式分

三分札三枚宛ニ為請取一見相濟地方目付へ返「」又夫が相場へ肝

煎「」へ返納手形引替候様ニ可取計旨地方目付ともへ差紙遣ス

〔附紙〕

大札ハ下地有来リ之札ニ押懸判相加へ申候間大札所持之面々来

五月晦日迄ニ勝手次第銀札場江致持参押懸判請可致通「」

一大目付中が新銀札通用之儀廻文出ル左之通

今般銀札式分三分耆奴札新札相改来十六日迄ニ通用候尤是迄通用

之銀札取受可致通用候右之古銀札通用相止候儀候来ル九月十月頃

ニ至り可申触候夫迄新「」乍取無滞可令通用事但古銀札引替歩錢

一大目付中が廻文左之通

来ル十一日 光円院様二十三廻御忌ニ付於泰安寺御茶湯被仰付候

此段為相知候様被仰出候

右之趣同段

一今日御伺申上候牢中之者とも追払「」仁右衛門御境目例之通

取敬古城村庄屋左次兵衛一札取之罷帰藤森権六此外目明弘無宿非

人預野伏無滞相濟候御届御用番大目付中江手紙遣ス

一金嶋榮治今日が出番

一同心組之小頭申付候事之内延引仕候段尤頃日藤森権六が内分之儀

ニ付無抛存寄ニ付今日大目付非番鈴木喜右衛門へ対談於別間内噂

申置之去ル七日於会所与兵衛殿へも及御内達置之

十日 晴

一土井官左衛門村瀬八兵衛が手紙今般新札鑑町分大年寄へ相渡可申

旨申渡呉候付通用「」

一明十一日於泰安寺御茶湯料被仰付趣町分為相触候

十一日 晴

十二日 晴 会所御出席

一町分人別改帳今日郡代所へ相納候左之通

惣合七千九百九拾壹人

内女三千六百九拾壹人 男四千貳百三拾五人

医式拾六人 針医拾三人 社男三人

神子貳人 山伏拾壹人 座頭四人 尼六人

□□□非人頭支配別紙ニ出ル

惣合貳百六拾七人

内女八拾三人 男九拾三人 但小屋之分

残 九拾壹人 内内三十七人 男五十四人 但在中一並野伏とも

一林田町山本屋与三七川辺元触井口村へ貸付百一尤三月切證文別

書写し出る筋立候様ニ郷中一目付植月新右衛門へ申渡之儀与兵

衛殿へ及御沙汰之

一京町塩屋新兵衛大社参

一堺町豆腐屋次助売家貳百八拾匁買主小性町一川屋重三郎

一吹屋町紙屋次郎左衛門ばく上西国

一材木町年寄東屋源兵衛老年付世倅和助名代願

一二階町阿賀屋文五郎大坂行

一西新町かさ屋与三右衛門家売貳百七拾目買同町安永屋宇一

一材木町三家屋幸三郎出坂願

十三日 晴

一於会所ニ三木甚左衛門拙者岸権并日六下山同石名平太兵衛下代

神西作兵衛罷出勝部一藤左衛門丈助書物類致吟味候書付別ニ有

十四日 雨

一先達 大年寄も取置候配當場渡し手形内借ニいたし置仮手形今

日齋藤藤孫右衛門へ返達候

一ひめし屋甚五郎儀例歳之通見尾築瀬一申付候間指越候様備中風

祭合役人中真嶋郡一出役所合申こし候ニ付今日遣ス

一林田町山本屋与三七訴状再證文写し今日植月新右衛門へ相渡ス

十五日 晴

一昨日出郷ニ付町分取計等有節ハ諸事平太兵衛江申聞置候御用所伺

候儀等ハ勘定奉行中又ハ大勤者中ニても申談候旨内一申上置粟

田常右衛門江も中達ス

一上紺屋町原田屋演五郎近江朋友相撲為一地江為仕度尤他所ニ付

一切入不申迄追而他所相撲入込候ハ、其節御断可申上旨一場所

之儀ハ追而可申旨相願内膳殿へ申上御受取置之栗田辰右衛門江も

申達ス

十六日 晴

十七日 雨

十八日 晴 七ッ時合雨

一拙者在出役ニ付町分之儀十九日合相勤候儀且大鼓為打候儀御

勘定奉行服部弥左衛門合及び御沙汰之並植月見世物いたし此間大

目付所合頼ニ付弥左衛門合及び噂之一今日廻状大目付所合出候ニ

付写左之通

来ル廿三日於硯河原万人講有之候其節一群集候間右之場所へ役

介并下々迄不參様一心得火之元等人念可申付旨可申達候御用所

「差函ニ付如此右之趣同役——」

一公料他領において見世物有之由粗相聞へ兼而他領へ無断猥ニ參聞

敷旨被仰聞尚又妻子不及申下々迄堅不「」様可申付之右之趣同役
中——

一近々於西新座見世物有之右之場所へ自分并妻子ハ不及申下々迄参
候儀御停止之事ニ候若まきらわしき体ニ罷越候者有之候ハ、急度
可被仰付候目附之「」無用捨申出候様申付置候此旨町被得其意候
右之趣同役並——

十九日 晴

一細工町宇兵衛家売百拾匁買主同町貞助

一橋元町善兵衛納屋一ヶ所——へ売渡之儀願書再手形裏書遣ス

一視河原万人講廻状差出ス

廿日 晴

一芝居寄札五十三枚 同七 石名砂兵衛 中山伝内

下代 神西作兵衛

同七 神西作兵衛

一明後日講場見分 同七 川端又六

廿一日 晴 会所御出席

一講元共々役人書付差出ス尤出役之儀「」御沙汰之御貸人御貸馬之

儀栗田辰右衛門へ申遣ス御勘定奉行服部弥左衛門へも同事遣ス

一大鼓今夕明朝打候儀御両所江申遣ス

一堺町作人金藏売家式拾目買西川遣「」

一坪井町大はが屋伝右衛門後家養子ニ久米中北村幸助と申者呼寄親

ハ幸右衛門

一丈助道具之内三拾年賦證文今日金井伝七へ渡ス岸権六出合三木甚

左衛門引合

一同人懐中もの改候処借物書付有之

一講場へ明日同心組之内当時小頭無之候得共目付兩人候間 川端又六
藤森権六

之目付江兩人申合心を付相勤候様ニ申付ル

一芝居七十五枚 川端又六金嶋榮治林円平

廿二日 晴

一万人講視河原ニて無滞相濟出役上田喜十郎大沢三平御徒目付荒井

安左衛門中沢与右衛門尤当役筋ニて石名平太平衛下代神西作兵衛

罷出ル大年寄斎藤藤孫右衛門地方目付植月新右衛門

一右場所引取御用番佐々木内膳殿江喜十郎拙者一所ニ御届申達ス大

目付栗田辰右衛門へ連名ニて届申遣ス

一寄札高三千七百五十七枚

此銀札拾八貫七百八十三匁 内五貫六百三十五匁五分

残拾三貫百四拾九匁五分 三歩引

六十番ニ割

三十番 壹貫八百七拾八匁五分

六十番 三百七拾五匁七分 間々百八拾七匁八分五厘

一残り錐式十九本有之由

廿三日 晴 御用場

一内膳方御不快ニ付六左衛門殿御月番ニ相成候

一他出郷之儀及御沙汰候留主出火之節ハ諸事平太兵衛江談置候

一去ル十五日内膳殿へ及御沙汰相撲地取之儀「」日御聞届相濟尤日

取場所旁之儀追而可申上由六左衛門方へ被仰渡候則日大年寄とも

其旨申渡^ス

一元魚町いせ屋長右衛門悴登坂

一福永屋義三郎^ハ口入土井宗内^ハ貸渡し元川辺触村々^江三月切證文

候^ニ返濟無之及難儀候段願書右義三郎^ハ差出之證文写し^ニて受取置候

一三町目組屋伊助所持之他国受酒株二階町組屋太兵衛^ハ譲^リ受候願

聞届

一残り錐渡し川端又六中山市左衛門罷出候

一芝居式百五拾枚藤森権六室井政伏手寄^ハ林円平

廿四日 晴

一今日出郷

一西新座芝居出火有之石名平太兵衛罷出場所取計尤今日出役御従目

付^ニ荒井安左衛門 同心 吉井栄内 神田権兵衛 郡代足輕林円平各出火^ニ付

取計断書文段左之通

御断申上候事

一今日芝居相仕廻切太鼓打之儀煙草火落居之哉芝居楽屋^ハ出火仕候

付御断書付指上申候以上

午三月廿四日

小田中村庄屋

新兵衛殿

右之通吟味仕候処相違無御座候以上

林円平殿

一同心組之内今日出役兩人^ハ断書^ハ同文言^ニ勸進元^ハ直付之宛^ニ書

付差出^ス

一町奉行所^ニ勸進元請人兩人^{ヨリ}年寄宛例之通大年寄諸吟味奥書届之

一右火事之様子刻限七時半時頃之儀芝居小屋楽屋焼失見物溜之上^ニ

残^リ木戸表折屋惣目大勢防候ゆえ棧敷も相残り候十王堂^ハ火消方欠付早速消留候三平出郷^ニ付御勘定奉行も服部弥左衛門引受故平

太兵衛^ハ同心共大年寄とも罷越相届^ル弥左衛門御用番六左衛門殿

御届^ニ伺平兵衛儀^者大目付栗田辰右衛門^江罷越相届^ル件之趣^ハ

出郷先中村中嶋多右衛門宅^ニ追々相聞之尤弥左衛門^ハも通用且又

足輕林円平^ハも注進書状到来

廿五日 小雨

一郷中^ハ帰宿六過時六左衛門殿^ハ栗田辰右衛門^江相届^ル服部弥左衛

門^江立寄西新座出火之儀取計致候儀及挨拶

一勸進元重右衛門儀追込申付候段弥左衛門^ハ平太兵衛内談被申聞候

上六左衛門殿^江被申達候

一芝居役者共儀^ハ猥^ニ徘徊不仕候様^ニ可申渡旨大年寄孫左衛門^江弥

左衛門^ハ申付有之候

一残り札追々相渡し今四本残り候由

廿六日 雨 会所御用席

一町方御条目御文段御潤飾も可被成哉先年郷中御条目も御評義之上

相改候御用番佐々木内膳殿^ハ御渡^リ被成候例も御座候儀も申上候

処何も其場存寄も有之^者申上候様^ニ六左衛門殿与兵衛殿^ニも被仰

通^ニ差上候^ハ御評儀も被成御流削も可被成之旨被仰候

一二階町村元屋惣兵衛登坂

一 於直様於秀様明日四ツ御供揃二院庄御茶屋被為入候旨御通り筋田町通り西大番所一通り筋二宮原へ御掛り被成候段馬場喜内一手紙來ニ付同心組大年寄へも申遣ス

一 東新町黒田岐庵老年病身ニ付悴了卜一相改医療仕度願

廿七日 雨

廿八日 晴 御用場

一 勸進元追込差免並役者もの勝手次第差帰候様申渡ス一尤其段寺社取次伊達金右衛門及通用是ハ今日大信寺一差扣免被申渡候上勸進元儀も申渡し有之候由乍去当役支配方之もの故及御沙汰置差免一別一取計候尤芝居もの儀一寺社奉行中一被仰渡之趣此度火難他所もの、儀甚不便ニ被思召候得共残日跡芝居之儀ハ御用届難被成候併大信寺儀一為修復ニ付願候間春中外芝居相願候ハ、御聞届可被遣之趣之

一 新魚町平田屋小七郎一兄勸助夫婦弟七太夫夫婦久世村千渡せ屋仙助方へ引こし人別離

一 東新町鍋屋儀右衛門旅人宿屋株いなは屋一請

一 中之町三室屋宇左衛門方へ先達一而滞留いたし罷在候備中かも大庄

屋片山忠兵衛役介新兵衛夫婦秋迄滞留願

一 上紺屋町原田屋浜五郎相撲地取之場所二宮地内借受日限来ル四月六日一之願

一 万人講之手段与兵衛殿一三木甚左衛門三平申合諸事メリ物入減候一而年々三度ほど興業いたし寺社或ハ郷中無抛入用其外にも或ハ会

所ニても預リニいたし置候積ニ相心得何分役人を正し小手前ニ相成候致方可考旨被仰聞候ニ付今日甚右衛門一相伺於会所一岸權六石名平太兵衛一及内談外寄一候ハ引受為計候様ニ申談ス一但此面々ハ下内試之為間及御沙汰講元ニ付請込ト申儀ニても全無之候押へ抱之儀ハ甚左衛門三原兩人一取計候様ニ与兵衛殿被仰候趣之

廿九日

宝曆十二年

町奉行日記

四月壬四月五月六月ニ至ル

大沢三平

四月一日 晴

御用番 大熊六左衛門
月番 鈴木喜右衛門

一 今夕七時頃近藤弥十郎宅失火有之明六一時過近辺駈寄消留申候町在一ハ不相知候尤式人潜ニかけ付申候馬も參候へとも出馬一不及平服ニて大目付中一罷越及沙汰候同心組も一兩人罷越ス

二日 晴

一 今日出郷日帰

三日 御用場

一 中之町三室屋へ 国助と申者罷越候由大年寄迄申出候ニ付承置

一新魚町平田屋小七郎兄弟兩人夫婦久世村千渡せ屋へ引越人別離

一 西新座^ニ又々大信寺願^ニ芝居御聞届有之候由

一 上紺屋町^ニ願地取相撲二宮社内^ニ今月六日初日^ニ興行仕度旨願書

及御沙汰大目付所^ニ達^ス

一 大信寺芝居建札之儀六左衛門殿^ニ御沙汰御座候大年寄^ニ申渡有之

四日 晴

一 鈴木喜右衛門^ニ罷越大信寺再願西新座芝居願相濟候ニ付先達^ニ而火

事ニ付追込申付候勸進元米屋十右衛門又々勸進元ニ相伺出候て承

届可遣と奉存候故ハ先般出火之儀ハ座本之不悉と相見候ニ付外芝

居候段寺社方へ被仰付候程ニも奉恐察候外ニ名前出し候者も無御

座諸向故障も不相聞候処彼是之意味等も如何ニ御座候間一旦御

答候事濟候間外芝居相替候条日不取計ニも被思召候へ筋立可申且

御取計被成候面々へも出及仕候事ニ候へハ一通り得其意置候間申

上候処委細致承知者をも有「」事之由被申聞之

一 京町二文字屋善兵衛伏見町小田屋伊平治登坂

一 京町吉田屋喜八金平参詣願

一 桶屋町瀧元屋平四郎家売五十匁買取人同町作兵衛

一 桶屋町六郎左衛門娘はな売家式百五十匁吹屋町作人長七買

五日 雨

六日 晴

一 西新座大信寺芝居勸進元米屋重右衛門を相頼候ニ付願書差出聞届

一 京町国屋^ニ撰州^ニ左之面々宿致呉候様ニ福井安左衛門^ニ相頼申^ニ

付宿仕候段相届^ル

中筋村 同村

小池定次郎 森田武右衛門 同丈助 中村七右衛門

池田村 初口入脇浜村 三橋三十郎

刀屋伊兵衛 升屋甚助 赤坂国助

右之内赤坂国助ハ去^ル朔日ニ着外ハ四日ニ着いつ方^ニも御沙汰

無之候ニ付断書申付為「」候

一 西新座芝居明日^ニ初め申候付今夕^ニ太鼓打七度旨伺出御届^所江

申達^ス則申付^ル

七日 雨 会所

一 講銀之事此度之分銀札場^ニ相納^ル内纒^ル之出銀ニ御座候間何とそ兼^ニ

申上置候町方取計ニ引請之者とも御会釈も被下候様尤初年三人^ニ

発起人迄ハ銀式拾枚^ヲ被下候其以来ハ無御沙汰候^ニ拾枚又ハ五枚^ニ

ても多少勸弁御沙汰奉存候段尚又弥左衛門^ニも可申上偏御咲申

上候^者今日与兵衛^ニ申上候処御考可被下趣被仰聞之

一 魚問屋之儀六左衛門殿へ御評義可被下哉之趣御内聞申上置之

一 油屋与市若松屋七兵衛貸付候もの先訴之趣及催促候得共不相濟候

ニ付今日追訴差出^ス

一新魚町魚屋長右衛門弟長兵衛父子此度高田村さと屋喜兵衛と申方

へ為渡世引越人別離

一茅町吹屋甚左衛門備中山手村へ治療に罷越申度願

八日 晴

一札座土井官左衛門村瀬八兵衛少手紙到来広瀬加治場土橋取払之儀
弥昨今両日引払申候

右先達^而御届可申処少々間違之儀有之此間及延引候由申来り及返
答則刻加治場舟渡し候儀玉置忠兵衛へ申渡^ス

一神田権兵衛此間不快引込罷在候儀^ニ付殊更母之兄弟不熟之様子も
相聞候条目付川端又六藤森権六呼寄打寄及内和候様^ニ存寄申聞之
一二宮内地取相撲興行同心中山市左衛門見物之立に遣^ス及変儀候
へ存寄取計候様^ニ申含遣^ス無別条引取

九日 晴 御用場

一鍛冶場橋舟渡し^ニ相成申候旨御宿申達^ス

一京町味噌屋理左衛門上京

一元魚町八百屋七郎左衛門万人講願出於御次与兵衛殿へ及御内分候
処御席へ可指出旨及御沙汰候御請取被成候

但此度之願講之儀、与兵衛殿の三木甚左衛門へ内談御座候旨三
平へ相談之可然考弁付講元、宜き者へ申付随分入用物も相減し
させ当暮より三年之間致興行右之集銀を以寺社方其外^ニても御
指図次第相納候様^ニ致し相続いたし候様御内分有之候得共兩人
了簡^ニも難及候^ニ付岸権六下山官太石名平太兵衛三人^ニ為委候
^而諸事及吟味候上相究^メ今日願書差出^ス
一二宮^江同心藤森権六差越候処無別条引取申候無滞今日切^ニて相済

一芝居八十枚室井政次吉井栄内

十日 晴

一芝居百式拾枚中山伝内石名左五兵衛

十一日 晴

一神田権兵衛快今日出勤

一六左衛門殿の呼に参御用之儀有之与兵衛殿御宅に御越候間あれ^江
罷出候様申来^リ早刻罷越候処御列席^ニ而六左衛門殿仰渡候^者此度主
計殿御懸^ニ而撰州町人とも之内銀子調達之儀^ニ付町分在中之者之内
見付^ニ而貸付候趣委細之儀、栗田辰右衛門懸^ニ相成居候間承り取計
等之儀可申談旨与兵衛殿^ニも御一所に被仰付候尤今晚服部弥左衛
門宅^江右町人とも之内罷越候間及対面候様被仰渡弥左衛門も手
紙参其節上田喜十郎も罷越候^而三人一所に相応之挨拶いたし候様
此儀、辰右衛門申聞候由申来^ル則今晚弥左衛門宅^江喜十郎三平
罷越右町人森田武右衛門小池定次郎参坂口屋伝助同道一通り対面
^ニて為帰候平服袴羽織尤武右衛門と申者、明日出立之由

一芝居百三拾枚金嶋栄治川端又六

十二日 雨 会所御出席

一今日会所^江大年寄三人相集^メ平太兵衛^江委細申談候様^ニ申聞昨日
六左衛門殿の被仰渡承趣又々栗田辰右衛門^江今朝呼^ニ参町方之者
とも借受之證文下書^并人数帳面被相渡印鑑取候^而一旦撰州^江持参
弥調達^ニ相決し候者本證文遣し右之者連判いたし遣し候へ、右印
鑑書へ引替相返し尤札元共儀名字付候事、銀主不好候事^ニ付並之
通^ニ屋号^ニて差出候様^ニ相決候

一 今夕玉置忠兵衛^三撰州町人之内森田丈助小池定次郎且又赤坂国助

罷越右印鑑取之面々之内名代ながら判元及見候山手屋草津屋三室

屋伊丹屋杯罷越致印鑑し内々申付置吸物盃付出^ス

一 山本三右衛門儀、湯原^江罷越候ニ付札元共々飛脚ヲ以印形差越候

か又、罷帰候か否得承申遣^ス併判元見共、相揃不申一兩人、追^而

切紙^三印鑑被差越候^而も可相済由申候

一 調達相済候節、町方之者へ通り證文被遣候儀ニ奉存候旨与兵衛殿

へ申上候処御承知被成候由被仰候

一 撰州之者 森田武右衛門 刀屋伊兵衛 家来彦人 出立届

一 こん屋町大工勘兵衛登坂願届

一 若元屋勘兵衛在中へ米銀貸付之儀訴田辺村六郎右衛門取次済口不

埒ニ付又々申出候

一 材木町大工平助娘まつ去^ル二日夜家出ニ付段々相尋候処内山下矢

場中間四郎兵衛倅長四郎^与申者連出候由此まつ儀類家^江縁段約諾

候儀ニ付申分難立候ニ付無撓義絶今日服部弥左衛門^江及通用置候

十四日 晴 御用場

一 此間御請取置候八百屋七郎左衛門万人講願書御聞届被成候旨可申

付旨御用番六郎左衛門殿被仰渡候大目付鈴木喜右衛門^江も申達^ス

一 此間申出候材木町大工平助願之儀先願下し仕度旨藤森権六内分申

出候ニ付其旨服部弥左衛門^江も及通用今日之御沙汰及延引候

一 撰州町人相残候者出立之旨相届^ル

一 山本三右衛門湯原^ハ印形飛脚へ相渡取帰候由

一 去暮当年頭大年寄とも^ハ献上代銀相納候ニ付今般田部幸助へ書状

差越申候 六十七匁五分

一 浜野屋さと家質うけ返し済

一 例年之通一ノ宮市町田植祭り当日たりとも彼之地へ參候儀文段扣

ニ有毎歳之通之御触書出^ル

一 当春講三步銀入用引残壹貫六百八匁^ハ八百屋七郎右衛門^ハ書付出^ス

十五日 晴

一 山本三右衛門湯原^ハ飛脚へ差越候印鑑栗田辰右衛門へ差越候

一 芝居百八十五枚 中山伝内石名左五兵衛

十六日 晴 会所御出席

一 今般被仰付候万人講建札之儀御席へ申上鈴木喜右衛門^江も申達^ス

一 一宮市町同心組^ハ銀札六分相渡し賄ニ不付候事尤歩銀町奉行所

江御渡し被成候得^者御勘定組^ハ相渡り不申候^此此^ハ先年村山左

儀申立候御聞届^ニ而其役所^ニ而^計計^候候^様様^ニ被仰渡候^ニ付別銀を以為計候事之^仲仲^ハ同心組^ニ賄料無

一 御徒目付下目付^ハ市町引受^ニ賄いたし候様是^ハ古格^ハ引付去^ル寅

のとしの例ニ取計候段今日鈴木喜右衛門へ申達^ス尤卯之年^ハ去歳

迄^ハ六分ツ、弁当代受取候へとも甚指支候ニ付今年大目付所^ハ願

之趣ニ申入候三木甚左衛門服部弥左衛門へも申談右ニ相究^ル

一 郡代下代も市町入用引請賄之

一 郡代市中ニ一度罷越候^者下代ともニ地方賄之

一 追廻^ニ玉置忠兵衛方水車場此度綿実油絞^リ候ニ付此場ニて今日^ハ

車相初メ申候

一 一しは百五十枚川端又六金鳥栄治

一中之町わら屋藤吉借屋長兵衛妻四国扁路

一百三拾五枚権六孫八

十八日 晴 御用場

一今朝牧新藏儀御呵蒙仰候ニ付其旨為知申来早刻御勘定奉行中へ手紙を以先不快ニ付不參之御断相頼且新藏儀右之

(御藏方添役被仰付候処心得違取計候
以御憐愍御徒格被仰付候相懐罷在候様)

此趣外ハ相聞候間栖之儀甚恐入奉り指扣可申哉否何分宜御伺大目付中迄御内談ニ呉候様ニ申遣候処追而申来候伺候而可然之旨鈴木喜右衛門被申聞候由ニて伺申候

処追而伺之通指扣可申旨服部弥左衛門上田喜十郎申来り候

一坪井町そは屋和助銀札場足輕ニ奉行中ハ被申渡候由石名平太兵衛

江和助相廻候由平太兵衛噂ニ付慎ニ内如何候得共此もの儀ハ上り

屋ニ入候丈助請人ニ付先達而かつ部村丈助役介ニて郷中親類もの

一所に申入候様ニ預置甚懸り入候之者ニ候得而追而丈助義ニ付

「」而其訊黙候而ハ町奉行所へ御咎かかり可申か殊更町内人別不離

不申様ニ相成候儀何分規難「」れ可申様平太兵衛江及挨拶候処今

夕服部弥左衛門江罷越一已之存寄ニ其趣及内談候得而尤之儀ニ被

存則玉置忠兵衛江申付明日人別離願ニ可申旨申付候由又々平兵衛

合尊度候

一百十五枚神田権兵衛中山市左衛門

十九日 晴

一音羽屋和助願書人別離之儀且丈助請人ニ悴除外之申出候由文段

ニ粗銀札場足輕ニ召抱難有奉存然ル所田口丈助請人ニ相立居候処

悴へ立替申度田口和助と改号仕候依之町人別差除呉候様ニとの趣

之弥左衛門ハ通用有之

一下紺屋町八左衛門一之宮市町へ參懸り十三人連見世物興行ニ付罷

出世話仕呉候様神主ハ相頼候付願書出ル

一しはい七十六枚藤森権六三舟孫八

廿日 晴

〇八十枚権兵衛市左衛門

一今夕鈴木喜左衛門ハ切紙来差扣御免被成之旨明廿一日ハ出勤仕候様可申達旨御用番ハ申来由申来之

廿一日 晴

一今日出勤鈴木喜右衛門ハ聞合不殘廻勤

〇四十枚政治栄内

廿一日 晴 御出席会所

一今日出勤喜右衛門ハ案内ニ罷成廻勤仕方聞合不殘相廻り候

一西新座芝居四十六枚今日切之処加日願相濟候由米屋重右衛門相届

ル大年寄ともハ右申出之

一小見世物拾式人連之儀及御沙汰之

一此間差扣之内火事參詣服部弥左衛門引請

廿二日 晴

一芝居四十五枚石名左五兵衛中嶋伝内

一

廿三日 晴 御用場

一芝居 川端又六

金嶋栄次三十枚参

一材木町大工平助先達而差出候去ル十二日日記有之候通尚又弥左衛

門江も及通用御席へ申上勘当義絶願御聞濟而服部弥左衛門江も相手方御中間四郎兵衛江差出之口上書之趣被及御沙汰候文段大底私忤長四郎当年廿五歳罷成申候然此度材木町大工平助娘まつと申もの取入候連出かくし置候二三日以前私用江連帰候御扶持頂戴仕殊江内山下御長屋罷在候得御上へ対恐入其儘難指置追出勘当仕度此段御聞置候可被下候御仲間四郎兵衛かや町作人市右衛門小頭部屋頭中

一 右義絶勘当願大目付所江差出し候処為写申候而返達相受候

一 音羽屋染蔵和助与改号

一 廻状大目付所江来ル文段扣ニ有之

公領見世物御仕度之処不慎之族有之由之趣之則日組中へ相触ル

一 今朝川上又左衛門松山七左衛門飯田忠左衛門並原田善蔵永之御服出申候由

一 今日田口丈助藤左衛門兩人永牢申付候事ニ依而丈助妻子先達而引受させ置候浜野屋十兵衛音羽屋和助呼出シ右妻子儀ハ追払ニ相成候段会所江為出合候勿論同心三木孫八 藤森権六古城境目迄差添一札取之郷中之取計故郡代日記に有之候

一 播州青野江拾式人連之度才文参り懸り下紺屋町八左衛門願

一 大坂江三人連之小見世物勸進元願小性町引受人米屋助三郎願出申

候

廿四日 雨

廿五日 晴

一 芝居式拾枚余中山市左衛門 一宮 中山伝内 神田権兵衛 石名左五兵衛

廿六日 晴 会所御出席

一 一宮江参か、り之七八人連之からくり見世物神主方江願相濟世話被頼候ニ付願出聞届置福松屋和七

一 材木町江此間願義絶勘当之儀願下し候事不埒成致方全年寄とも不恙成計ニ付玉置忠兵衛江申渡し呵申付之右旨左之如し大概

其方とも町内大工平助娘不届之筋ニ付親平助江義絶勘当之願出候然ル所其後右願書申下し仕度旨申出候甚重キ願之儀及氣毒儀も有之間敷事ニ候斗一其方共兼而下方取計不宜処江役所を輕致方不届之候之禁足

一 来ル十月十二月万人構元方先達而八百屋七郎右衛門江人願相濟候処江菅人江てハ無覚束万一病氣故障之節如何ニ付松田屋五郎左衛門相願候付及御沙汰与兵衛殿御聞一付則日忠兵衛へ申渡ス

一 芝居五十五枚室并政次吉井柴内加日明日切之処無抛筋申出ニ付今日切相止させ候旨村田孫兵衛江内通用手紙申来ル然ル所列刻右同心兩人罷帰弥今日切ニ相仕舞候旨勸進元とも申出候ニ付場所引こほし商人取払其外諸メリ格例之通申付罷帰候由相届ル早刻御用番大目付中江も相届ル

廿七日 晴

廿八日 晴

一 一之宮へ藤森権六三木孫八遣ス

一 主計殿東武江出立尤立帰リ之由見送ニ罷出ル

一 小性町布屋権八家売四百拾匁同町あわ屋定右衛門買尤昨日之分之

一 一宮江中山市左衛門神田孫兵衛 藤森 罷越候

一竹之馬場御數百間土手御數竹之子取候儀仕間鋪例歳之触差出ス非人とも柳之土手御數同断触出之

一山本三右衛門田原屋六兵衛若森屋善左衛門八百屋七郎左衛門ひめし屋甚五郎重屋「」右衛門平田屋安右衛門今屋伝助会所^江召出し去々年以来万人構構元致出精候ニ付御酒代被下候段申渡ス

右之内三右衛門六兵衛善左衛門七郎左衛門甚五郎、銀五枚外三人ハ銀三枚ツ、之一福松屋和七市町参り掛り之唐操八人連世話人に被頼候願

一服部弥左衛門大坂御用上田喜十郎加藤兵助帰坂

廿九日 晴

一例歳之通今日一宮へ罷越候石名平太兵衛同心吉井栄内室井政次罷越ス中嶋定右衛門方賄有之札屋ハ山本三右衛門罷出候立寄積リニ候へ共定右衛門方ニテ御徒目付中沢曾右衛門応対之儀有之時刻「」つり立寄不申候

一堺町ひ「」屋次兵衛方へ備中新見

御判物止宿警衛加藤多膳用人格之由渡部勘助上下以上式十三人^ル由六左衛門嘉門^江も申達ス石名平太兵衛忠兵衛方迄差向見舞可申旨申遣ス処甚群退候ニ付引取同心^{栄内}為諸事退場嶋屋松屋へ申付

卅日 晚刻雨

一御判物之「」出立大番所迄同心之者終^而御用番中大目付中へ届候

一一宮^江中山伝内石名左五兵衛罷出^ル

壬 四月朔日

御用番 伊達与兵衛殿

大目付月番 村山平学

会所

一材木町年寄とも禁忌差免申渡ス

一非人小屋^江申渡し

惣^而非人とも之儀近来風俗不宜平人紛數体致候由相聞候兼^而平人^江対し不礼等不仕候様申付置候処頭共悲田院付ニ相成候とて

惣非人共心得違平人同前之様にも存候趣と相見女非人共之儀ハ

たはね髪可致咎之処近来ハ平人同事之形髪を結徘徊致候様ニ相見甚不届ニ候勿論群集場所^江参候共平人ニ行違候ハ、片付往来

可致候若不礼かましき儀有之候ハ、急度可申旨此段非人共^江可申付候

又町方へ触書

近来町方之者共非人小屋之脇ニ立入非人共へ致参会候者も有之

様ニ粗相聞候此以後左様之族有之候ハ、吟味之上直に非人小屋

^江差遣シ可申間此旨相心得非人^与交り決^而仕間敷候

右之趣惣町中入念可被相触候 已上

一來^ル三日市町跡諸^メリ之触可致之旨石名平太兵衛^江申達ス

一講元共御酒代相渡ス

一市町^江川端又六金嶋栄治遣ス

二日 晴

一沼林紫保井林大及木太田四ヶ所御林之内立居松入札之儀町在^江触

書出ス

一 一宮へ藤森権六三舟孫八差出ス

三日 雨 御用場

一 服部弥左衛門上田喜十郎来ル 六日登坂付面謁加藤太助御退出御逢被成之

一 服部弥左衛門留守之間三木甚左衛門御勘定奉行代り相勤候様御金方之儀ハ大橋源右衛門被仰付候

一 撰州町人先達而御約束之通銀子調達仕候ニ付證文案紙相廻り候尤印形之儀ハ五人ツ一組ニいたし拾式組七貫目ツ證文三本ニして右

五人連印引合ニ式拾壹メ目借受之積リ之都合式百五拾式メ目文段左之通

一 合銀七貫目之 預リ申銀子之事 但千字銀之

右之通銀子我々レ受取預リ申処実正之然上ハ月壹歩式朱之利足加来ル 十月廿五日限り返済可申候万一印形人之内限り月々差支者

有之候ハ相残ル者方レ元利銀高無相違急度返済可申候為後日銀子預リ證文仍而如件 年号計 五人連印

一 右之員数町家借受ニ相成返り證文ハ御勘定奉行中服部印形上田被遣候様ニ今日与兵衛殿ハ三平ハ被仰付候返り證文文段左之如し則齋

藤孫右衛門ハ明日取計被仰渡返り手形 覚

一 銀式百五十二メ目之 町家

右者就御用撰州池田村森田武右衛門口入ニ御借入ニ相成候然ル処町貸之證文貸主相望候ニ付右町家之者共ハ借入證文被仰付候而十

月元利從御上御返済右之手形取返シ此證文可引替者之

一 一ノ宮ハ中山市右衛門神田權兵衛下代神西作兵衛

四日 晴

一 栗田辰右衛門ハ呼レ参り罷越候処左之面々与兵衛殿ハ申渡候様被仰渡候間取計候様ニ被申聞之

此度御借入之義出精ニ付御扶持方五人扶持被下之名字門松大之字合印被差免之候

右於会所平太兵衛ハ孫左衛門立合年寄門屋又七同道ニて於玄関申渡ス

一 今日同事ニ付三倉屋善四郎儀ハ三人ふち被下之大文字合印被差免之候

右之者今日ハ他出ニ付延引清水友三も同時ニ付式人扶持被下之由服部弥左衛門殿計

一 昨日被仰付候町家之者とも印形取候儀孫右衛門方ニて同役并諸吟味立会案文之通無滞相済返り證文ハ孫右衛門ハ読聞せ「」為御念

之由御請申上返り證文ハ大年寄とも三人預り置六十人ハ請書取之役所ハ差出候事

一 三室屋宇左衛門ハ親阿助他所行当月中日延願一坂口屋伝助名字寺田と付申度旨書付を以出シ聞届遣ス

五日 晴 不時御用場

一 今朝六半時村山平字ハ手紙到来急ニ御用場有之候間出仕致可申旨申来リ 早刻罷出候処御奏者番渡部惣左衛門市村教馬殿廻状御帳付

左之通

江戸表去ル廿七日同廿八日兩度御飛脚到来之處 殿様共六日
御喰滯御氣味被成御座候ニ付井上更泰院法印御扣御様体ニ相伺候
処兼 御病中之儀故御平臥御見へ被成御類中之御氣味可被成御
「哉之由申来候仍之為何御機嫌御帳付候間四時迄之内出仕可有
之候此旨同役同列組合支配方江も可被相達候以上

閏四月五日

渡部
市村

一今日服部弥左衛門上田喜十郎加藤兵助明日登坂延引
一町方同心へ右御病氣之為知申遣ス大年寄とも札元とも御機嫌伺廻

勤

一去ル廿八日講元ともへ遣講御酒代殘銀札下山官太岸權六へ相渡し
可申様与兵衛殿被仰候間服部弥左衛門へ申聞則平太兵衛へ申遣ス

六日 晴 不時御用場

一坂口屋伝助名字寺田と改め申度旨承届候段与兵衛殿へ申遣ス

一今津屋平藏登坂

一御祈祷町在伺之儀申達ス尤大目付中へも

一今夕五時頃大目付中へ廻文役付御使番格打込申来候御用席

「出仕可仕旨申来リ早刻出仕之處明六時頃退出之

七日 晴

一今晚六時 服部弥左衛門上田喜十郎加藤兵助旅行見送ル

一町中へ御祈祷之儀御伺申上「先格之通申付候様ニ与兵衛殿被仰

渡則日大年寄齋藤孫右衛門江申渡ス

一中之町川口屋与市借屋へ上之町伊助と申者引越人別入

一安岡町坪屋多吉自国受酒株同町村永屋恵助へ預

一同坪屋多吉自国受酒株高砂屋兵助へ相戻し願

一京味噲屋清八親眼療登京致候処三十日日延書付

一林田屋孫七へ吹屋八左衛門へ負銀札返事濟口願候処内済届

一辻屋六郎右衛門世倅登坂

一中之町三室屋宇左衛門へ勝部村藤右衛門へ三十俵田地質入三月切

反別七畝廿四步高八斗四升六合丑年證文

右利米年々抑込候得共卯歲頃へ及中絶候処今般之趣ニ付右之地所

闕所ニも相成候ニ付願書并差引書付等差出

八日 雨 不時御用場

一今日八ツ時徳守宮神主大隅宮神主御札守調達御用場於玄關小勤者

高橋小右衛門罷出引続三平出座及挨拶小右衛門へ右御札相改候様

申聞三平改之小右衛門へ渡ス小右衛門へ小遣江申付小勤者所江相

納申候則刻村山平学江申達置

一かち場舟渡水増候ニ付往來止ル御届申達ス

九日 晴 御用場

一鍛冶場渡し相始り御届申達ス

一去ル朔日講元共江御酒代相渡之殘銀札百四拾六匁岸權六下山官太

兩人江相渡候様可致段服部弥左衛門へ与兵衛被仰付候由拙者江弥

左衛門へ相伝候ニ付此間齋藤孫右衛門江申渡之左之通遂相談所

江差遣候請取手形取之候

送り手形

一銀札巻メ六百八匁之

右^者当三月町方万人講殘銀札講元^ハ相納分

内

銀札老^メ七拾五匁山本三右衛門
田原屋六兵衛 同三百八拾七匁重屋治右衛門
平田屋安右衛門

若松屋善左衛門
ひめし屋甚五郎
八百屋七郎左衛門 右^者人^ハ銀三枚宛被^レ下置相渡^ス

右^者人^ハ銀五枚^ヲ被^レ下置相渡^ス

引殘^ニ

百四拾六匁

右之通相納申処仍如件

齋藤孫右衛門

宝曆十二^壬年閏四月

岸権六殿

下山官太殿

右送り^ハ兩人^ハ被^レ相戻殘銀札百四拾六匁請取差越^ス

石名平太兵衛預^リ置候之 請取手形

覚

右^ニ午三月町方万人講殘銀札送り之通請取申候如件

年月同前

齋藤孫右衛門殿

右之趣写取御勘定所^ニ後日遣し置^ク

十日 晴 今日御用場無御出席引取申候

十一日 晴 御用席

一江戸表^ハ早追御使番尼玉新助致着今朝五^ツ時之

右^ニ付御用之儀有之候間御用場^ハ出仕仕候様大目付所^ハ廻状出

一殿様御病氣御養生不被^レ為叶去^ル 四日^ノうの上刻御逝去被^レ成候依之御

帳付候間八^ツ時^ハ七^ツ時迄之内御用場^ハ出仕可仕之旨御奏者番中

ハ廻状出

一右早追来候旨河部^ハ注進申出

一頭分^ニ於溜間御用番与兵衛殿被^レ仰渡六左衛門殿も御出座大目付村

山平学奥目付海老原助市立会^ニ左之通

江戸表^ハ見玉新助早追今朝到来之処

殿様御病氣御養生不被^レ為叶去^ル 四日卯之上刻御逝去被^レ遊談申来

絶言語候 若殿様語幼少^ニ付御相統之儀 殿様御存生之内

思召も被^レ成御座何分御養子被^レ成御願 若殿様^ニ御順養子御願

可被^レ成思召^ニ付御手寄之方々御聞合も被^レ成座候処

惇信院様御代より右等之筋御吟味稠敷被^レ仰出左様之儀難被^レ成訳

三付無是非^{無^レ被^レ渡候^テ被^レ} 若殿様御相統御願非成右御書付去^ル 三日

松平左近将監殿^ニ被^レ差出無滞請取成候之間此上御家中之面々安

堵可致候番外方^ハ例之通大目付中^ハ同支配之方御役人迄之番外

中^ニ一^ニ濟

一右之早追御不幸之儀町方^ニ為知廻文差出^ス 尤大年寄并札元とも廻

勤申渡^ス 町々之年寄^ハ会所迄罷出例格之触書文談扣に有之両部お

ろし^{明^ケ来^ル} 十八日より片部 紺屋油^一 打温鈍粉おろし船繕大工鑄物し

細工鍛冶職来^ル 十八日^ハ不苦候普請魚鳥壳并さやし物来^ル 廿五日

自身番昼相勤候義来^ル 廿五日^ハ夜^ハ御中陰之内相勤候事殺生之儀火

之用心之儀有

一ふち米^ハ今日^ハ明日迄之内樽之儀停止酒米^ハ 十八日迄差止候事此

儀ハ御伺申上候而戒善院様御不幸之節ト相違申候

右大概日記ニ相記し置候触書扣ニ詳之

一御不幸ニ付御家門様方御使者又ハ御徒使飛脚^而可有之立宿止宿等之儀申付置候様ニ大目付中^而被申聞則大年寄^而申渡す林田^而山

本屋与三七立宿止宿嶋屋与市西^而安岡町坪屋今町直屋孫四郎勿論

山本屋与三七坪屋太吉儀ハ御從宿又ハ小倉屋清右衛門^而も可申付

趣大旨為申聞置^而惣他^而入込候使者ハ外町ニテ相済し内町ハ心

对之使者ニ心得候様ニ此度村山平学^而被申聞先其取計ニ致し置候

一昨日^而平服ニテ出仕候様申出^ル

一非人増廻り申付^ル夜ハ式組昼ハ常之通

十二日 雨 御用席

十三日 晴 御用席

一今日町方^而廻文出^ル来^ル十八日迄に停止明之差別相触候尤触書扣に有之候

一田中次左衛門下女播州赤穂^而在所見舞に罷越候ニ付川筋通り切手

差越裏書相調遣^ス

十四日 晴 御用席

一坪井役所内藤丹波守殿家来曾江忠右衛門^而来書於江府 御不幸

之儀ニ付悔状足輕一人及則答書翰ニ訳之

一使者^而対湯波屋ニ申付候尤太布屋病人有之ニ付右に相決^ス其の旨

村山平学^而申達^ス

一御中陰^{十五}ニ付町分見廻り之儀御用番并大目付所^而申達^ス尤御借人馬

之儀申達置

十五日 晴 御用席

一惣町相廻り候尤も道筋例之通無滞相済御用場出仕之上相届^ル

十七日 晴 無御出席則引取

十八日

一綿真ノ場ニてくさひ又ハ針打候事度々御座候方一外方ニテハ普請

もいたし候様ニ候^而如何被存候間其旨聞置居候様ニ玉置忠兵衛^而

申出及び御沙汰聞置遣^ル

一町方之内細工町其外片原紺屋町杯蔭町ニても麦こなし候儀前々^而

手狭^キ処故表向^而なし来候間伺出候へ共大目付所^而彼是意味相ま

しく村山平学申聞候ニ付此節之下方小身之者とも甚及難儀ニ付及

御伺御聞届ニ付申付^ル

一西川役所小形伴左衛門^而悔状来^ル文段扣有之

一他^而使者有之候節^而対場所水^高台座^灯ハ不遣候由平学被申聞

之料理共^一「使者止宿^而町奉行為挨拶罷出内町^而」入候節^ハ

同心計先を致し候様ニと平学^一

一三軒屋番兩人^而稻荷上道筋草為取候事例歳日上村布原村^而四五は

と入込草^而取申候御中陰ニ付伺出候得共此間御城外之草^而取事不

相成候ニ付右^に類したる事故彼等儀^者見廻り場所之儀難儀仕候趣

村山平学^而申談候処道之脇際之儀ニ候^ハ為^而取候事もくるしかる

ましき旨申^ニ付勝手次第仕候様善兵衛^而申付^ル

一今晚^二かい町三木屋後^一「屋葬道之儀随分^一」軽く取計候様申付

候

一河原町湯原屋伝兵衛借屋文太夫婦昨夕甚^一「申由よほと目立候

儀ニ付及内さたしかり夫婦争之儀殊更救方症もうけ不申候へ先此
場「儀其分ニいたし置候様相極置候

十九日 晴 御用席

一御法号被成御着候ニ付町分掃除且先扨同心差出候様村山平学ハ手
紙来御道筋林田町通り山本屋前之横町夫ハ石垣伝太夫ハ宮川筋通
り夫ハ来御門ニ被為入「川辺ハ御迎旅装束ニて中」海老
原「御従目付荒井」左衛門目付組御出馬川辺迄ハ足輕付守候
由江戸ハ」

一御法号明日泰安寺へ被為入候ニ付蘭田筋掃除且同心組御先扨之儀
申渡ス

一御奏者番中ハ明日御機嫌窺御帳付候間己之刻ハ午之中刻迄御用場
ニ出仕仕候様廻文相廻ル

一明日御用儀候間四半時罷出候様大目付ハ廻文右之段同役同列と計
有之

一今日か州御家老中ハ飛脚此表御家中之悔使来ル直ニ二階町御門へ
か、り御門番書状受取夫ハ勅負殿五人を付魚町かしの屋介右衛門
ニ遣候由序なから存之右之使之儀下方ニてハ出役者と心得甚拵氣
致候儀ニ付心得違見廻「致候故他所者右之通御門ニか、り候事
全齋藤孫右衛門心付「不」成儀致候間拙者手抜も相成候様ニ存
平太兵衛ニ内分置「」

廿日 晴 御用席

一今日勅負殿ニも御出席被成候残牢「遣甚平ハ高倉ニ遣入候野伏
非人」儀今般之御法事ニ付大赦被行候様仕旨書付を以与兵衛殿

御伺申上置候

一申之刻御法号泰安寺ニ被為入寺社奉行村上清太夫御跡乘同心組例
之通町分御先為扨申候

一大目付ハ廻文御法号

一隆照院様と奉唱候猶又御家中并足輕中間月代之儀迄ニ御指図可有
之又者「御講無之趣申出ル

一今日於御用席勅負殿被仰渡頭分不殘罷出左之通

去ル六日御上使以牧野越中守殿を御番香奠銀式十枚御頂戴候且
又越前守様「出羽守様左兵衛督様以御家老を」御意有之候
此節御家中一統慎相慎候様被仰越候此段及演談候

右ニ番外方於溜間与兵衛殿「仰渡之御小姓組ハ御役人迄
大目「支配之面々ハ村山平学申達候

一御奏者番市村数馬佐「權左衛門ハ廻文左之通

一隆照院様御法事一夜別時廿三日ハ廿四日迄御執行被仰付候自是廿

四日御法事相濟昼時ハ諸「参拜可有之候尤御香奠一統差上候ニ

付惣目錄を以取計候間御香奠銀之追ニ御役人ハ可被相触候間其節
可被納候此旨同役同列組合支配方ニ可被達候

一御用場今日切ニ引大目付所御拵筆所溜り相止

一齋藤孫右衛門昨日飛脚取計不宜候ニ付「入指扣相伺候得共此節
之事故不及其儀旨一統廻勤申付候

一可州飛脚出立届出ル

一來ル廿三日ハ廿四日ニ御法事御執行ニ付町分取計申付候様ニ村山
平学申聞之

廿一日 晴 会所御出席御不例申来候会所

一去ル九日之日記百四拾六匁岸権六下山一 兩人へ相渡一趣
与兵衛殿へ及御沙汰候

一「一」の屋此間之趣ニ付差扣居申処此節之儀勝手次第他出いたし候
様ニ申聞由尤「一」可致沙汰旨孫右衛門迄申聞せ候

一安岡町六太郎家敷町内久米屋弥次兵衛方へ銀札三百目之質物に差
置候処此度元利相済屋敷うけ返断

一二かい町嶋屋藤吉播州かこ川へ罷越候願書

一安岡町作人嘉兵衛焼失跡屋敷同町藤十郎五壳渡代銀札百五拾匁之

一若松屋善左衛門大坂会所町山本次兵衛六罷越居申候善左衛門母当

秋迄逗留願済候処無抛用事明後廿二日出立願

一西今町三倉屋佐吉親善四郎去月十九日願兵庫迄罷越居申処用事未
済来ル五月中逗留断書

一戸河町板屋三吉家伏見町作人藤助へ壳渡し代銀札式百五拾目之

廿二日 晴

廿三日 晴 御用場

一大年寄御三十五日御香奠参拜之儀御伺相済并札元三人御参拜計相
済岩佐孝頑参拜計之儀相済

一來ル廿五日ハ普請并魚取壳候儀さやし物差免し之儀相触候内御家
中へ「一」壳候儀可致遠慮旨孫右衛門五申渡ス

一足輕中間月額判之儀明後廿五日ハ不苦候旨大目付所ハ廻状出ル

一今日御用番与兵衛殿大目付村山平学立合五被仰渡

此間相伺候先達五入牢申付置之似世札遣甚平再盜賊藤七死罪

可申付者ニ候得共此度後法事ニ付追払申付候様被仰渡候尤御
「一」五及間敷旨被仰渡之

廿四日 雨後晴

一今朝於会所取計左之通

三十七
無宿甚平後

其方儀先年当領銀札似世札之手伝致候ニ付入牢申付置候依之死
罪遁候得共今般隆照院様御法事ニ付御領分追払申付此以後立帰
於致徘徊五可為曲事候

右立会石名平太兵衛目付藤森権六読渡し且又路次付添吉井栄内

室并政二古城村ニ追払庄屋左次兵衛手形取罷帰御用番大目付中
へ手紙届

一昨日ハ今日五至り昼夜自身番申付候且同心兩人先格之通為固西今
町へ指出ス

廿五日 晴

廿六日 雨

会所無御出席

一元魚町はおり屋次兵衛他所行

廿七日 雨

廿八日 晴 御用場

一去月番中心共弁当代卯之歳以来之通御勘定所五受取

一上紺屋町作人勘右衛門後家方五勝南郡高「一」村朝熊屋藤兵衛夫婦
悴清次郎引請申度願及御沙汰御日記付

一病犬致徘徊候旨人五も懸り候ハ、相殺可申段申越候

廿九日 晴

一撰州中筋村森田丈助と申者上下式人今日罷越京町固屋忠八へ宿仕度尤福井安左衛門の頼候旨願書

一江戸表同中幸助の書状来り先達差越候大年寄共歳暮年頭并惣町中御祝儀献上代銀六拾七匁五分相受取候旨申来り

五月朔日 雨
御用番 大熊六左衛門殿
大御目付月番栗田辰右衛門

一於会所御用番中へ御中陰之内候得共築師とも最早時節柄之儀護之用意等伺出次第可申付候段及御沙汰置大年寄とも迄申聞置候

一洪水付鍛冶場渡し止り候注進申出与兵衛殿へ申上大目付中
申遣
二日 晴

一鍛冶場渡し往来明御所申達

一銭相場六十三文

一山手屋弥右衛門借屋伝五郎と申者黒田彦四郎出入奉公願書出候尤時沢園八と改メ候旨此儀付平太兵衛申談之出入奉公之儀先年町方へ御触不取計候哉調候様申達

一材木町万屋与三兵衛裏之堀痛候付御堀足代下し申度願出

三日 晴 御用場

一東北条郡小中原村郡屋善五郎病氣付為養生罷越十五日計滞留為仕度旨願書玉置忠兵衛加印差出

一福渡町南側材木町作人伝助家屋敷同町作人仁兵衛荒渡申度願書出代銀札式百目之

一材木町万屋三兵衛塀脇之儀及御沙汰之

一来九日三十五御忌日付大年寄并札元共町医老人御拜に罷出候付泰安寺へ中奥目付并御従目付被差出候旨栗田辰右衛門被申聞之

四日 晴

一舟頭町片田屋利右衛門方久米南条郡下神目村兵助申者去月廿七日今日雇に致置候処当日相煩昨三日之夕八過相果候付断書差出尤二日北山修斎療治致候由神目村に兄弟之者罷在候付為知病中両三度差越候処今夕罷越候左之通書付為致候旨

覚

一私兄弟兵介申者不斗其元様参り病氣相成「御世話成被下候得共養生相叶不申相果死骸請取返り申候段々御世話成被下候所奉存候

午五月四日

下野田村

片 理右衛門様

源七悴勘介

一林立軒儀町奉行支配有之哉否昨日村山平学被申聞候付今日右返答罷越全支配無之毎度奉公人帳記し差出候段申達且又各様御役御同役鈴木喜右衛門宝曆四戌九月廿八日御医師丸尾道勇へ被仰聞之演説之書面相見候条及噂候趣左之通此書面八今日大年寄の丸尾道勇覚書之写し指出

御勝手向御不如意米直段付当年至別御難洪被成御座候仍之

立軒^江兼^而被下候ふち方三步へ御引被成候間此旨可相心得^一
ニ付林立軒^江右道勇^分及通達候由

一立軒一条大目付所^{ニ而及}近々相知支配と申^ニ無之候得共引請^ニ相成候旨何分来^ル九日^一「可申旨平学被申聞之

五日 晴

一撰州赤坂国助ふち永頂戴大和屋^一五人扶持右同断森田武右衛門右同断五人ふち今般御用向蒙仰出精仕候段達御聞為御謝礼下置候由右礼状差越候

六日 晴

一大目付所^分廻状

御家中之面々来^ル十日^分可致月代候并普請^茂不苦候

右之趣同役并支配等^江も可被相達候以上

七日 会所無御出席

一昨日之御触組中^江為知候

一京町菊屋例歳之通富山葉元忠右衛門来十月迄滞留断書^{○羽織屋伊兵衛}

播州へ罷越日延断油屋与平^分出^ス

一寺田伝助先達^而撰州へ罷出候処又々御用^ニ付出府致旨悴次助^分断書差出^ス

一河原町とうふ屋かね横山分^{ニ而}先年作候畑当时之村方^分諸役年貢等引受罷有候^ニ前々^分も右之畑へ故障いたし村方及迷惑候事時々有之併理非聞わけなき放博者^ニ候処当春村方へ申渡し何分仕付^ハ致し置追^而故障いたし候ハ、可申出旨郡代取計申付置候処此間右之かね大豆を植付候由呼出候^ニ付早速入牢も可申付もの候へと

「右之居所貧町之儀可及難儀と先孫左衛門へ申^一」尋之儀為取計候

八日 晴

九日 晴 御用場

一御三十五日泰安寺^江拜礼^ニ罷連候面々大年寄三人御香燭目録^{白屋奉書}折禱 下札名面^一「^一」写

但住寺^ハ三平应对役僧指出^シ為請取候^而御拜申上候節御牌別へ

相掃^字^而

札元三人町医師岩佐考碩

但御拜計^字^而地方目付

右^ニ付立会左之通

中儀御目付 海老原四郎 御從目付 井汲 幸右衛門

一右当日誕生寺地藏院諷吟罷出寺社取次伊達今右衛門出会各^字^而於

方丈住寺^分「^一」有之候

一今晚廻り之者^分本紺屋^ニ罷有之独身忠右衛門と申者致狂氣之由申出^ス

十日 晴

一昨日拜礼名順大目付中へ記し置

一去^ル七日^分河原町とうふ屋全一条居町^一「右女者入牢^{ニ而}も被

仰付牢賄等町^一」候^而町内物入気毒^ニ被思召同様之筋^{ニ而}右

畑年貢七斗計差出候得^者かね扶助^ニも相成可申旨^一」候得^一」

当时困窮別^而当时貧窮銘々身寄之町^一」年^一」年貢さへ身分を尽シ候半^ニ全分意十二三年以後町割番賃保頭給相并候儀凡式百目^ニ

も及其上ニ右女之御年貢年々引受候儀ハ甚迷惑仕候旨無趣書付

差出候扣別ニ有之仍之今日御用番六左衛門殿へ及御内沙汰当御中

陰之半追而御伺可申上旨申上置候大目付中江も噂申置候

一 船頭町今津屋平藏ハ願書

醬油古瓶六本売主堺町西川屋十三郎
買請備前あわ屋小右衛門 右河筋積下し

一 安岡町小倉屋次右衛門断書自国請酒株小性町備中屋藤助江五斗切

ニ去ル巳年ハ貸置候処取戻し商買仕度旨

一 三室屋宇左衛門断書親阿助大坂当月下旬迄滞留日延

一 鍛冶町夜番何平と申者今朝相叶一 右番所ニ病死仕候而出所

薪森原村一 西村柳斎と申者家来吉兵衛儀一 のよし仍之為

知遣し候由先其一 引取番等も付置右弟罷趣候一 可相渡

旨申渡ス

十一日 晴

一 京町みとや清八親京都江眼療日延願去ル二日出ス

一 西今町三倉屋善四郎撰州へ罷越候願書去ル九日出ス

一 おけ屋町与右衛門やね十日之昼見出しもみ一 入ぬすばり板

も少々焼居申由申出猶又入念廻り無怠慢様申付候

一 昨日申出候何平弟かち町へ罷越死骸請取尤町之物入本行寺へ葬候

而一札相渡し罷帰私兄何平と申者急病死仕御町内御世話罷成添次

第奉存候然上者死骸慥請取申候此已後何之申分無御座候為後日

一 札仍而如件森原河本村吉兵衛印
下紺屋町おけ屋源六印

證人一 一

年号五月十日

年寄兩人宛

一 服部弥左衛門掃宅

十二日 雨 会所御出席

一 勝辺村藤左衛門永籠申付候而闕所田地之内志戸部村ニ三室屋宇左

衛門ハ相替元一 余之処此度右ニ付宇左衛門江田地差渡様申

付一 村方江無滞相渡し向後年一 相勤作廻仕候趣書付差出

ス 尤村方江も書付相渡し旨之扣帳ニ有之

一 中之町有元立節後家ハ願借屋椀屋五兵衛先達御当地へ參居申候処

此度出所一 原村江帰候付家内五人別放離之儀申出。

一 船頭町其外御裁捨候事仕間敷一

十三日 晴

一 美濃職人町備中屋甚七願安岡町小倉屋次右衛門所持自国請酒株借

請商売仕度旨申出聞届候

一 堺町方永屋安兵衛土蔵一ヶ所備前へ売川下ヶ願

一 河原町とうふ屋かね弟長七ハ書付之趣前文段ハ右かね我儘ニ付田

地年貢七斗余引受上納仕候得ハ入牢も不及右田地かね引請させい

か様ニ仕候共一 之事ニ候兄弟之儀有之間敷哉と相尋候処

長七請ニ私至極貧窮者而居所等も無御座毎日日雇仕其日過仕候得

共元来妨之儀候ハ御年貢引請遣申度旨書付出但無居所故無加印
大年寄直ニ記

寄直藏

一 鍛冶町五人組頭年寄三右衛門次左衛門ハ此間何卒夜番ニ雇候者か

ち喜助ニ相当候処番所而為引取候得共養生不相叶相果申候右之者

儀独身其上何方と申相極居所も無御座引請候者本人者不及申組合

年寄共迄不調法申分なく奉存候以後組合之者共申合入念可申段一
札差出ス

十四日 晴 御用場

一 御香奠代小勘者所江 相納候様大年寄ともより古記之趣申出候ニ付
栗田辰右衛門江 申達小勘者所ハ 被申達候間役所江 納メ一所ニ 遣候
様相極候

一 中之町椀屋人別離之儀及御沙汰之

一 町次大目付中ハ 加藤兵助書状藏合孫左衛門江 相渡ス 伏見町ハ 明日
登坂之者江

一 豆腐屋長七書付及御沙汰置之

一 津川山御林請負袖之儀も近々ハ 入候積ニ 撰州森田武右衛門代判
同名丈助坂口屋伝助俸治助證判ニ相立之町奉行支配之者郡代ハ 奥
判書も無之他所と一体ニ願書印形いたし殊更請負之致方メ りも
相見不申候ニ付今日御用番与兵衛殿ニ及御沙汰候処何分御評儀も
可成付先御預り置被成之

十五日 晴

一 そは屋和助浜野屋十郎兵衛今日勝部村藤左衛門跡闕所もの引渡ニ
親類立会遣ス 右立会妹尾文蔵林円平地方目付中嶋定八

十六日 晴 会所御出席

一 林立軒町奉行所支配ニ 無御座奉公人帳ニ相記借屋之体ニ 候夫ニ付
町住居浪人者ハ 御家中誰引受と申ニ 候ハ 元ハ 町人別ニ 入不申譬
御浪人山内東橘と申候名代米屋左助と出シ 申候例之儀又ハ 奉公
人帳ニ何之誰某様御役介何之誰某ヲ 記候段及御沙汰置候

十七日 晴

一 御香奠料大年寄ともハ 相納候

一 先達ニ 丈助方江 出入之女之道具今日浜野屋十郎兵衛音羽屋和助ハ
小野櫃意相渡ス 川端又六立会之

十八日 晴 御用場

一 大年寄御香奠代小勘者所江 相納候

一 村田孫兵衛ハ 町中宗門改帳案詞例歳之通被相渡則日平兵衛江 相渡
置候

一 町方ハ 御堀浚料取立来ル 廿六日迄之儀御作事役人池部八右衛門ハ
申聞大年寄江 其旨申渡候

一 林田町山本屋与三飼牛落候由申出取捨聞届

一 勝部村藤左衛門跡山北屋敷田畑入札之触平兵衛江 申達ス

十九日 晴

一 茅町甚左衛門藤助ヲ 改号願則聞届

廿日 晴

廿一日 晴 会所御出席

一 勝部村藤左衛門佐市跡欠所引渡候上入札町分江 今日廻文出+

勝部村藤左衛門 株別帳之通家屋敷并家付之諸道具田地山林者 兩人

分一株ニ御払入札申付候相望候もの有之候テ 勝部上村庄屋方江 承

合来ル 廿八日迄入札相認可差出尤代米上納之儀ハ 来ル 六月晦日切

ニ相納可申候右之趣惣町中可被相触候

一 河原町金儀弟長文儀右之金法外ニ付横山田地年貢払候ため婦一所
ニ相暮同事ニ付年寄とも「」其町へ人別ニ加へ可申由旨与兵衛

殿へ及御沙汰則河原町年寄同所長七^江其儀申渡候

廿二日 晴

- 一 船頭町爪原屋惣兵衛船普請小屋今晚八^ッ時前何者^之所為とも不知
- 一 「藁杯少々積重ね火を付もへ上り其辺^ハよほと立騒き候由早速消止メ候段注進申出候尤川へ寄横山分之處^ニて御船小屋^ハ十式三間船頭小屋^ハ十間斗水辺迄式三間斗之由相聞^江候早速大目付栗田辰右衛門へ申達置候

一 齋藤八太夫^ハ咄之底^ニ門前溝^江毎事不浄尾箆成もの流し候由仍之何とも相考呉候様申聞候^ニ付早刻大年寄孫左衛門^江申付戸川福渡両町へ以来之儀急度心得候様^ニ申付候段申^一

一 久米屋勘八岡山^江罷越候旨相断

一 河原町かね組合且右女弟長七へ昨日申付^一以来其町人別^ニ残当度今年々無相違御年貢上納仕候旨其上^ハ随分御修法相守諸事相慎並之通相背間敷段請書差出^メ勿論全^一相慎候様^ニ取計

廿三日 晴 御用場

一 廿四日切^ニて御忌明之儀^ニ付自身番其外非人廻り加番旁万端先年之格ヲ以大年寄ともへ昨日為知置候

一 昨日差出候河原町長七書付及御沙汰置下代^江申渡し尤石名平太兵衛引合申候地方目付植月新右衛門へ相渡し横山村^江右書付之趣を以可然様取計候様申渡^メ

一 来^ル廿八日暑氣為何御機嫌御帳付之間午之中刻出仕可有之旨御奏者番中より^一分廻状出^メ

一 牢^一丈助儀今日塩詰へ牢替申付^ル川端又六金嶋栄治

廿四日 早天小雨

一 主計殿帰着御宅へ罷出^ル御逢被成候尤

御中朗^ニ付肩衣不用之

廿五日 晴

廿六日 晴 会所御出席

一 去^ル廿三日相廻候とうふ屋長七書付地方^ハ相戻^メ尤下^一^江申渡し候旨右^ニ付長七儀横山村庄屋へ罷越名前付候様^ニ為仕候様孫左衛門^江申渡^メ

一 坪井町北側屋敷売主草津屋茂市代銀札三百目之買主同丁桔梗屋庄右衛門尤半役之

一 同町同所屋敷売主草津屋茂市代銀札同断買^一町大津屋七郎左衛門半役之

一 三倉屋善四郎寺田伝助出宅有之

廿七日 晴 不快在宿

廿八日 晴 御用場

一 暑氣何御機嫌として於御用場御帳有之候へ共不快^ニ付濱田平太夫を以不参御届^メ申達候大目付所へ大橋源左衛門を以不参御届^メ申達^メ

廿九日 雨 不快在宿

一 京町花屋忠八^ハ福井安左衛門頼^ニ付撰州中筋村森田武右衛門大和屋全五郎手代清兵衛惣助上下六人昨夜参着宿仕候旨断書差出^メ

一 西川小形伴左衛門坪井曾江忠右衛門両所へ上御悔返礼之披札以飛脚差越^メ

一 去ル廿七日小桁村井水上リ殊之外少ニ付舟尾堰留之儀願出候ニ付
船頭町へ通船之儀去歳之通相「」村方故障無之様致案内相通り候
様申渡ス

六月朔日 晴

御用番伊達与兵衛殿
月番 鈴木喜右衛門

一会所御出席無之由且拙者不快ニ付不參

一 西川之飛脚両所返答取罷歸ル

一 玉置忠兵衛今月月番之所妹大病ニ付頼合ニて斎藤孫右衛門相務ル

一 米川下之儀指留候様今日可申付旨御用番被仰渡弥左衛門是を承

候段申来リ則日平太兵衛今大年寄共江申渡候尤先例ニ付牛馬陸出

シ其外ニても急度指留候様申付置

二日 晴 不快在宿

一 今日例刻御用席有之候ニ付仕可仕旨大御目附鈴木喜右衛門今月

番為知廻文且又御奏者番中今廻文左ニ記

当武今飛脚到来 殿様益御機嫌支被御座先月廿三日 御家督

無御相違被仰出候段申来恐悦之御事ニ候依之為御歎御帳付之

問今四ツ時迄之内出仕可有之候此旨下略

一 御帳前#大御目付所不快当病服部弥左衛門今届ケ之儀頼遣ス

一 御帳付候趣支配方且町医又#御扶持被下候面々江も為相知候様石

名平太兵衛へ申達ス

三日 晴 不快在宿

四日 晴 不快在宿

一 元魚町福田屋五郎兵衛安州宮嶋參詣

一 桶屋町突出シ芝之上材木有之候間ニ七十斗ニ相見候男野伏老人相

煩居候由年寄共今申出ニ付大御目附中江申遣ス犬給物其他氣を付

遣候様年寄共江申渡置

一 玉置忠兵衛妹昨夜死之旨届ケ候ニ付大御目付中迄申達ス

一 京町加茂屋和六方へ去ル卯年預リ物有之候所已来取ニ来リ候者無

之此度宮部村之權兵衛中北村文助同村并市同嘉七申者取次人

ニて主相知シ候ニ付引渡申へク旨断書指出シ聞届ケ

五日 晴 不快在宿

六日

一 明七日今十四日迄不働院祇園会同七日今十五日迄安楽院疱瘡守護

神護摩湯立仕度旨断書「」聞届御用番并大御目付中江申達ス

一 直屋市郎左衛門余野村江用向ニ付参度旨聞届

一 此間及通達候野伏相果申由注進出候付大御目付中へ申遣候処夜ニ

入候得共御從目付目付組被差出候旨非人可出段之申語ニ付其旨申

遣非人差出取捨申付候

一 鈴木喜右衛門今中来候

一 銀札大札押掛判相加候儀五月晦日切キ相触候処未錢札も有之候様

相極候来ル廿日切銀札場江出右押掛判請可申候尤右日限迄押掛判

無之大札ハ堅通用致間敷候

一 新札引替相濟古札通用相止候儀ハ当九月十月ニ至日限可相触旨

一 先達而申触候ハ共右古札通用相止候儀ハ来未「」ニ至申可触候

間夫迄、新古取交無滞可令通用候

七日 晴 不快在宿

一御藏正米払底ニ付御家中月々渡米其外共三分ニ正米相渡三分一ハ銀札渡被仰付候間其旨可被相心得右之趣下畧廻文大御目付所ハ相廻ル尤昨日之日付之

一札座奉行土居官右衛門村瀬八兵衛ハ手紙到来茂渡市右衛門方両替之儀申付候旨且銀札小売場之内鍋屋次兵衛若松屋吉左衛門瓜生原屋七郎左衛門坪屋多吉鍵屋清右衛門右五人小売場相止候由申来

一斎藤孫右衛門両替元之如四百匁増七百匁ニ相成候由

一鍛冶町之者金毘羅參詣願出ル

一下紺屋町成就院同断官脇町土佐屋同断

一栗田辰右衛門手紙到来急ニ同談致度旨申来罷越候処左之趣申聞早

刻斎藤孫右衛門呼寄申渡ス尤摂州森田武右衛兵門口入銀證文之内

銀貸之処此度三百五十両證文四枚ニ仕立先之證文と引替候様ニ被

申聞候

預り申金子之支

金合百両 但文金之

右之通金子我々慥請取預り申処実正之然上者、壹ヶ月壹歩貳朱之利

足ッ加来十月廿五日限返済可申候万印形人之内限り月ニ指支候

ハ、預り證文仍而如件

八日 晴 不快在宿

一坂口屋伝介先達而買請候御立米五百俵當時川留被仰付候ニ付内々意味も有之筋申出候ニ付其上与兵衛殿へ弥左衛門ハ申上候処御聞

届相済同人ハ通用有之候ニ付其段取計可申旨及返答夫々申付ル川下之節申出次第同心差出候事

一昨夜申付候引替證文之儀今晚出来辰右衛門ニ差出ス

九日 晴 白雨

一今日七ツ時之淳信院様御入牌ニ付蘭田町掃除之儀大目附中申聞早刻大年寄共ニ申付候尤同心兩人例之通引請場所先私申付候

一来ル十二日 淳信院様御供養ニ付大目付中ハ廻文出ル依之先格之

通町分鳴物高声停止触ル兩自身番申付ル同心詰場所例之通罷出候

様申付ル

一先達而申立置候郡代所預りわ之字槽代りるノ字槽今日大目附所ハ

仲奥目付中ニ被申渡候ニ付證文相納右槽之鍵相請取

十日 晴 白雨

一今日七ツ半時過之御供揃ニ而銀之助様紺屋町祇園へ御出被遊候ニ付

川井岡左衛門ハ承知申来早刻大年寄共方へ申遣ス

一坂口屋治助御立米五百俵之内三百五十俵舟積いたし候由大年寄へ

申出候旨孫左衛門ハ申来ル追付船積届候ニ付金嶋栄治指出ス尤田

原屋六兵衛も罷出ル由

○追而有無可及返答旨申渡ス尤与兵衛殿ニも伺之上其旨挨拶承知被成置候

十一日 晴

一京町加茂屋和六家同町塩屋大三郎ニ壹貫目売

一西今町西屋勘右衛門所持旅籠屋株五年之間同町出雲屋文七預

一渡部甫斎病氣差重リ夫ニ付万一絶命之後御免被下候大文字相用候

而も如何可有届候旨申出候ニ付唯今迄之通相心得○

十二日 晴 会所御出席無之

一於泰安寺御供養奉行主計殿寺社奉行村上清太夫大御目付鈴木喜右衛門寺社取次伊達今右衛門中奥目付海老原助市御持頭市村但見鉄砲警衛之由銀之助様祇園江御出被遊候旨大年寄共申遣ス

十三日 晴

一明日御用場明後十五日江相延候大目付中為知廻文

一御奏者番中廻文

江戸表分御飛脚到来 殿様益御機嫌克被成御座去ル朔日御家督之御礼御名代織田大学様を以首尾克被仰上之旨申来恐悦御事ニて自是明後十五日為御悦御帳付候間辰之中刻分末之中刻迄出仕可有之候此旨下略

十四日 晴 白雨

一昨日廻文御帳付候段例之通町分為知遣ス

一元魚町羽織屋伊兵衛願親類播州姫路吉田屋源十郎と申者用事ニ付夜分参一両日滞留仕度趣申出聞届

一坂口屋治助御立米百式拾俵今日船積川下いたし同心中山伝内罷出ル

十五日 晴 御用場

一御帳付諸士出仕

一斎藤孫右衛門方操綿請延改印之儀孫左衛門分出候切手ニ押かけ致候面差出し申度尤粉敷儀も候面及甚恐候ニ川下之節引合之為印鑑孫右衛門分差越候度ニ付其旨小桁佐藤源太夫へ書状遣ス文段「一有之

一新魚町門屋助三郎世倅村木多七と相改三木甚左衛門へ奉公ニ罷出度旨願書聞届遣ス

十六日 晴 会所御出席無之

十七日 晴

一久世御代官所役人田中幸五郎川村三郎治中山林右衛門分塔中村多助と申者御領分町人又ハ村々貸「」非売払米銀滞有之江戸表を「」候義「」無相「」ハ濟方可申付哉否返答ニ可申越旨申来リ尤右多介儀も遣し候旨小前帳も相廻候今日及御さたおき候所斎藤孫右衛門

江申渡小前之者江無相違哉否可相「」申渡ス

一当三月六日迄細工町藤助借屋居申候善兵衛と申者七十五歳ニ罷成家内三人相暮候処去暮女房ハ相果娘ハ四国罷出断書只今ニ而ハ善兵衛老人兩足不相叶車乗町方徘徊いたし候難儀之体ニ相見候ニ付桶屋町なけ「」御藪之片辺就ニ而も御貸被下候ハ小屋かけ仕遣度旨新魚町魚屋仁太夫相願申出ル

一東新町西新町中之町勝間田町分上之町溝浚七年前ニ林田町へ被仰付町方分も人足指出し堀上ケ申候当時甚理り居申町方内庭へ水入床も越難儀仕候ニ付溝浚之儀願書差出し候

十八日 晴 御用場

一新魚町魚屋仁太夫願當時車ニ乗町方相廻候善兵衛申無宿者元細工町藤助借屋ニ居申当春以来娘者四国ニ罷出女房ハ去暮相果此節右症ニ相成今日を凌居申候ニ付小屋掛之場所相願御藪之辺又ハ桶屋町投之上御借シ被下候ハ申合小屋掛仕せ度相願今日及御沙汰候上大御目付所江申達置

十九日 晴

一上之町溝浚先例之通願ニ付申渡^ス 尤其節人足指出候様且役人も相添罷出候様可取計旨申付候

一勝部村蓮池ノ蓮葉入札之儀町方へ為相触候廿五日迄

廿日 晴

一例歳之通昨今町分溝見分藤本権兵衛 斎藤孫右衛門 川口藤十郎 川端^一 蔵合孫右衛門 米屋市郎左衛門 各罷出相動無滞段相届^ル

廿一日 晴 会所御出席

一二町南側林田屋孫七借屋売代銀札^モ 式百目同町高尾屋宇兵衛買申段願書

廿二日 晴

一馬指共例歳之配借大豆五拾俵證文相廻^シ

廿三日 晴 御用場

一林田上ノ町溝浚ニ付町在^ハ人足差出^シ 候ニ付右溝^一 〔御役人之外へも演達候儀大御目付中^江 申達候^而 夫々支配方^江 三平^ハ口達ニ及候

一渡部甫翁病氣之処養生不相叶昨日相果候旨届ケ申出^ル 則日御用番大御目付中^江 も申達^ス

廿四日 晴

一式歩中買株若元屋源七儀岩田屋茂七と申者^江 相讓度趣願書出^ル

一西今町三倉屋善四郎安岡町久米屋勘八願^一 〔町在奉公人日雇人不自由作方取上諸用指支申候付水車半輪相願町方^一 〕屋踏入米

賃^一 〔仕候ハ、諸方之為相成可申ニ付新田村之内大川井溝松原向

川端^ニ 場所相望候願書出^ス

廿五日 風有

廿六日 風雨烈

一当春二月高山村四郎兵衛^江 二町目林田屋より取替銀滞之儀ニ付久世御代官所^江 添翰之儀相願候付其節及御沙汰大年寄共^ハ 催促手紙差出候処不相濟此度又々相願候ニ付今日及再達添翰遣候様相濟候

一勝間田町山形屋喜兵衛勝部池蓮葉入札九拾式匁七分式厘尤札開^ハ 御代官中^ニ 郡代所不拘候

廿七日 雨

一服部弥左衛門不快一紙鈴木喜右衛門持参

廿八日 晴 御用場 晚方雨

一服部弥左衛門大御目付中^ハ 御用番中^江 被指出候旨同人^江 其旨及通達且右ニ付勘定奉行当分引請相勤候様三木甚左衛門被仰付候

一元魚町紙屋新七取次^ニ 種村幸右衛門^ハ 銀札式百匁戸川町伊部屋伊

三郎借請候所右濱口之儀不埒ニ付紙屋^一 〔七母^ハ 訴状差出^シ 候ニ

付伊部屋方^江 返答書申付候所右返濱^者 致候様覚候得共證文も取戻

さす請取^一 〔無之中頃右新七八病死以後之儀無^一 〕之儀共^一 〔

成申分ニ付右借銀札急度返濱可致様申渡候様大年寄斎藤孫右衛門

江 以書付今日申渡^ス 文段扣^ニ 有之

一大御目付所^ハ 被仰渡町在^江 触出^シ 候文段左之如

一殺生之儀商売ニ致候者^ハ 格別慰^ニ 致殺生候儀来歳御一周忌過候迄^ハ 相慎候様町在^江 御申渡可有之候

一來御一周忌過候迄^ハ 殺生致間敷事不及申候へ共万一心違之儀も有

之候^而如何ニ候間其旨及演達候様御用所中申付如此ニ候

右之趣同役[#]支配方^江も可被相達候

此趣大御目付所^江御家中一統御触書出ル当支配方へも早刻相触候
一町方^江御触書取計候ニ付魚鳥商売人^与申定りたる者ハ無御座候旨
申達候処何分殺生致候者ハ其商売人^与心得慰ニ致下申候へ^者可相
濟儀^と心得候様大御目付鈴木喜右衛門挨拶有之候

廿九日 晴

一今日瓜生原村^ハ先触廻状致来大年寄共^ハ指出^ス左之通

御證文 覚

一馬三疋内^ハ老疋^ハ人足ニ代ル外ニ賃馬老疋右^ハ御用ニ付明晦
日瓜生原村^ハ出立赤野村迄罷越候間書面之人馬差出シ可縫送候
尤御證文写相添遣候尤御證文写相添遣候間此先触早々順達赤
野村着候節可相返候以上

瓜生原村津山坪井赤野村迄

右宿々問屋中

御證文写

花田与三郎
中村鉄藏
林忠助

馬三疋從江戸山城大和泉河内撰津近江丹波播摩美作備中備
後国迄上下[#]於彼地御用中幾度も可出之是八御目ニ付御普請
役林忠助中村鉄藏花田与三郎罷越候ニ付相渡之者之

宝曆十二年

二月 右近邸

一御城下三軒屋之南御林之樫木此間風ニ胴^ハいたし候旨中村善兵
衛届出早刻鈴木喜左衛門へ申遣^ハ

一二階町林田屋孫七此間相願候久世御代官所^江添翰調今日相渡文段
左之通

一筆致啓上候末残暑御座候得共各様弥御堅固御勤役被成珍重之御
事御座候然^者当町二丁目林田屋惣右衛門^与申者^ハ御支配所西々条
郡高山村^ハ四郎兵衛^与申者^江去ル西歳村^ハ辻借り候由村役人印形
證文^ニ銀五百目取替申候処相滞年々催促致候得共今以不相濟右惣
右衛門義^ハ去ル歳相果当時孫七^与申者相統致罷在候近来不如意相
成甚難渋候ニ付無拠此度御役所罷出御訴訟申度旨願書差出申候依
之右孫七御役所罷出可申間御吟味申上筋立候様被仰付被下度御座
候御多用之御中御世話之儀ニ御座候得共急可被取計被下候右可得
御如意此御座候恐惶謹言 六月廿日

川村三郎治様中山林右衛門様

尚々右孫七願書之写並證文之写共ニ 候以上

元利合^而老^ハ式百四拾八匁五分

卅日

一昨日取計候林田屋孫七今日久世出立

卅日

一公儀御役儀之面々今日無滞通行同心四人出^ス甚輕^キ面々鎗等も無
之両所^江御届申達^ス

一寺田伝助撰州^江出立

一京町理左衛門清左衛門^ハ類族届東新町西新町類族届

一魚屋仁太夫^ハ善兵衛居所之儀先年座頭左登部御貸被下候処相願火
之用心大切ニ仕喰物等煮炊又たはこ等堅申渡候ニ付願書差出^シ

宝曆十二年^{壬午}年

町奉行日記

七月八月九月十月

十一月十二月^{ニ終}

大沢三平

七月朔日

御用番

会所御出席

月番 村山平学

一 船頭町渡し杭前ニ水増ニ付往来止り御届申達ス

一 昼後水減渡り初候届則申達ス

一 類族届昨晦日西新町京町両所之者無別条段届候由

二日 晴

一 二丁目林田屋孫七久世ニ罷帰ル尤指紙請高山村孫七ニ差越候様ニ

久世役所ニ申渡候由

三日 晴 御用場

一 去月及御沙汰置候車乘善兵衛儀櫻原前年佐渡部小屋場之儀魚住

仁太夫ニ願出候尤食物炊又ハたはコ吞事も為仕間敷旨再応大御目

付中ニ申候候処相濟勿論目付組為見分可申旨之聞ニ付今日大年寄

江 御聞届之段申渡ス

一 中之町鮎屋藤吉借屋ニ杉山助八借参候由藤吉ニ願候

一 元魚町絹屋宗伴後家持家由緒有之ニ付同町作人長兵衛讓リ

一 旧冬十二月十三日講元ニ銀札場ニ相納候三歩銀捨貫四百六匁五歩

之證文有之哉今日与兵衛殿被仰聞候ニ付相尋候処相見ニ不申候得

共銀札場ニ相納候ニ付無相違ニ付引合ものも有之旧冬日記ニも相

見候ニ付早刻与兵衛殿ニ其段申上候処左様ニ候て迎之儀ニ付官右

衛門ニ申談何分右三歩銀ハ小川才治ニ引合指出候様為仕度候三平

小申上候ニ右手形不相見候得ハ證文度々取候ニ追ニ先達之證文遣

候共反古可為趣土井官左衛門ニ申談可仕候旨申上早時才治同道官

左衛門ニ罷越右之趣談候処先如何共可仕間似手形可仕旨同人申ニ

付左之通小川才治取調官太も居合候ニ申談三平印形致し才治ニ相

渡ス文段左之通

預り申銀札之事

合銀札捨メ之

右三万人講三歩銀之内追ニ其御役所預り證文出次第引替可申候

仍ニ證文如件

札座奉行 土居官左衛門 村瀬八兵衛

三原判

四日 晴

一 一昨日宗旨奉行中ニ宗旨證文之儀到来之通相廻り昨日返達ス

昨日之部 一 左之届当冬大円寺万人講世話仕度旨願檜物屋清兵衛小桜屋半兵衛

山形屋勘左衛門関屋藤助

一 林田上之町溝浚在分ニ九日十日之「見分受度旨申出候得共其節

盆前事多き時分ニも候故林田四町之者ニ尋申付其節ニても人足差

出たたくや否聞繕候様ニ大年寄ともニ申渡ス

五日 晴

六日 晴

一此間野伏女御家中屋敷前夜分臥居申儀相聞_江尤狂気者とも相聞候
ニ付今日川端又六へ申聞せ非人頭_江追払せ候様取計候

七日 晴

一例歳之通御用懸同類相勤

八日 晴

一例歳之通宗旨判取候ニ付在町ハ「」町会所_江罷出候儀帳面認差出候ニ付受取置

九日 晴

一宗旨判取帳帳在町寺院方方社取次中へ相渡_ス

一船頭町舟持共四十艘分造作料米三俵ツ、拝借願出_ル在分拾四艘ハ御年貢相立申度儀ニ付願書ニ相除申候及御沙汰

一西今町三倉屋善四郎安岡町久米屋勘八二宮原新田村之水車片輪願之通今日御聞届相済申渡_ス大目付中_江も申達置

一旧冬西川へ差遣し候鱈代今日受取平「」伝治_江相渡_ス六匁之

一盆中御触書到来之通支配方へ夫々申渡_ス町分触_ニて又到来之趣申渡

一盆中廻り之儀申達し御貸人之儀同断

一今日之為召役替左之通

御加増五十五 合百三拾石御勝手
御推子拝領
御役免御勝手請込

三木甚左衛門 栗田辰右衛門 大御目付役
永井甚太夫 三木伊平太 御勘定奉行御役
太田官平 今永十助 御勘定目付
藤堂忠吾 松岡九右衛門 御勘定目付

十日 晴

一去巳十一月風与罷出候元魚町風屋伊兵衛借屋広永屋嘉兵衛儀尋申付置候処当春ニ至近在迄帰り居申候由元来借物筋之儀ニ候処「」友_ノ其筋及挨拶此間迄事済候ニ付帰住宅之儀願出候殊更子共三人

右伊兵衛骨居申故段々成歎ニ付今日及御沙汰候処御聞届之旨与兵衛殿_ハ被仰候旨近日申可渡之

一林田町山本屋与三七_ハ同中之町西屋治右衛門へ取次米式十俵去_ル

亥歳貸申候由右西屋志戸部村入作御年貢相滞候ニ付田地三反三畝

六歩高老石五斗老升老合之場所田地渡し切證文相渡し候処米主_ハ甚得催促候儀及迷惑濟口之儀申付呉候様願書差出候

一先達_而米直段下候故酒代右ニ准シ下直_ニ可仕旨申付置候処当時

又々直段上り候ニ付酒直段米直段相当申付呉候様願書遣_ス

名酒_老匁三分_上酒_老匁八分_中酒_老匁七分_下酒_老匁六分_下々々三分_一リ_ラ

右御用番へ及御沙汰候

一大円寺為再建立万人講来_ル十一月五日硯河原_ニて奥行ニ付立札之趣断書出_ス講元伏見町檜屋清兵衛同丁小桜屋半兵衛下紺屋町関屋

藤助同町山形屋勘左衛門

一近來町方衣服等之儀猥_ニ相聞講油断有間敷候得共何分心付候様今日与兵衛殿被仰「」

十一日 晴

一林田町作人善助売家代銀札八拾匁作人庄藏相渡候願書

一式歩中買株東新町紙屋源七_ハ京町道具屋定七_江相讓候願書出_ル

一戸川町黒坂屋早助老家代銀札式百目桶屋町布袋屋庄右衛門へ相渡候願書

一舟頭町舟持共借御米百式十俵之證文奥書之儀申出ル

十二日 晴 会所御出席無之

一永井甚太夫三木伊平太初 而 出勤

一伏見町有元宗明先年沼村善助取次米式拾俵田地上高倉村丸田と申

所之由相渡し證文ハ三月切^ニ而右田地受返し難相成譲込ニ付善助方

ニて名前付替有之尤□□村え夕六助と申者へ宛作ニいたし差置善

助一統御答之節宗明ハ六助^江申付上ハ被仰付候体^ニ而加徳米ハ年々

引取甚迷惑ニ及ヒ併彼是取賄相入せ入内済ニも可致旨申遣候得共

懸^而不埒成返答申越候故不得止殊郡代所^江願差出候ニ付及御沙汰

置宗明^江返答ニも申付候様ニ大年寄^江今日申渡ス

一大円寺万人講建替札之儀大年寄^江申渡ス

一広永屋帰住宅之義今日聞届申渡ス

一酒直段之儀願之通今日申渡ス

一今日左之通惣町^江触書差出ス尤大目付中^江も及噂置候

兼^而御儉約被仰出町方之者共衣類「」櫛笄之類御定法有之候

処近来^者猥^ニ相成末々之者共別^而御法度相背候族も有之

相聞候不届至極候先年被仰出候通弥相守可申候目付之者指出

可遂吟味候間其旨可「」

右之趣惣町中人念可相触候以上

一同心神田権兵衛義内々訳も有之勝手向御座候間別宅ニ暮し申度旨願出候ニ付其段聞届遣

右之義内證入込候事ニ付扶持給米母一生之間半わけニいたし案申入候ニ相成且又持参銀札三百目相渡由尤内々「」売買ニも斗候^へ者一メ式百目ニも相成候積リヲ以ハ右之通ニ双方申談候得ハ親之望ニ任せ権兵衛ハ本意も立可申越ニも候事故中間打寄内決致候由掛り合ハ川端又六中山市左衛門牢番杉山孫市之右之通^ニ而表^ニ而届ハ別居之儀計^{川端又六中山市右衛門}ハ申出ル

十三日 晴

十四日 晴

一盆中町見廻り相勤御両所^江御届ケ申達ス

十五日 雨

十六日 雨

一洪水ニ付梶場往来留リ之儀申達ス

一先達^而撰州^江相廻シ置候銀子證文之内百両宛四枚ニ右替去月相廻シ候所今日先證文相廻リ受取置

一寺田伝助昨日帰宅

十七日 晴

一本源寺八ツ半時御供揃 御三方様本源寺^江御出町「」御往来例之

通取計尤馬場喜内ハ通用

一梶場川明申達ス

一山手屋長次郎登判草田屋馬七鍛冶町かちや宗左衛門平八わたや弁

吉茅町五人各大山峯

一三保屋「」四郎綾部村借物式割五年賦ニ洛口相調候由書付指出ス

一広永屋嘉兵衛帰住宅指免ス中買株取上先達^而不埒之儀ニ付立出候

へ共今般無拋願ニ付聞届、遣候儀ニ付以来之「」禁足申付候様申渡^ス

一安岡町表屋長兵衛^ハ鉄砲町見取屋敷古地「」之下候て右敷地之内小藪付^ニ而小屋掛仕往来之者^江湯茶小売物等仕度旨願書出^ス

一久米屋勘八三倉屋善四郎^ハ御用石山流候右日数五日之内山出被仰付候様ニ願書出^ル

十八日 晴 御用場

一永井甚太夫不快出仕断

一三倉屋善四郎久米屋勘八石山流石願村山平学^江及御沙汰置差出之置

一惣大工共^江今般申渡候書付今日与兵衛殿^江及御沙汰候処追^而御呼出被成候^而此旨尤^ニ候御家老中^江被差出候御用関何之御存寄^ニ不被成「」候旨此旨取計候様被仰聞之書面^ハ外^ニ相記有之候

一ひしや須六夫婦参宮

十九日 晴

一林田屋孫七高山之一条^ニ付今日久世^江罷越候旨相届^ケ承置

一坪井町賀嶋屋吉三郎小須賀一学^江出入奉公願書出^ル

一去^ル十日申渡置候広永屋嘉兵衛掃住宅聞届^ケ中買株相放禁足申付候旨大年寄共^ハ申出^ル

廿日 晴

一石名平太兵衛悴平治此間鞞負殿^ハ暇之上禁足申付「」又昨日指免候由平太兵衛^ハ為知有之候

廿一日 雨 会所

一御城下惣大工共他所大工共入込之儀ニ付先役之裁許相濟候上又々

再許及候事容易不成候ニ付去歲吟味指詰リ書物等取之御用席申立

置候一条此度与兵衛殿^ハ御内分有之候ニ付今日於役所町棟梁初

大工共四五輩呼出^シ申渡^シ候大意 牛窓大工六人之者^者先年^ハ

出入来リ殊更諸人之為^ニも相成候事ニ付只今迄之通併当所へ參候

節町棟梁^江案内致手札受取細工相廻候様申付^ル

一御家中出入之大工共屋敷^ハ用向外參懸^リ有之時^者外大工^ニも雇可

申哉挨拶及先方存寄次第指支無之様可致旨申渡^ス

一小性町利右衛門数十年当所住居悴兩人迄細工仕罷有候^者他所大

工^与申名面^者相見へ不候乍去地大工仲間へ入不申候^者難相濟訳有

之^ハ何れ^ニも仲間之内^ニ弟子^ニいたし大工仲間^ニ入可申旨申渡^ス

一安岡町茅町両町斗出火後^者他所大工勝手次第入込候様先達^而申置

候へ共普請過半出来寄候^ニ付「」已後右六人之外他所大工入不申

候様申渡之「」

一大年寄共於宅大工理右衛門并堺屋伊右衛門安岡町茅町年寄呼出申

付候右惣大工共^江申渡^シ候品々以口達申相渡候

一今日右取計申渡^シ之書付別書^ニ有之尤「」与兵衛殿へ及御沙汰取

計立合石名平太兵衛目「」権六玉置忠兵衛藏合孫左衛門諸吟味茂

渡市右衛門罷出^ル

一右一条去歳以来御作事方内々引合候ニ付佐藤佐内呼^ニ遣^シ取計前

通用致置一御城下^并在中非人頭共心付不行届殊更近来烏論成者入

込候沙汰有之候間急度心付可申旨大年寄共へ申為聞置候

一二階町堺屋伊右衛門客大坂堤川町天満屋甚九郎弟腰物小道具商売

伊屋新兵衛と申者御当地へ指越申度願今日及沙汰御間届ヶ申渡ス
「山下徘徊之儀指留候

廿二日 小雨

一安岡町今夕百万偏四ツ時迄致執行候由申出ル

廿三日 晴 御用場

一小須賀一学江坪井町加嶋屋吉三郎出入奉公

一御延間帳栗田辰右衛門ハ相戻ル

一久米屋勘八三倉屋善四郎相願候御「石山流石之儀不相濟ニ戻候
併追而又々余「不成儀申出候て可懸評儀申聞之則大年寄江差戻ス

一広永屋嘉兵衛禁足差免ス

一今日五ツ前頃二階町山手屋借屋六平と申者之方纒之手過ヲ「火

ニ町中さわかしく候得共早速鎮リ御所ニ申達ス

一來ル廿六日御祝儀ニ「御触書左之通

今般御家督為御祝儀來ル廿六日御酒御吸物被下候自是麻上下
着用番外以上ハ四時御小性組い下坊主迄八時登城可有之候

一河原町夜番所立替之願出ル

廿四日 晴

一二階町六平儀追込申付ル山手屋儀ハ昨夜ハ自分扣之由申出ル

廿五日 晴

一坪井町くしや太吉と申者此間勝間田江参居申此者無量寺流本則所
持候儀与風「僧之虚無出合相互本則見合候上右多吉持候本則預
り申由ニ押付候由其儀爰元「顯方江為知参早速玉置忠兵衛方へ

露顯参対談之上勝間田へ可罷越旨申候得共当時吟竜取計之儀ニて
殊更右客僧も兩人明暗寺流之由弥吟竜参込応対之上右本則取戻候
様取戻候様可然旨申談露顯も吟竜参談致候上忠兵衛も内分申聞候
ニ付其旨承置吟竜罷越候由

一今日かや町百万偏致執行候由

廿六日 晴

一今日於御城御祝儀頂戴尤桜之間無「永井甚太夫同道御席江罷出
右御礼申上候下 城以後廻礼

一來ル廿八日兩役所支配之者御酒被下候段村山平学ハ申渡有之

一川留御差免被仰出候早速申渡ス

廿七日 晴

廿八日 晴 御用場

一今日於会所兩役支配之者御酒頂戴宗旨「書役も頼ニ一所に頂戴
御用番中へ廻勤

一戸川町はなの借屋屋又右衛門世倅伊之助兼而不行跡ニ付追払申付
ル吉井柴内金嶋栄治

一備前上道郡佐七清吉と申兩人此度御登米など引請之儀申付候儀寺
田伝助ハ申出ニ付栗子辰右衛門ハ被申聞猶又与兵衛殿江申達シ候
処別格も引合岡山郡奉行へ書状遣し候様ニ被仰聞候

一札元三人呼出シ諸吟味役差免尤太儀之旨申渡ス

一松尾市郎左衛門大文字相印シ差免し諸吟味役唯今迄之通

一八百屋七郎左衛門諸吟味役申付役儀ニ付大文字相印并門松差免し
申渡ス

一 二丁目林田屋孫七ハ高山村四郎兵衛ハ取替銀返濟之儀久世村御代

官所ハ添翰を以訴訟申遣候処右双方へ嚙人塚谷村ハ「原村庄屋喜

兵衛参込居候而願下ニ相成得心之上当午歳ハ来ル戊年迄五ヶ年賦

ニ相ハ「久世役所手代中山林右衛門川村三郎治田中幸五郎ハ先達

之通返書并内濟證文写持帰リ候

元三貫百七十五匁内ハ六百七十五匁内了簡引

残五百目正銀可相払

内ハ百目当九月中可払

百目来末二月中可払

猶残三百目此分末暮ハ戌ノ暮迄四ヶ年賦

七十五匁ツ、

一 今夕非人頭共ハ注進下高倉村兄伴右衛門弟仁太郎親長太郎坊主申者之由盜賊

沙汰弟仁太郎逃出申由申出ル

廿九日 晴

八月朔日 御用番
月番

一 諸士登城御礼申上ル

一 去月廿八日大御目付所ハ廻文左之通

御城内表冠木裏下御門ハ内日傘指候儀有之間敷儀之処近来心
得違之族も有之候様粗相聞候向後左様之筋無之様可相心得旨
御用所御差図ニ付及演達候

此旨ニ候処又々同廿九日触出し廻文左之通

昨日御城内日傘相用候儀心得違候段相触候処先年相濟候事而

問違之旨ハ今迄之通可被相心得候此儀大目付所日記又ハ中奥目付日記

ニ而追而御家老中御考被成候処日傘之儀先年御評儀相濟不苦候由相聞候

一 去月廿七日之朝大坂者之由ニ而先達而七月十日出真賀召連候女老人

欠落仕候而心掛申当所ハ参込候処安岡町ふく嶋屋幸助居申同十一

日ハ私方へ相返し候へ共十二日之朝又々「出し行衛相知不申其

御幸助方へ罷越差詰いたし候へ者旅者之儀筋「不申」帰申候其

後噂承り申候へハ御家中之族へ入込居候由相聞ハ申候ニ付罷越申

候其女幸助方ハ相渡「被仰下度様相願候旨申候折節又六も参居

申平太兵衛も呼に遣し其外同心とも参込目明才兵衛を呼寄平太兵

衛ハ右之「申渡シ其方儀直訴決而取上不申候併当町之者其方召

連候女之儀何角と妨いたし申様成儀申候ハ此儀ハ聞捨ニ相成不申

候ニ付耽与吟味申付弥不埒致候様子ニ候へハ其女ハ追セ候其上

ニ而其方召連候様此方ハ相渡申候てハ無之候其方願ハ聞届不申候夫

とも其方支配方ハも指紙取参候てもいか様ニも取計可遣候仍而唯

今目明ハ相越し追而彼等取計可申段申渡ス然ル処安岡町幸助儀者

十一日ニ相渡し候儀得心之上受取可然も申候由吉田屋文四郎と申

者も能存今町はたや清助方止宿又ハ翌十二日欠出し候儀ハ不及事

之旨其外天目屋庄兵衛右はたこ屋并吉田屋文四郎などへも書付取

之候処全右大坂者段々不届ニ相「候事尚々女之儀ハ右之者ニ甚

責はた「逢打殺させ候事も難相知候ニ付欠込候ハ「内々弥左

衛門方ニ付是又聞おり候上不及存寄候儀ニ付於御次及御沙汰置万

一立帰屋敷方其外「」ニおよひ候事も難斗後日之「」置今晩

目明於宅誤り一札右之者之「」御領内へ立戻り申間敷旨申渡し

同心栄内政次廻り之底ニて参込原田屋新助も目明に差出悲田院と

も江も申遣是又兩人ほと廻りの底「」追払申付之右大坂者之名

ハ勘十郎と申候由

一右懸り合ニ付書付一札類別ニ有之

一寺田伝助儀急御用ニ付今朝登城いたし候旨大年寄共申出ル

一札元共江諸吟味役差免候ニ付家役之儀ハ只今之通ニ候旨且又大年

寄とも及相談為取替銀札ハ唯今迄之通仕候様申渡「」

一町方左之者共兼而不行跡之沙汰相聞候ニ付追込申付候

德左衛門 伊右衛門 定七 理右衛門 加助 利助

新島町留屋 吹屋町ノ屋 船頭町 二丁目ノ屋 同安原屋 二カノ島屋

太郎左衛門 吉右衛門 勘助 長右衛門 与市 左助

同登屋 同まかい屋 小生計男侍 同し屋

一小平 伊助 忠三 仁兵衛

一六平追込差免

右両条御用番中大御目付中江届

一町方宗門改帳今日差出ス

惣人数合八千弍百八拾三人 内男 四千四百五十八人

女 三千七百二十五人

三日 晴 御用場

一今日与兵衛殿御渡被成候町在触左之通

急度越度ニ可申付候尤目付之者指出し候間末々迄猥成義無之様可

申渡候以上

一先達ニ之洪水「」村之築流候ニ付献上鮎払底ニ付魚町鮎問屋と

も其外組合献上鮎ニ相成候分ハ姫路屋甚五郎方江差遣候様可仕之

旨申渡シ尤代物之儀も無滞様其請方相計候様今日大勘者「」源右

衛門申間御用番中ハ被仰候旨申ニ付猶又御用番中江も申上置今日

魚町問屋とも「」申渡ス

一寺田伝助申出ニ付栗田辰右衛門申聞備前岡山郡奉行輕部与次

兵衛江通用書状左之通

一筆致啓上候御堅固珍重奉存候当町川下米船積之儀当町中之

町寺田伝助西今町三倉屋善四郎と申者請負ニ付其御支配所上道

郡西大寺村左七同村佐「」申談海上舟積之儀世話相頼候趣御座

候右舟積取計之内万一変儀も有之候ハ、右ニ付御役所可頼御世

話儀も可有御座候間宜之心置被下度奉存候為其如此御座候恐惶

謹言

此書面及御沙汰候上辰右衛門江引合候処存寄無之案文之通可致旨申来ル

四日 雨

一今日川端又六藤森権六兩人藏合孫左衛門玉置忠兵衛於宅馬見分例

之通取計毛付上中下改帳持作兵衛六右衛門奥書ニ而指出ス

一下高倉村伝太郎と申者同村勘助与申者之方へ盗ニ這入一宮村地方

目付於宅吟味及白状今日七時過入牢申付添御届例之通

五日 雨

六日 雨

一 町方宗門改帳宗旨奉行中^江差越^ス尤奥書^ハ不調箱之上書も不相調追^而改濟候^而滞事^一「先年井上弥三兵衛も相頼候^而右之通致例有之

七日 晴 会所

一 境町檜^一屋へ播州^ハ手伝參候届^并勝間田町葉屋伝右衛門他国行
一 小性町田辺屋嘉七と申者八年以前大坂へ參居申^ハ此度病死いたし候届

一 堺町土佐屋庄三郎家売百五十匁元魚町米屋宇兵衛買

一 三倉屋善四郎久米屋勘八^ハ石山流候石被下置候様再願右相場瀧口

川除石垣築留候処築台之^ニ候へ^ハ御普請所旁入念申付候趣書付差出候得共村方故障之儀合且又岸権六^江も引受候場所故申談置候

一 かや町瀧右衛門^ハ田邑又^ハ川崎其外借物筋筋^一「難儀仕候^ニ付願書再心出^ス則下代^江相渡^ス并おけ屋伊左衛門^ハ先年宿賄代滞有之

尤田邑^ハ庄屋相手之是又下代^江相渡^ス各構口地方目付^江為尋之

一 銀札場^ハ手綿商買之儀先年触出候得共近来甚猥に相成候^ニ付以来

^ハ手綿とり買候節銀札場へ書付差出候様可仕旨触書之^一「奉行中^江与兵衛殿^ハ御渡し被成尤^一「可申^一「旨被仰候趣猶又其

段被仰聞之^而考濟之上町分触出し可申旨被仰聞之

八日 雨

一 大御目付中^ハ廻文早速組中町分触出^ス文段

主上御不予之処御養生不為叶去月^一「被遊崩御候自是今日^ハ

十二日迄五日之内鳴物高声声請停止之事候右之趣文略^ス

九日 風雨烈 御用場

一 洪水^ニ付かちば渡し留^ル

一 東新町三村屋弥吉と申者世悴権治儀兼^而狂氣^ニ付折節高声致候由申出聞置候

一 明酒品分書付差出^ス

一 京町^ハ花屋惣兵衛^ハ同町秤屋甚右衛門家内三人之内^ニ籠居申京町宗門帳名前^ニ顯し不申候旨今日^一「文差遣^ス

一 おけ屋突出し林木有之場所右木屋とも三人^一「掃除^ハ申付構場^ハ

おけや町元之如く^一「事木屋とも^ハ心得を請掃除為致候様^ニ可申付旨大目付中^江申談^ス

十日 晴

十一日 雨

一 去^ル七日相廻し手綿触之儀存寄書付与兵衛殿へ差出^ス右^ニ付服部弥左衛門とも申談^ス

一 鍛冶場往来明候旨注進御両所^江申達^ス

十二日 晴 会所御出席

一 おけや町^ハ先達^而指出候土手之上大分丸太指置掃除之砌及難儀候旨町之木屋三人へ申渡しおけや町^江相募候^而掃除之儀指図受勿論

おけ屋町構之儀又^ハ行倒者其外心付候儀^ハ猶以無油断取計木屋^江

も氣を付申又吹屋町も木屋居町之儀^ニ候得^者是又氣を付候様可申付旨申渡^ス

一 去^ル二日追込申付候者共今日会所^江呼出し尤^一「合部屋目付藤森

権六藏合孫左衛門斎藤孫右衛門吟味松屋市郎左衛門諸合同心室井

政治取計^而与兵衛「大御目付中へ相届」申渡左之通

十四日 晴 御用場

其方とも兼不行跡之儀相聞候各申付候急度吟味可遂候得共先
此度へ令用捨追込差免此以後人品不宣儀相聞候へハ急度申付
之銘々家業相務可申候

一 町分博奕^二相成候^ニ付触之儀昨日取計候段今日御用番中^江申達
大目付所同断
一 会所切戸繕之儀大御目付所^江申達^ス

一 斎藤孫右衛門願書森对馬守殿領分播州細月乃井野屋田兵衛弟己之
八儀当年式拾歳ニ罷申候男子無之ニ付此度養子ニ仕度旨加判同役
藏合孫左衛門玉置忠兵衛取持人縁類ニ付吉野郡粟井村七郎右衛門
之由

一 西大寺ニて川下ヶ米世話致し両人之儀何之方郡奉行へ之書状御勤
定所^江も引合之上猶又与兵衛殿へ御伺申上候処弥差越候様被仰付
候ニ付坂口屋治助へ申聞備前西大寺へ書状遣取計申候
一 石山流石之儀御勘定奉行中請方無構横山村ニても故障無之大御目
付鈴木喜右衛門へ聞届遣候様之申聞則日大年寄^江申「郡代所日
記ニも有之候

一 山本屋与三七訴状太田村源兵衛^江聞合為致候処「之表無相違ニ
付濟方之儀孫左衛門^江申渡^ス

一 美濃職人町みよし屋三郎兵衛家売式メ三百目下こん屋町貞田屋甚
吉相もとめ候願書

一 吉田屋喜八取次下高倉村之者ともへ借米證文相添地方目付中嶋
定八相渡候様下代^江申渡^ス

十五日 晴
一 盜賊仁太郎牢賄之儀牢番へ為知遣^ス

一 町方宗門帳付紙ニて今日宗門奉行中へ被差越認替候上可遣旨及返
答置候

十六日 晴 会所無御出席之
十七日 小雨

一 明日町中へ相触候様書付藏合孫左衛門へ相渡^ス
博奕之儀兼^而停止之段稠敷相触候処近来ハ別^而猥^ニ相成所々博

一 三倉屋久米屋此間願相濟候流石来^ル廿日入込候届申出^ル

突致候趣相聞^江候銘々家業を致忘却不宣儀ニ立入人「もの共
迄引入自然と町人之風俗も悪敷致成候儀甚不届之事情依之今般
昼夜「忍行下之者差出し怪儀有之哉と「と町家^江無用捨踏
込遂吟味候様申付置候間此旨相心得町々組合切相互致吟味若左
様之族有之候ハ、早速可訴出候若隠し置脇合相頭候ハ、組合之
者同罪可為右之趣町中年寄呼出し入念可申渡候以上

一 勝間田町坂口屋次助合撰州大坂上本町斎藤和泉と申社人縁類^而和
泉夫婦御当地住宅仕度願出^ル請人ハ中之町小山屋喜八堺町筆屋新
吾證判有之
十八日 雨後晴 御用場
一 京町八十屋忠八家同人借屋岡の屋伝右衛門へ売代銀札式百目也
一 昨日差出候斎藤和泉と申もの職業も有之追^而住居之上相願 社

十三日 晴

人又ハ山伏なとましましわり候儀ハ有之間敷哉有無ニ付願人ともよ
り書付差出し候様可申付之旨藏合孫左衛門へ手紙差出置

一河原町番所替之儀聞届候段大年寄_江申渡_ス

十九日 晴

一玉置忠兵衛方油師とも昨日播州へ帰候由

一新職人町瓦屋治助家木屋長藏_江売代銀札式百四十日之

一北山修斎倅寿斎大坂へ出職当年辰年迄為医学留

一下こんや町中横町土橋痛候段

一川口藤十郎忌中引込居申外忌中差免明日今出勤仕候様可申付之旨

御用番与兵衛殿被仰付早刻大年寄へ差紙を以申遣_ス尤銀札場差

支ニ付其段申立有之由

廿日 晴

廿一日 晴

一手綿売買ニ付銀札場へ届候様先日以來御勘定奉行服部弥左衛門_江

引合与兵衛殿_江も申上今日大年寄孫左衛門_江申渡し町々年寄相居

演説致候様ニ申渡_ス口達之趣左之通

一牢屋表門両程沈ミ躑放し中折いたし明立難成候ニ付牢番申出候ニ

付及御沙汰置候

一桶屋町油屋清右衛門家細工町伝藏_江売代銀九拾五匁

廿二日

一久世御代官所竹垣庄藏殿勝南郡田方為検見之罷越明廿三日御当所

川筋通船_三郡代_ニて二宮辺_江罷出_ル人馬出立之同心例之通土手筋

差出候儀御用番中へ申達_ス大御目付中同断

一右ニ付大年寄_江配肩参候者申出_ル

一明廿三日大石半次筋違橋向河原ニて炮術執行ニ付安岡町へ為知申

遣候様大年寄へ申渡_ス

廿三日 不正之天 御用場

一御代官九ツ時二宮筋違橋例之場所より乗船土手筋同心差出_ス無滞

相済

一戸川町重屋伊右衛門婦牧新藏役介分ニ相成下御屋敷へ奉公ニ罷出

候趣願書差出_ス

一去_ル廿一日大年寄とも_江演説申渡し手綿届之口達左之通

式步中買共取次仕候_而他領地他国者へ売渡候くり綿_者其員数

書上銀札場_江指出し候得共手綿之儀ハ書上指出候儀兼_而御用

捨被成置候処其通_ニ不_レメリ之由御奉行所達御聞ニ付此後ハ

手綿ニても指遣し候員数書上銀札場_江差遣可申候此旨自分共

及演説候様被仰渡候

八月廿三日

一勝間田町坂口屋治助願書添書差出_ス

齋藤和泉_一
社人之趣ニ付

廿四日 雨天

一坂口屋治助添書之大意齋藤和泉御当地住居之儀相願候趣ニ相済候

得_者右之者兼_而御番所社家方弟子入内約も仕置候間相済候上早速

書入内約之通承知可仕趣ニ聞置呉昨日添書差出_ス尤願主其外此間

之通

廿五日

一此間相願候社人之儀ニ付社方故障ハ有之間敷哉内々引合可申寺社

取次伊達今右衛門江罷越及対談候処此儀、徳守神主ともへ相尋可
申旨ニ付願書并追而申付候添書共ニ写し留候

一 御作事役人中ハ川戸御藏下代米入札相望候者、来ル廿六日迄ニ可
差出旨文段大年寄とも方江遣置候尤右場所最寄之町々へ相触呉候
様申来候旨申出候ニ付通用之上今日大年寄孫左衛門へ申渡ス

廿六日 晴 会所御出席無之

廿七日 小雨

一 式歩中買二階町木綿屋長七ハ二丁目辰美屋九兵衛江株譲リ

廿八日 晴 御用場

一 徳守宮祭礼内試いたし候由相聞江例歳之通為仕可申哉与兵衛殿江
御内分伺候処去歳之通ニ越過不致候様聞候様被仰聞候ニ付早速大
年寄江内分申聴せ候

一 戸川町重屋理右衛門願聞届ケ

一 一かち町三国屋伊右衛門と申者里公文村庄助方江五年切奉公

廿九日 晴

一 去已之度封し札三拾六メ七百九拾目今日服部勘定奉行弥左衛門於会所通用
右銀札場江持参致シ封印切替可申旨与兵衛殿ハ及対談「旨
被仰候由申聞候ニ付早速大年寄孫左衛門へ其旨申渡ス

一 茅町打穴屋庄右衛門焼失跡敷地安岡町増原屋藤九郎へ売渡候様願
書代銀札百目之

一 右増原屋藤九郎ハ質に入打穴屋庄右衛門預り置百七拾目取替候処
此度請返し之上京町三輪屋平左衛門取次而銀札百五拾匁湯原屋伝

兵衛預り置候処此度家質受返し

一 右家伝兵衛ハ京町若松屋幸吉へ売渡し四百五十目之

一 佐和屋孫四郎年寄役免之儀差免跡役浜野屋善十郎可申付旨藏合孫
左衛門へ申渡ス

九月朔日 晴

御用番

月番 平野丹下

一封札開印之儀申渡候由大年寄ハ申出ル

二日 晴

一 明三日四ツ時御供揃而銀之助様杉山江被為入尤御道筋京町夫ハ川
井前川戸御藏前御通り被成候段隅田族ハ申来大年寄江申遣ス

一 勝南郡藤田村菊部久米南条郡別所村重部外ニ打かけ三人先達而御
約束而来年迄五ケ年間配当御布施御頂戴不仕役申上置候得共此度
之御家督ハ甚重御祝儀之御事ニ付頂戴仕度旨右之者とも申出候間

何分申上候由配当場ハ申出候得共此段如何ニ奉存毎々申聞候処達
而申出ニ付及御沙汰旨大年寄ともハ内分申出ス

三日 晴 御用場

一 「屋団五郎歌州江引越願尤御用次第何時ニも罷帰可申旨人別離
願書出ル則「八軒屋町三好屋九右衛門与申者伯父ニ付此者之方へ御聞届大
御目付所江も申達ス

一 昨日申出候座頭とも一条及御沙汰候処大御目付中江も申談候様ニ
与兵衛殿被仰聞御勘定所江も申談候上大年寄孫右衛門へ申渡此度

右座頭とも申出御家督之儀、格別恐悦奉存兼、五ヶ年之間吉凶ニ付年限之間ハ決而申出、間敷旨申候得共今般ハ御祝儀頂戴仕度旨甚奇特之事ニ被存夫々御役人中迄町奉行中ハ被及御沙汰候併右約諾年限之内公儀御吉凶ニさへ御構不申候ニ付今度ハ御手前事ニ候ハ公儀江被対候而も御祝儀遣候儀不相成候其段相心得候様ニ申聞旨申渡、

一 去歲被仰渡候封銀札三拾六貫七百九拾目封し御免被成候段大御目付中へ申達、

一 茅町瀧右衛門田邑江取次借物追訴猶又「」候様地方目付江可申渡為申聞候様齋藤孫右衛門江申渡候

四日 晴

一

五日 晴

一 浜野屋善十郎妹備前和田屋久三郎妻此度病氣ニ付為養生滯留願

一 下こん屋町山かた屋勘右衛門備前江積下し醬油桶かめ類

一 座頭とも一件平野丹下江申達置候

五日 晴

一 銀札開封之面々追々差出候処林田屋孫七豊屋忠右衛門忠右衛門兩人未差出不申候処紛失之儀相聞候故齋藤孫右衛門江内分申聞せ何分可然様札座江遂内談候様申渡候

一 於直様於秀様明六日四時御供揃而長法寺辺江為人候而田町通り合大番所蘭田通御道筋先払掃除等之儀夫々申遣、

六日 晴

一 小桁御番所江猶村安右衛門と申者炭百五拾俵東北条郡黒木村合買請備前国金岡湊江積下シ売払申度川筋両番所無相違船便ニ倉敷御代官所裏判相願裏書印調来リ候得共是迄積「」無例ニ付聞合候儀郷左衛門合相頼来候旨可児平左衛門合伺被出候ニ付先大御目付平野丹下江及沙汰之

一 此間座頭江申渡無滞引取候段丹下江參及沙汰之

一 安岡町増原屋藤九郎家売打穴屋庄右衛門銀札式百目ニ売渡之

一 京町加茂屋和六預リ物主相知レ宮部村信兵衛中谷村又助同村喜市道具相渡旨申出、

七日 晴 会所御出席

一 去月三日差越候備前郡奉行輕部与次兵衛江書面返書一昨日五日到来扣ニ有之

一 林田町豊国屋十右衛門方去月八日盜れ物之内五ヶ年前封銀札三百目去巳年銀札百五拾目被盜候得共甚恐入申出、致迷惑罷在候処銀札開封被仰出候ニ付無摺断書指出し乍然銀札場江対し於役所者第一御政務不相濟ニ付急度可取計儀と奉存此間不及御沙汰罷在候へ共不得止事今日御沙汰申上置、御勘定奉行中江も及通用置右之者今一応出銀申付再封致し追込「」候様ニ可然奉存候旨御伺申上候処六左衛門殿御聞濟相濟之

一 式町目林田屋孫七封印銀札三百目は、与風置失候様断書出、同断之趣可申付段御沙汰申上、尤兩様大御目付中江も申達、

一 姫路屋甚五郎儀病身ニ付御藏元役相勤無覚束奉存候ニ付役免之儀願尤以御憐愍世悴本治、跡被被仰付被下様願書差出尤御勘定奉行

中へ兩願及御沙汰「」追付御呼出し被成御聞届之旨六左衛門殿被仰渡御勘定奉行中_江も及通用会所_江姫路屋父子呼出し聞届之趣申渡廻勤之儀御舟奉行中其外一統為相「」

一右申渡_シ立合藏合孫左衛門月番齋藤孫右衛門罷出_ル石名平太兵衛ハ不快無出勤無之

九日 晴

一銀之助様明日四時御供揃_ニ而杉山_江被為入候旨申来_リ京橋口_ハ川戸御道筋例之通申遣_ス

一大隅官神事同心四人差出_ス

十日 晴晚_ハ雨

一於会所申渡_シ之儀左之通

田原屋六兵衛_ハ口達

○其方儀去歲以来御藏設計方不宜儀粗相聞候得共令用捨置候今般甚五郎病身ニ付役免之願差出し願之通差免し世倅元治_江跡役申付之元治新役之儀万端不案内可有之間別_而其方念入相勤正路明白ニ下方船持共御用向大切ニ相働候様可取計候此以後不筋之儀も相聞候ハ、無用捨遂吟味急度可申付候間此旨を相心得念入可相勤

今津屋平藏「」

○其方儀去歲年寄役申付候然_ル処此度姫路屋甚五郎病身ニ付役免相願跡役元治_江申渡新役之儀ニ候間万端無覺束可存候仍_而其方儀_者居町之儀舟方吞込之事ニ候得_者諸事兩人ニ差添心を付自他人込下方之儀氣請宜様致_シ無覆藏申談_シ存寄之儀も候

ハ、役所_江可申出候

右申渡三平_ハ取計御勘定奉行服部弥左衛門永井甚太夫入替り又々兩人衆_ハも御船積之儀ニ付自然と間違滞之儀を有之間敷旨段々入念相勤候様被申聞_早而平藏_江も段々被申聞候

右同道齋藤孫右衛門藏合孫左衛門

一齋藤孫右衛門於宅一昨日御伺申上候林田町二丁目兩人へ藏合孫左衛門諸吟味八百屋七郎左衛門立合申渡し孫右衛門_ハ口達

○此間封札開印被仰付候処不埒之趣申出不宿ニ答候兼_而可仰付候得共御憐愍を以御用捨被成殊更札座よりも御挨拶も有之_ニ付_而改_ニ再印被仰付追込被仰付之

一元_ウを町豆腐屋次右衛門同四郎左衛門当三月_ハ拾文宛相場ニ被仰付候へ共此間大豆高値ニ相成候ニ付拾_ハ文ツ、商売仕度惣とうふ屋願奉候旨願書出_ス

一壹匁 大豆式斗升 三步薪代 右拾丁分元入壹挺ニ付十壹文ツ、売立百拾文_匁而壹匁七分「」内壹匁三分元入引残四分四リ手間代之

十一日 雨

十二日 晴 会所御出席

一とうふ屋願豆腐直段十一文ニ相成届「」

一御藏米四拾八匁町米四拾四匁

十三日 晴

一町分細工之町辺烏論成女致徘徊之旨相聞ニ付藤森権六_江内分申付

追払候様目明^江申渡させ候

一 広瀬土橋掛いたし明日往来始候由村瀬政兵衛^ハ申来

一 宮脇町籠屋長兵衛と申者之妻先月廿一日之夜罷出候処行方不相知候ニ付方々尋候得共相知不申処御家中様へ参込居申然^ル処三才成候娘養育難儀いたし候由尤罷出候節申分も不致罷帰候^而弥「」仕候由宜申付候様ニ歎書出^ス

一 今夕四時過広瀬義平長屋^ハ出火ニ付町火消追々駈集早速無類焼相

鎮り御用番大熊六左衛門殿平野丹下^江罷越相届^ル

十四日 晴 御用場

一 広瀬土橋之儀及御沙汰大御目付所同断

一 長門殿^江指出候間按摩取者有之候ハ、書付可差出旨鈴木喜右衛門被申聞則大年寄^江申渡候

一 味噌屋理左衛門世悻清八与兵衛殿^江供仕江戸^江罷越候段願書差出^ス

一 撰州国熊村^ハ弥四郎と申者福永屋藤左衛門方造酒手伝召抱申候旨断書出^ス

一 東新町弥吉と申者上之町^江引越人別人願

一 来月廿一日講場引渡^シ川端又六ニ下代日下左助差出^ス

十五日 晴

一 与兵衛殿出府ニ付今朝出立

十六日 晴

一 徳守宮祭礼ニ付例歳出来候家台踊子差出申度旨左之通願書差出

西今町 京町 元魚町 鍛冶町

一 実綿先年触之通他国他町^江売出候儀且くりわた売買之儀旁先年触候通相守候様可申触之旨大年寄申渡^ス

一 豊国屋七右衛門林田屋孫七追込差免可申旨及御沙汰御聞届平野丹下^江も申達^ス

十七日 晴

一 豊国屋七右衛門林田屋孫七追込差免申渡^ス早^而紛失札ニ付再封受候様申付^ル銀札場^江斎藤孫右衛門罷越右之趣及噂

一 徳守祭礼ニ付例歳之通諸事慎火元用心等之儀触差出^ス

一 御子様方例之場所^江被入成之ニ付隅田族へ取計及通用可申旨六左衛門殿^ハ御書翰参候

一 右ニ付族^ハねり物引込候刻限又ハ番「」相廻し候哉何分例格之通取計申候様ニ頼参候

一 西新町大坂屋^ハ兵衛油瓶川下り願書出^ル

十八日 雨 御用場

一 祭礼ニ付明日同心五人入申候旨大御目付中^江申達^ス御勘定奉行中^江も申談^ス

一 内山下^江町方之者見物に不入込候様ニ大年寄^江申渡之演達申付^ル

一 先達^而差出候社人斎藤和泉と申者社職之方故障無之ニ付徳守神主^ハ寺社方^江願書出し勿論下社家^ハも以来故障之儀申間敷旨請書差出候由寺社取次伊達今右衛門村田孫兵衛^ハ被申聞候ニ付双方通用

之上願書及御沙汰候処早速御聞届ニ付今日大年寄^江其旨申渡^ス

一 長門殿へ差出候按摩取書付名前差出^ス

一 ねりもの番付隅田族^江相渡^ス

一 鍛冶場土橋今晚^ハ往来致候段及御沙汰大御目付同断

一 雨天ニ付明日祭礼御^一延引勿論御下屋敷^ハも其旨ニ付御延引之儀族^ハ申来^ル

十九日 昼^ハ雨上^ル

一 松田屋五郎左衛門町作庄屋ニ申付之旨金井伝七^ハ申来^ル

一 徳守宮祭礼式^ハ相濟候由警固引取

一 明日祭礼内山下入之儀寺社奉行中^ハ伺付候処廿日廿一日相延せ候様被仰出候様村田孫兵衛^ハ為知

廿日 晴

一 豊国屋林田屋^ハ再封銀札持参候ニ付改封申付候旨村瀬八兵衛^ハ申来^ル

一 大年寄^ハかち場土橋往来始り候ニ付渡し船為引候旨申来^ル

廿一日 雨

廿二日 晴

一 徳守宮祭礼ねり物明廿三日相成之旨支配取次村田孫兵衛^ハ為知来則刻六左衛門殿へも申達シ大御目付平野丹下へも手紙遣^ス泊方^ハも申来^ル早^ニ同心出入加人諸事去^ル十九日之通申渡^ス町分取計是又右之通申遣^ス隅田族^ハも赤座屋^江御出之儀為知手紙到来

一 明日御用場延引明廿四日ニ相成候旨廻文参^ル

廿三日 晴

一 徳守宮祭礼去歳之通ねりもの宮川御門^ハ入制札場之辺へ御使組式

人出はり町分人留同心共家敷付^一例之通暮に懸り大御目付中^江伺ねりもの御城内切^ニ相止メさせ同心警固為引取無滞相濟候旨六

左衛門^江も大御目付中^江も手紙^ニ相届^ル之

廿四日 曇 御用場

一 昨夜ねりもの為引候後又々山手屋^江参候客之好ニ付かち町芸者とも引寄候儀其方方迄も内意^ハ可申出之旨今日孫左衛門^江申聞せ候処同人方^ニても右之芸子とも呼に遣^シ客饗到候旨仍之其儀不調法存指扣可申旨今日平太兵衛方迄伺手紙差越申候得共全其儀^ニ及間敷旨平太兵衛迄及返書

廿五日 晴

一 御触書大御目付所^ハ左之通

一 東海往来之輩桑名宿を追越熱田宿^ハ四日市宿^江直々渡船有之分以来^ニ登り下り共其先触^江書込せ可被申候

右之通酒井左衛門尉殿^江伺之上申達候御同列不残様^ニ可有通違候以上

午七月

右之趣従公儀被仰出候ニ付其段可被相心得候尤同役并支配末々^江可相達候

廿六日 晴 会所御出席無之

一 山北村又市方^江去秋已来盗人這入四度及尤手掛^リ今以無御座候^ニ付此間願指出候ニ付町方質屋とも吟味申付候処三町目草津屋浜野屋^ハ書付差出し二丁目福永屋藤左衛門方白踏奉公致候金三郎と申

者質物置候趣又市〆「出之色目之内無相違早々ニ付右金」
申者ハ請人ニ願福永屋番いたし居申由申出候ニ付早速同心差向有
増吟味申付候処万端不定之儀ともニ付今日ハ先福永屋ニ其儘差置
候

一右ニ付八助ト申者ニ船頭町宇兵衛ト申者方ニテ相頼質置遣_而申候
又善吉_与申者ニ「高下安兵衛方ニテ被頼質置遣候由申候粗ハ及
吟味候得共不」成儀相聞_江申候

一金三郎ト申者ハ新野美庄田ト申所_出出候者_ト無宿者之由相聞之
一元魚町古川屋宗助岡山ハ三年切奉公出候

一先達_而罷越三室屋宇左衛門方來春迄滞留為仕度願差出_ス

一玉置忠兵衛方油師五人來五日切播州_ハ呼度届書

一東新町藤七太田村_ハ引越

一西今町紙屋六兵衛後家五カ年以前之封銀札之儀願之趣去年巳之春
疫病家内相煩親夫婦又ハ兄弟追々致病死身ノ上有切右之養生ニ入

當時之暮向至及難儀男子忒人養育仕罷有之仍之何「右封」銀

札三百目之処何トそ開封之儀御歎申上候旨申出_ル

一町分宗門帳三十通證文式十五本付紙之通調候_而今日村田孫兵衛_江
遣_ス

一去_ル廿四日六左衛門殿_ハ御渡被成候大坂_ニ出訴左之通

布買掛銀出訴

安土町六丁目

肩屋三郎左衛門

此方様御知行所

作州津山二丁目

相手 升屋佐右衛門

一右左衛門_江布代掛銀三ノ式百六拾八匁九分相「御座候付度々
催促仕候得共相済可申」仕候御慈悲之上右左衛門被為成御召
登銀子相渡候様被為仰付被下候ハ、難有可奉存候

宝曆十二年午九月五日 肩屋三郎左衛門

御奉行所

廿七日 晴

廿八日 晴 御用場

一吟龍「本寺江罷越候ニ付町方_江も」用懸候間「右衛門_江も申
聞せ且又兼_而町方之者虚無執心之面々はひこり其上近来坪井町之
者ニテ候哉他領_而他僧之宝生ニ逢本則を集候儀ニ付惣_而職分之外
事心」事不宜何角ノリ之儀本寺_江も相尋候様ニ申「差遣_ス

一西今町紙屋六兵衛後家願之趣及御沙汰封札之儀開封御聞届相済則
日大年寄_ハ申渡_ス

一二階町白銀屋市郎左衛門家売式百目町内組屋多兵衛買願聞届

一八百屋松田屋万人講十二月三日五日日取且又割合書付差出_ス

一玉置忠兵衛方早嶋_ハ客油屋惠左衛門滞留断書

一福永屋白踏金三郎今日白状仕候旨同心藤森権六吉井栄内申出_ル併
去巳十月十三日夜善吉ト申者同道_而盜ニ入当七月_ハ九月舟頭町宇

兵衛方_ハ八助同道仕候又兵衛方_江盜に罷越候旨申候儀落着無之ニ

付善吉儀ハ出所福渡村之者之由当所_ハ仕事ニ入込日用致候者之由

「住之者_江預_ケ置手鎖申付置候此外_ニも金三郎掛り合令聞候者

共々吟味申付候

廿九日 晴

晦日 晴

一此間西今町安田屋清助と申はたこや江戸日本橋四丁目出回国兄弟病氣哭致候者宿仕候処諸方願ニ付五六日も滞留為仕度願差出候得共御城下之儀殊更自他群集いたし候ハ、不用心ニも有之且又往來之儀町家に人を集メ候事如何ニ付修行者八人を助ケて慈悲心寄持ニ候ヘ共右ニ付滞留難相叶旨宿屋儀もまさる所得も無之候ヘ共諸人に被頼候ニ止宿之願無余儀候得共右ニ付不聞届旨申渡ス

一久世役人小林久太今津屋伊右衛門へ來書殿様ニ庄藏殿為使者明一日罷越候間手番宜取計呉候様ニ頼來候仍之則刻御用番六左衛門殿被及御沙汰置引続キ大御目付平野丹下ニ參申達し先達御代官内方鉄五郎殿為使者之節尤宝曆五亥ノ正月一九日之例記を以明日之手配及面談其節郡代井上弥兵衛之表向之使者ニ御奏者番掛り御故事ニ付御家老中懸リニ郡代奉行兼役ヲ以相務候様ニ丹下ニ申聞罷歸其外先格大年寄とも方略記有之

十月朔日 小雨

御用番大熊六左衛門殿
大目付村山平学

一会所御出席無之

一右金三郎勝南郡勝加茂之者ニ候得共山北庄屋新兵衛為勝加も庄屋

ハ書状遣し候処何之方人別外之由返書申來候付今日今入牢之取計賄等町方受人賄差免ス

一久世御代官所為使者小林久太斎藤孫右衛門方ニ請取渡相濟御使番磯野儀兵衛參挨拶人御役人松岡八十次罷出案内之上使者今津屋指添罷越道中ハ御使組先ハ立扱孫右衛門方ニ口上相渡御取次ハ引取御料理三汁五菜濃茶菓子有尤御茶道罷出ハ八十次罷出折々及挨拶早ニ使者罷歸ル御代官使者口上進物之品大旨次に記ス
御取次ハ扣候而使者罷出候時見送り挨拶ヘハ不出候由

江戸表ニ殿様弥御勇健被成御座珍重儀奉存候且又先般御家督之御礼首尾能被仰上仍之為御祝干鯛一折進上仕候此段御取次中ニ宜申上呉候様被申付候

右之通ニ諸事先格を以相濟大年寄届之度大御目付中相達ス

二日 晴

一久世之使者今津屋為罷「候儀申達ス

一久世村仙右衛門むすめ吹屋町金屋「衛門類家ニ付引請願聞届

一配当场城意病死いたし候由届承置

三日 晴 御用場

一元魚町紙屋善七郎大坂行願書向後京大坂或ハ隣国商売筋ニ付罷越候者ハ大年寄方ヘ申出早刻会所当番ニ申出夫今此方ニ申上候様忠兵衛ニ談置候古格之同心組ニ申渡ス

一福田村金三郎盜賊外ニ同類無御座ニ付弥吉人に究り候ニ付入牢申付候趣及御沙汰大御目付中ニ書面差出ス

四日 晴

一西川小形伴左衛門為例歳之通当月米相場直段申遣くれ候様申來ル

一久世手代本城居右衛門中村三郎治今平均米直段之同断申來ル

一西川の御当領早魃風損年ニ付聞合之通答候郡代所分返書遣ス

一当七月十日山本屋分差出候中之町「一次右衛門」取次之一条右借

物式割五年壹割御救を以一カ年分之利式割ハ返之翌年又壹割御救

を受候而山本屋ハ納所不致候趣太田村源兵衛分内「仍之今日申

渡右借物筋田地渡し受ハ納所済口明田分いたし可申旨申渡ス

一有元宗明七月十二日之沼村三日切払合之借物内々善助方分ハ宜了

簡も付済口致候様ニ申候得共宗明無納取又々調達得不致趣申出候

ニ付難聞届ニ付何分も済口いたし候か又ハ田地弥手放し致様申渡

五日 小雨

六日 晴

一今日御沙汰申上取計候左之通兼而行跡ニ付追込

宗兵衛手鎖免 竹藏 理右衛門 勘兵衛 城助 伝

一出生福渡之者善吉此間金三郎吟味「此者儀ハ盗ニ同道いたし候

様申候得共決而偽同類無之ニ相極今日藤森権六分申渡目明追

払ニ申付候大御目付中江も申達ス

一新魚町為以長門殿按摩ニ罷出候儀鈴木喜右衛門分為知申来ル

一万人構日取十二月五日ニ伺相済

七日 晴

一金屋庄左衛門吹屋只右衛門久米南条粃村鐘鐘請合来ル九日罷越

申度願聞届

一綿実積下大坂送り二月分四月之分メ四通相廻ル玉置忠兵衛引

合会所置

一村屋嘉兵衛中買株身之職人町綿屋左助へ移り願

一京町尾崎正意大坂出職聞届ル

一金三郎請人二かい町仕切福渡町市助質物取次二階町久次金三郎

「所同町善助 右各大年寄宅呵計

八日 晴 会所臨時御出席

一此間会所御普請御用席之場出来ニ付肩衣御着用ニ出座之面々「

付上下罷出ル

九日 晴 御用場

一山手屋弥右衛門実父小中原村権右衛門方十平今朝病死之由尤葬送

本行寺へ出候旨弥右衛門同役分小中原村庄屋又ハ在旦那寺へ通用

聊も無之旨返書申来り候由

一久世川村三郎次 来書塔中村両助分貸銀山手屋弥右衛門方掛ニ無

之小中原村実父孫右衛門借銀之儀ニ候ハ山手屋掛り合申間敷

旨申来且又寺田伝助掛り合之儀立合勘定之儀久世願此方へ訴

状写し差越今夕大年寄申渡「助へ差引書付相渡候様ニ可申聞

旨申渡ス書翰扣ニ記之

一石山御留場石墓「山本又右衛門分貫申度大目付中分被申聞之

十一日 晴

一惣町火之用心夜廻り申渡し尤非人例之通御家中屋敷廻り申付ル

一船頭町勘兵衛不行跡追込申付ル

一

十二日 晴 会所御出席

一 去月八日之間二宮ニおひて夜籠り女之儀ニ付久世手代本城辰右衛門川村三郎次

兩人ハ書翰勝南郡宮山村百姓喜左衛門ト申者訴状百姓代忠右衛門

庄屋保兵衛加判右添翰之文段扣ニ記之右三人之者町家に止宿いた

し候由早速六左衛門殿江及御沙汰大御目付村山平学江申達ス

一 八幡宝蔵坊例歳之通止宿明朝立候由

一 戸川町善助ト申者先年勘当ニ逢候処此度右之者母ハ勘当免申度願出ル

十三日

一 安岡町米屋十右衛門儀右之久世ハ差越訴状之懸り之者ニ候間吟味

申付呉候様ニ申来候ニ付昨夕組合預に取計置候処今日玉置忠兵衛

方江目付藤森権六差遣シ先内分口書為取申候

一 久世ハ之一条ニ付小沢又右衛門殿右女之掛り合候ニ付御用番中江

申上候も十分之儀難申述又此方江も御政務ニ付被仰聞候事も如何

之儀も多事ニ付六左衛門殿答ニ而被仰達大御目付鈴木喜右衛門ハ引

合候様六左衛門殿ハ被仰渡候ニ付今晚何角之儀申合ニ罷越之

十四日 晴 御用場

一 去ル六日取計候追込之者昨日差免尤せん頭町勘兵衛儀ハ日数不足

ニ付相残し置候大目付所江今日申達ス

一 宮山村訴状人今日町会所平太兵衛并下代兩人面談尤玄関右ニ申出

候米屋十右衛門昨日吟味致候処申方ニてハ甚手間取候儀出来急ニ

訳立申間敷間帰居勝手次第ニ可然勿論三原儀ハ不及対面且くせ江

返書之委細跡ハ追々可申遣旨申渡スも申聞せ候尤引取候て大年寄

江為知可申旨申聞候

一 久世手代ハ右来村々廻米蔵元今津屋伊右衛門江申付置候間火事用心諸事心付申付被下様ニと相頼申来ル

一 六左衛門殿ハ宮山村願添翰之儀ニ付吟味も可致候得共差懸候御用

向多々可有之御手業ニも難計可有之ニ付大旨取計相濟候ハ、右一

条「」可遂吟味尤喜右衛門江万端及通用可申訳之旨被仰渡則日於

会所平太兵衛并下代大年寄とも江も及沙汰候同心組江も為知候

一 一条懸り合之儀相聞江喜右衛門江申達之高橋小右衛門御使番頭ハ向内談中間権兵衛文助兩人内吟味取計候様ニ申談ス

十五日 晴

一 京町円平ト申者釣針致ものニ候処当時其業事難相成外ニ可仕所作

も無御座親類も無御座候老年ニ相成甚難儀之体申出候当時御殺生

御停止之節ニ付来度ニも至り候も御子様江釣針猷候様ニ仕右針曲

師トシテ御救ふち被下度旨及御内沙汰尤町方類例も無御座旨申上

置大御目付村山平学江も申談置候

十六日 晴

十七日 晴

十八日 晴 御用場

一 船頭町勘兵衛ゆるし申渡ス大年寄ニ而

一元魚町土橋穴明き申出ル

一 西今町万屋多兵衛婦りん小沢又右衛門殿之方ハ不屈有之下り居候

尤引受罷在候由申出ル

一 米屋十右衛門原口屋理助一条之銀四十匁兩人手前へおりんハ返

十右衛門方へ遣候由双方分書付差出^ス

一三倉屋善四郎三人ふち之儀末不致頂戴無扱申出六左衛門殿へ及御沙汰御勘定奉行中へ被仰渡候様申上御聞届之

一同人よりも三保屋半四郎へかかり未納借入五百目私口入仕候処半四郎町作庄屋役中之時「一人利分受取元分、其儘今年迄捨り居申由申出候、付半四郎江為申渡之

十九日 晴

一講場太鼓之事大御目付中へ申達置

一川崎村新右衛門と申百姓年貢不埒^ニ入牢且同所務旁手鎖打くたき其上取立下代など^江も雜言申候由昨日六左衛門殿被仰渡候旨今日取計

一中嶋村権助今般小嶋又右衛門殿一件ニ付在中ニ差置無覚束候ニ付及御沙汰置牢番預^ケ同心石名左五兵衛足輕林田平罷出^ル

一万人構場所^江唯今迄絹服着用いたし候得共以來綿服着用^ニ踏込^ハ絡類^ニても不苦候其旨下役^江も申渡し候様大目付村山平学ニ申渡候

一明後日之講最所分三木甚左衛門始候^而岸権六下山官太石名平太兵衛三人之面々諸事吞込ニ致し仕方等勘弁為付候講之儀故右場所へ見廻り心得之ため罷出候様ニ可仕段甚左衛門分御用番^江伺之申候処御聞濟ニ付猶又大御目付中^江三平罷越同断申達^ス

廿日 晴

一大御目付中分廻状

藤堂佐渡守様於御在所御病氣之処御養生無御叶去月廿日御死去

之段申来候依之今日一日鳴物高声停止之事候尤普請、不苦候右之趣同役^并支配方^江も可被相達候以上

一右廻状之趣夫々へ触出^ス

一昨日万人講ニ付太鼓今夕為打可申出右ニ付明廿一日明六ツ至候ハ、太鼓初候様ニ申渡^スひびる場、同心兩人非常押へ之為今夕差出^ス

一米屋十右衛門原田屋利助先日及吟味候趣猶又再聞申付候処此間書付之通相違無之旨大年寄とも分申出候付今日鈴木喜右衛門^江其旨申達置候

一元魚町出口土橋住進之大御目付中へ達^ス

廿一日 晴

一万人講出候無滞相済服部弥左衛門三平出後六左衛門殿へ御届村山平学^江手紙相届^ル

一寄札高壱万七千七百九十五枚

此銀札五十八貫九百七拾五匁

内十七貫六百九十式匁五分 三步

残^而四十一貫式百八十式匁五分 六拾番割

廿二日 晴

一小沢又右衛門殿^江罷越宮山村訴状之懸り合米屋十右衛門吟味并平田屋利助尋候上下女りんへ詮義有之事役筋、御渡候也又御手前^而御吟味被成候哉御存寄可承り旨御子息諸冷^江申込及応対猶又別義を以又右衛門殿^ニも御応対を得先方願書等入御内見之処諸諸冷分^而之返答則刻又右衛門殿^江取入候右下女味味之儀、明日迄^ニ書付を

以差越可申旨被申聞折節江口庄左衛門も參入御挨拶取合由有之候
勿論右御伺候六左衛門殿^江 出かけ罷越御聞届^ニ成いつれにも急度
糺され候様^ニ及御応対候様御内聽且大目付鈴木喜右衛門^江も返達
候上右之趣取計候

廿三日 晴 御用場

一 小沢諸冷^ハ手紙到来昨日申聞候吟味家来奥村染右衛門^江 申付無相
違旨遂吟味書付相廻候由申来り文段大方惣^而 右一件別卷^ニ有之由
仍之則六左衛門殿^江 於御次及御沙汰

一米屋十右衛門儀も勝手次第表向吟味にかかり申旨六左衛門殿被仰
聞鈴木喜右衛門^江「被申聞之小沢又右衛門殿下女西今町に^江」弟
引受居申候処淳説^ニかかり候^而 不宜義^江」及御内聞候上屋敷へ引
取候儀付何分勤弁付可申旨喜右衛門^ハ内分御申聞承知

一 京町円平事去^ル 十五日之趣又々今日隅田族^江 応対右米三俵^ハ御勤
定所より相廻り御子様方^ハ不便^ニ被思召誠に隆照院様御送提之御
為^ニも御慈悲被成度と思召候趣^而被下置候旨^ニより族^ハ申上候処
何之思召無御座候付明朝大年寄被召呼候^而 関十助^ハ申渡有之由族
^ハ手紙申来^ル

一 寺田伝助儀御内用^ニ付撰州へ罷越候処塔中村多助懸り合之儀留に
引請東新町草屋清兵衛^ニ病^与 申談置候旨願書届尤六左衛門殿へ及
御沙汰候

廿四日 晴

一 御下屋敷^江 大年寄被呼候^而 円平^江 被下米三俵頂戴

一 四十番之殘錐院庄村幸内受取候

一 明廿五日於惣社地内^ニ おいて花相撲有之伏見町嘉吉材木町十郎治
と申者引受願差出聞届

一米屋十右衛門呼出し久世添翰之願書之筋吟味取計候尤宮山村喜左
衛門^ハ差出し候四拾目^ハ 代り之下女はつ手前^ニて相抱候欠込女と
引替申候趣申之

一 六左衛門殿会所^江 不時御出座

廿五日 晴

一 六左衛門殿被罷越十右衛門吟味之趣申達置

廿六日 晴 会所無御出席

一

廿七日 晴

一 柏ハラ前へ三助と申者行旁居申処田中村庄屋^ハ其者^江 尋候処此者
独身者自分悴^ニ 渡世仕来り其日暮之者^ニ 候由兄弟^ハ 元魚町丸屋平
六之由^ニ 付則庄屋^ハ通用いたし候処引取申候由尤兄弟間是迄何之
聊^も 無之由断書差出之尤郡中^ハ其旨申出候

廿八日 晴 御用場

一 札元共役筋致出精候^ニ 付式人ふち宛加ふち被仰付候段大目付村山
平学立会^ニ 付御用番六左衛門殿被仰渡候則日於会所札元三人呼出
し平太兵衛大年寄立合申渡^ス

一 岸権六今日被為召会所預り二石之御加増勤方へ心得被下置候段被
仰渡候

一 林田袋町紺屋又助家三百目買橋元町津田屋八十治

一 観講場引受願人^ハ ひゝる場預大円寺講元^ハ 申出^ル

廿九日 晴

一 牢番預々中嶋村権介呼出し吟味致候

一 大円寺万人講ひゝる場小桜屋にて致旨届

一 宮山村一件ニ付何之思召寄も無御座候ニ付存寄之通後度之取合有之候と心得尤非分之儀も可有之儀存付候ハ、考合可申由被仰聞六左衛門殿へ差出置書付御返し被成候

十一月朔日 晴

御用番大熊六左衛門殿

大御目付鈴木喜右衛門

一 今日御祝義日ニ付例之通御赤飯頂戴御用席江罷出

一 昨日六左衛門殿江被仰聞候趣大目付所江も御沙汰被成候ニ付三平江も喜右衛門江其段申候

二日 小雨

一 米屋十右衛門今日呼出し吟味差詰り口書印形取之

一 乃井野江飛脚米平均相場之儀尋ニ来書

三日 晴 御用場

一 西川久世江米相場飛脚御使組兩人御勘定所申談差遣ス尤明日罷越

候様申渡ス

一 明後日講場出役之儀申達ス御貸人之儀別格之通

一 講場太鼓打之儀御両所江申達ス

一 錢遣六拾五文之由届ル

一 当七月「二三歩銀札拾貫目手形を以相受取残り四百六匁五分内百

五拾目「去冬固屋惣兵衛江相渡し残式百五拾六匁五分又々今日手形遣し村瀬八兵衛江被指越受取直ニ勘定所江相廻し服部弥左衛門永井甚太夫被相受取候

一 今日宮山村出訴之者喜左衛門儀并庄屋儀兵衛百姓代忠右衛門呼出候処庄屋ハ久世江罷出喜左衛門ハ途中江不快ニ付忠右衛門計罷越候ニ付忠右衛門計呼出久世江之書状相渡尤重右衛門へ懸り申来候へ共女集り候儀ハ決而重右衛門不存候儀ニ付口書且又女を連行候者ハ中嶋村権助女ニ被頼れ行候由口書右当役所にて判断可申様も無之領内政務筋ニ候間不申参候迎も吟味計候旨仍之拾助儀ハ入牢申付追而家法之仕置可申付旨有増右忠右衛門江申聞せ久世江之書状相渡返ス尤宿京町鍵屋与平治同道

四日 晴

一 右之段鈴木喜右衛門江申達ス

一 宮山村之儀ニ付中嶋村権助米屋十右衛門下聞之書付并小沢諸冷江指出し四拾目之銀札ハ下女りん江米屋十右衛門江相戻し候と申書付是又写差出ス尤宮山村出訴之写も相調差出ス

五日

一 今日大円寺講ニ付出後御勘定奉行永井甚太夫寺社取次村田孫兵衛三平其外例之通

一 寄札数老万六百七拾八枚銀札五拾三百三「九十九目内十六貫拾七匁ツ、三歩引之講場計無滞相隅御宿例之通

一 今日悪者入込紙入四ッ大集候勿論被盜候者も有之又ハ其由申出渡し遣へきものも有之候右之者平田屋利助見出し役所構之内ハ手鎖

申付暫入置追而今夕同心差遣追弘之取計しかし利助方ニてハ以来
右之義申渡し非人へ相払せ候由

一 宮山村百姓代農右衛門久世ハ今日參着此間之返書持參相応之返答
右十右衛門權助口書之趣を以宮山村喜右衛門并掛り合之者致吟味
猶又申可越之旨返書来ル則大年寄孫左衛門ハ右書状之請取いたし
忠右衛門をハ返し候様ニ申渡ス

一 久世又ハ西川飛脚今日帰着いたし候

六日 晴

一 昨日被取候紙入今日夫々相返ス勝南郡長田村長正寺請人同村清兵衛又下
原村平七請人ハこんや太郎兵衛

七日 晴 会所御出席無之

一 美甘屋半四郎役儀相願候付聞届跡役あかや文五郎江申渡ス

八日 晴

一 小沢又右衛門殿之方先達而走込候女差戻し申候其節十右衛門致世
話差出候奉公人此説路銀相渡之時節故給銀可相渡と被申聞候故給
銀者十右衛門方ハ其節受取候旨申之ニ付十右衛門右之女ハ給銀四
十目相返し可申与奉存旨書付差出ス委細右之一件ニ有之候

九日 御用場

一 林田あいた屋次男兼而病氣ニ付困入置候処近来又々再発致候付家
内甚及難儀「」依之右之親兄とも何とそ牢を御貸し付候様仕度旨
内分之儀市村数馬殿ハ被申聞其儀趣相談置大年寄とも江為尋之

十日 晴 会所不時

一 今日下札渡候ニ付六左衛門殿へ御出席被成候

一 二町目幾屋佐右衛門へ大坂安土町扇屋三郎左衛門布代滞候銀濟口
之儀申付候処胸痛ニ付登坂難仕尤取扱も付置候段断願書指出候ニ
付奥書認明日町次遣候段六左衛門殿江も大御目付中江も申達認遣
ス

一 西新町英田屋平右衛門ハ弟喜三郎当年式拾八歳罷成申候九年以前
ハ狂氣ニ付困入置候処頃ハ相募困ヲ破甚あはれ出入之者も恐レ
商等も難儀仕候ニ付牢を借シ呉候様願書差出候ニ付其胸申上大御
目付中江も申達シ置右之者者同心差向兼而病氣とは申なから不行
跡之儀も相聞候ニ付牢へ遣候旨申渡し則牢中へ遣ス尤賄之儀ハ宿
元ハ差出候趣相願候

十一日 雨

一 昨日取計付候処昨夕故障ニ付延引今日入牢

一 幾屋佐右衛門断書今日大坂相廻ス

十二日 晴 会所御出席無之

一 小性町瓜生原屋惣兵衛ハ寅正月取次大笹触年貢滞ニ付安黒和助奥
判而十月切取米百八俵返濟不相濟候ニ付願書差出候則下代作兵衛
相渡ス

一 小性町大工理右衛門ハ備前牛窓大工相番匠難成旨大工とも難決申
候ニ付備前「」類ともへ対し義絶之程ニも相成職分難相立迷惑仕
候ニ付書付差出ス

一 町方九町ハ願書種粃質物ニ取候義最早月廻ニも罷成候ニ付三斗以
下之粃種質ニ取候儀勘弁被下候様ニ願書出ス

十三日 晴

一 大御目付鈴木喜右衛門ハ廻文御家中江相触候ニ付町在江も相触候様御用番被申ニ付如此申之旨申来ル文役左之通

今般御誕生之若君様御名竹千代様ヲ奉唱候ニ付竹与申名字千代と続候名相改候様被仰出候右之趣同役并支配方江も可被相達候

右則日町分江触出候

十四日 晴 御用場

一 下村官右衛門殿御年寄当役蒙仰候町方江為知候尤当一日之由

一去ル講場ニ而原田屋理介多四郎兩人きんちやく切捕候而彼是致出精ニ付大年寄へ申付言葉之褒美申渡ス

一 当月廿一日御取越

誓梅院様御法事御座候旨廻文付町方江も為知候

一 於直様銀之助様明十五日八出被遊御越之旨隅田族ハ申聴候

一 二階町伝右衛門と申者按摩取野田伝柳と改号仕度旨願書出ル

一 吹屋町金屋次郎左衛門鐘鑄ニ久米南条郡江罷出候由申出ル

十五日 雨

一 御子様御出御延引

十六日

一 渡部甫庵事何とそ御言頼被下度段六左衛門殿へ及御内談輿置候

一 寺田伝助大坂ハ罷帰リ栗田辰右衛門ハ書状持参当歳御借受被成候撰州懸リ之儀此度又々式千五百兩計御借返相認候付委細取計候様申合候由申来リ六左衛門殿ハ被仰聞御勘定奉行服部弥左衛門よりも同様及御沙汰今日大年寄とも江も申渡ス

十七日 晴 会所御出席無之

一 於直様於香様明十八日四ツ時御供揃ニ而八出江被遊御出候旨隅田族申来ル夫々取計候

十八日 雪 御用場

一 靱負殿御出仕被成六左衛門殿ハ御不快ニ付御出仕無之靱負殿直ニ御用向御聴被成候

一 御子様方御出被延引

一 御蔵米五拾式匁五分町米四拾八匁五分

一 兵庫江遣し證文式拾七枚出来蔵合孫左衛門へ

一 御奏番中ハ寒氣御機嫌同来ル廿三日巳刻御帳付之旨廻文来ル

十九日 雪

一 昨日相渡候證文出来尤百兩ツ、之證文之式千七百兩之積り服部弥左衛門江遣ス

一 自国請酒株東新町いわ屋三吉かり亀屋「」太郎ハ貸

廿日 晴

廿一日 晴 会所無御出席

一 御廻米当月中ニも積切候様大坂ハ申来候ニ付自他之舟町荷積儀指留申度旨御勘定奉行中之申聞候ニ付追而町方難渋申出候ハ、其節之取計先々御米積之儀赦取候訳旁今日蔵合孫左衛門江申聞御蔵元共江申付候様申渡ス

一 久米屋勤八持牛落候段届出ル

一 錢相場六十三文

一 寺田伝助登坂

廿二日 晴

一土井官左衛門同官次ハ来返書幾屋佐右衛門大坂安土町扇屋三郎左衛門へ布代滞候儀断書去ル十一日差越候処同十八日奥津能登守殿御役所江差出候由御聞届之旨申来ル

廿三日 晴 御用場

一今日巳之刻寒氣御機嫌伺御帳有之

一町荷自他舟へ積候儀当分差留候趣大御目付中江申達置候

一來月二日御朱印御着ニ付町方掃除同心共先弘尋之儀村山平学よりも申聞候様其旨平太平衛江申達置候

廿四日 晴

一徳守宮地子居福松尾和七世悴勘太郎備前和氣郡伊部村わけ屋勘三郎へ養子ニ參候願

一大年寄献上之物今日御便ニ江戸表御奏者番中へ披露状差遣候并田中幸四郎へ例之通申遣ス

一宮川御門之外川石垣際赤子捨有之由非人ともへ申付取捨させ候様鈴木喜右衛門ハ申来り早速大年寄へ申遣シ取計候

廿五日 晴

一昨日赤子取捨候趣相届ル

廿六日 晴 会所御出席無之

一今日山田彦太夫御呵を請候ニ付差扣伺御勘定奉行中相頼遣候処大目付中ハ不及其儀候段申来候由被申越候得とも終日在宿御用向不取計候

廿七日 雪天

一

廿八日 晴 御用場

一播州揖西郡長尾村又六同郡小「」村清五郎平治郎玉置方油仕事当年中召抱願出候聞届

一玉置方御堀端ニ有之候土蔵一引取候ニ付御堀へ足代下し申度尤跡申達置

ハ板塀ニ仕旨断書聞届

一小性町やね屋喜助大坂へ明後晦日ニ罷越度断

一大御目付所ハ廻文夫々相触候文段左之通
來ル二日御頂戴之御判物江戸表より着ニ付火之元之儀常々被仰出候得共猶又入念万端相慎可申候右之趣下略

十一月廿八日 大目附

廿九日 晴

一三軒屋御作事中間孫六居所明度旨申出候ニ付聞届追而外江引越候節届候様川端又六江申渡ス

一來正月十九日万人講興行致候様ニ申渡ス尤右両度其段岸六下山官石名平太兵衛三人ハ講元へ申渡ス正月十九日日取之儀講元ハ伺出御沙汰申上候大目付中ニも同断

卅日 晴

一茅町五兵衛壳屋輔買主西今町作人甚右衛門銀札式十五匁
一例格之通類族東新町京町無難候段宗門奉行中へ差出候付書付所ハ差出ス

一寺社方ハ今日講場引渡し両役下代同心寺社方物ふり立合
一車乘善兵衛檜原前小屋掛先達而願相濟小田中庄屋江仁太夫ハ一札

之趣此者以後病死仕候共村内世話かけ申間敷之旨書面之目附中嶋
定八肝煎三右衛門與判_ニ而申出聞届_ル

十二月朔日 日晴
御用番大熊六左衛門殿
大御目付平野丹下

一 会所御出席無之

一 村山平学_ハ御朱印今晚土居泊之旨申来_ル 町分先格之自身番無之候
得共右_ニ付触一統_ニ出候_ニ付此度_ハ差出可然旨大御目中_ニも申上
候_ニ付明日中自身番申付_ル

一 物頭中風廻り宿分_ニ而無申付候

一 御廻米急に積切可致_ニ付御勘定奉行如例談宿馬式拾五疋_ハ宿用_ニ
扣置式十疋_ハ御蔵積出_シニ早朝_ハ差出可申旨孫左衛門_江申遣_ス

一 榎山村忠助_ハ願書去_ル 亥年林田中之町にし屋次右衛門_江志戸部村
庄屋口煎入米拾俵忠助取次次右衛門「」畑山林證文書入尤三月切
卯歳滞_ニ付願出_ル 大年寄_江相渡_ス

一 二日 晴

一 御朱印藤森権六三丹孫八御先払罷出_ル 出番帳_ニ有無滞御到着大御
目付渡部惣馬警衛諸事取計昨日申付候通相濟候

一 佐久間主計殿無滞帰着

一 茅町瀧右衛門再訴村々借付之儀申出_ス

一 下紺屋町米屋九兵衛売家銀札三百目買小性町美濃屋茂兵衛

一 馬指共五人より拝借大豆三俵ツ、申出_ル

三日 晴 御用場

一 馬指とも拝借大豆之儀及御沙汰候

一 九町_ハ種粃在方_ハ質_ニ取候儀先達_而「」書出候得共在中御年貢不
濟内故難聞届候処今日三木勘左衛門於御勘定所引合相濟在中皆濟
有之候村々_ハ外払も差免候_ニ付九町願聞者之儀今日申渡_ス

一 玉置忠兵衛備中早嶋_江十日往来願及御沙汰相濟

一 明後日講場出役之儀申達_ス 尤太鼓打之儀御届申達_ス 且又大御目付
中_ハ被申咄候講場出役御勘定奉行当役_ハ踏込絹布類何_ニても不苦
其外出役_ハ警衛之場之間袴_ハ着用致間敷儀_ニ講心得違無之様可致
旨申聞候_ニ付御勘定奉行申談し当人_ハ野袴供方_ハ股引と相極_メ候

四日 晴

一 御大目付所_ハ廻文

銀札之儀来末ノ三月晦日迄_ハ新古入交可致通用候尤三月晦日限
於銀札場引替可申候間其旨可相心_江右之趣下略

五日 晴

一 万人講_ニ付出演服部弥左衛門大沢三平其外例之通無滞相濟御用番
大目付中_江も相届_ル

一 寄札高八千七百四十老枚此銀札四拾三貫七百五匁

内拾三貫百拾老匁五分 三步引之

一 宮山村女一昨日久世御代官所_江被呼出由

一 此間申付候御米積出_シ付町馬御藏_ハ遅參候故敢取不申候付時刻早
_ク罷候様申付呉候旨永井甚太夫_ハ申来り大年寄_江則刻申渡_ス

六日 晴

七日 晴 会所御出席無之

一坪井町音羽屋和助の掛合問屋之儀願書差出し請取置

八日 晴

九日 晴 御用場

一音羽屋和助懸合問屋願差出置

一錢相場六十三文

十日 晴

一大坂寺井官左衛門同官士の來書幾屋「右衛門へ二度女の訴状写
奥津能登守殿の御渡被成候此度大御目付中江相廻候旨申來」

一三軒屋番中村喜兵衛の宿御仲間孫六今日安岡村江引越申候段申出

十一日 晴

一新職人町ぬし茂吉売二階町紺屋孫六買銀札三百三拾匁之

一大御目付中の廻状出 尤江戸表の御尋者当午十一月十三日南茅場

町嘉平治店町医者藤田三庵み弥を模割 顔之内所々深手為負逃去

召仕長助「 廻状扣 有之由右之證文案文古」

右請證文來 十八日御用場へ持参いたし候様ニ申來

一久世の宮山村女并喜左衛門源治其外百姓代忠右衛門庄弥弥兵衛百

姓惣代丈八等之吟味口書相廻り書状到來則刻御用番六左衛門殿大

御目付鈴木喜右衛門江持参致候一卷ニ東有之略之

一御尋者廻文支配方へ差出

十二日 晴 会所御出席無之

一幾屋佐右衛門へ二度目之訴状写蔵合孫左衛門へ相渡調達為致居申
渡之

十三日

一六左衛門殿江宮山村一件ニ付罷越鈴木喜右衛門一所ニ久世江返書
之儀被仰付吟味之義も來春迄指延候積リニ返書遣し可申段被仰渡
之且又小竹文右衛門殿へ「 掛り候儀も可有候間御油断無之
様御通達可申旨御内聽ニ付今夕御」江及内談候

十四日 晴 御用場

一今日大御目付平野丹下立合ニ被仰渡取違

家業兼 出精殊更先達

立合之節も罷出候旁以來三人ふち 渡部甫庵

被下候 片山周齋

家業出精ニ付門松御免 川端道郭

右於会所申渡 石名平太平衛大年寄蔵合孫左衛門立合

一城助方ニ取置候具足之儀池上近土取次ニ付米八俵持参浜野屋十郎

兵衛請取置之付川端又六立合十郎兵衛又右受取書川端江相渡

此取計昨十三日相濟申候

十五日 晴

一鈴木喜右衛門の左之通六左衛門殿手紙被差越候

久世江掛り吟味筋之儀來春十五日過と申而も早竟御代物之儀

伺者相濟申渡候ニ付月廻之義氣毒候へ共此節の吟味ニ取掛り

年内大概筋立久世之通用之春に至候も不苦候此方之吟味

ハ年内形付候様有之旨、鞞負殿ハ被申越候ニ付、大沢三平^江左之趣申達可被成候尤所存も有之候ハ、拙者方^江可申出旨主計殿も正月參候ハ、出府之義何とそ其所に筋立候様有之度旨其段三

平^江可申達旨申来^ル

一吉原村長兵衛^{文六}神戶村七兵衛今日入牢申付候

一久世^江一件ニ付返書出^ス文段扣^ニ有之候

一本田伝助塔中村多助^江候書付久世^江遣候

一斎藤孫右衛門方へ養子今日引越候届

一大御目付所^江触書出候文段左之通

惣曲輪御門く、リ暮六ツ時^江四ツ迄之内挑灯無之類かふり物致

し面をか^クし候儘^ニ及出入候面々多有之様相聞候向後左様之儀

有之ましく候若紛敷^ニ致通行候族於有之^者不依貴賤御門番之

足輕相答候様申付置之

一右御門通り切手指出候儀坊主以上者格別之旨^ニて夫^江已下足輕

中間之類^者自身ニ罷越用事之趣可相届候処心得違^ニ切手指出候類

も有之様ニ相聞^江向後足輕以下之切手ハ決^ニ承届間敷旨申付置候

右之通御門預り物頭^江被仰渡候間被得其意下々迄可被取計候右之

趣同役^并下略之

十二月十四日

十六日 晴 会所無御出席

一押入村其兵衛と申者通落候所町方ニて拾返し候由

十七日 晴

一久世^江此間之返書本田伝助塔中村多助^江貸銀濟口之書付遣し返書

共ニ来^ル

一六左衛門殿^江呼^ニ參吟味一件之筋厚集取候又ハ女之方^江被頼候と

申儀申候哉兩様之儀実否相^一様被仰渡候鈴木喜左衛門^江も右同

断申聞之

十八日 晴 御用場

一玉置源五兵衛^江一方村新たね之辺^ニ私抱分之御田地場所^ニ水車相

願綿実引はたき仕度尤彼岸後^江取掛り翌春苗代致迄仕村方并水請

少^及無故障旨勿論半輪之積り御運上銀七匁五分上納候旨願出及御

沙汰候処地方見分之上構無之候ハ、可申付旨御聞届相濟候

一酒直段米直段高相成候ニ付定法之例^ニ任也当時五拾匁余ニ付願書

差出^シ御聞届^ケ申渡^ス

一平太兵衛儀宮山村一件之掛り合被仰付之

一久世支配所真嶋郡高田村次郎兵衛娘日野屋五助妻貫^ス

一元魚町かけ屋新七母伊部屋滞銀札百八十六匁二分之内盆前後三十

匁請取残り半銀又三月半銀請取候様申候処今以相濟不申旨^江申付

呉候様願書出^ス

一御尋之者證文支配方并時分之證文差遣^ス

一御仲間吟味之儀先引受いたし其者共申談相立候得^者元^江御返成候

届と相心得候様喜右衛門^江伺之上挨拶其旨御質高橋小右衛門^江も

引合置候事

十九日 晴

一吉原村又六神戶村長兵衛吟味石名平太兵衛神西作兵衛立石五左衛

門立合

一 今夕六左衛門殿の御手紙到来船持共川下シ舟積之義難渋申之不屈之趣相聞今夜咎不付候ハ、不相濟義ニ相聞候委細弥左衛門可參間申談跡々メリニも相成事急度申付候様ニ被仰下則同人相見平太兵衛相扣則夕咎申付ル藏合於宅同心中山市左衛門罷出取計候左之通

船持 善助

手鎖 船持 左助追込 同 武助

一 中間権兵衛妻今夕川端又六遣内吟味為致候

一 同文助妻ハ昨夕同人と中山市左衛門遣し吟味為致候

一 牢番毛三右衛門太助中間伝吉年貢一兩日中皆済いたし候様三木七

の「」到来則今日同人江申渡ス

廿日

廿一日 晴雨 会所無御出席

一 御仲間権兵衛文助吟味石名平太兵衛同心目付藤森権六并吉井栄内

金嶋栄治出会

一 町荷舟積之義今日ハ差免候尤船持佐助痛舟之儀ニ手遣申間輔旨申渡ス

渡ス

廿二日 晴

一 中嶋村権助吟味いたし候

一 西新町住田屋伝右衛門養女ニ林田村ゆけ屋伊右衛門娘娘貫相濟

廿三日 晴 御用場

一 牢中之者とも出入書付差出ス残斬罪之者金三郎仁太郎日上村九右

衛門借物不埒ニ付甚左衛門江引合之趣丈助不時左衛門ハ永牢久世

江掛ッ合之者ハ来春迄筋付候趣

一 長門殿江按摩江罷出候為以江御褒美米式俵被下候旨御用番被仰渡大目付平野丹下立合

一 中嶋権助牢賄被仰付被下候様村方願相濟

一 右権助今日呼出し再吟味申付候

廿四日 晴

一 豆腐屋ハ四郎兵衛二右衛門大豆直ニ付直段上之願

老奴式分大豆式升三步薪代拾丁分之元入

右之拾式文宛売立百式拾文内老奴四歩元入引残ニ五歩手間代之今日申渡ス

日申渡ス

一 安岡町米屋十右衛門再不足罷在候処独身殊飯料方便も無之至ニ難

渋ニ付町内外往来之儀差免し呉候様ニ歎組合之者とも申出今日

及御沙汰御聞届則申渡ス

一 権助且又御仲間又助権兵衛口書三通相調六左衛門殿江差出ス

廿五日 雨

一 廿六日 晴 会所無御出席無之

一 六左衛門殿ハ呼に參此間差出候吟味書猶又「」一度相認差出候様被仰聞早刻鈴木喜右衛門へ其段及通用置之

廿七日 晴

一 元魚町美濃屋徳治ハ願書先仁兵衛持「」田私江相統仕候様相頼只

今迄相統仕候処先仁兵衛甥古川村助兵衛世倅市松引請役介去々年

姉娘ニ娶年廿一歳ニ相成候処難見届不屈者故鍵も相渡不申処去廿

三日古川村当仁兵衛親助兵衛ニ岩平助松罷越帳面理不尽集取不相

渡諸方弘等差支筋立ニ相立不申此節難題申かけ仁兵衛江相渡候様

申相談罷在可致様なく難儀居申候而宜取計呉候様願出候ニ付則時

難拾置下代神西作兵衛江申渡地方目付江被申遣為引取候様尤右差

押候帳面ハ庄屋共町ニ而八年寄とも立合封印致置候様ニ申付候

廿八日 晴 御用場

一与兵衛殿今日四時帰着直ニ御出仕之

一祇園坊三徳昨今迄森家以来十八九代程御当所町在納札仕候処為冥

加御歳府御武運長久之御祈禱札差上度尤福分ハ其身ニ余リ候儀御

会「」歎儀決而心中無御座候段申出及伺置候

一元魚町美濃屋古川村助兵衛「」仕置

一長門殿江出候為以来忒俵受取相渡ハ尤当年切己来ハ長門殿方ハ可

有之事大目付鈴木喜右衛門江申達置候

一船持左助同善助武助義御伺申上候上服部弥左衛門江申談取計候

○先達而手鎖申付置取計方も候へ共以憐愍 左助

一差免候以後相慎船積身ニ出精可仕候

一先達而船積之儀ニ付答申付置候処

一以宥免差免候以來出精船積等可仕

善助
武助

之旨

一「」屋江古川村長四郎参居町々年寄立合封印致候由相聞候

一牢屋江平兵衛并神西作兵衛上林平其外同心ハ不及申地方目付植

月新右衛門肝煎ニ寺元村庄兵衛八出村清右衛門出会候由掛リ合權

助并長兵衛又六遂吟味候

一大瀧理右衛門ハ宮山村女之儀御勘定奉行中ハ尋書六左衛門殿ハ可

廻被成候

廿九日 晴

一權助右女を小沢殿江遣シ同役九日之牢番宅「」申出候

明和三^壬年 正月^六至 十二月^五至
 御用日記
 十九 大沢三平

明和三^丙年 戊年

町奉行御用日記

正月ヨリ 十二月ニ至 大沢三平

正月元日 晴

御用番小須賀一学殿
 月番 渡部惣馬

- 一 恒例之通諸士登城於桜間御帳付^宇而御勘定奉行村田孫兵衛三木伊平太郡代町奉行兼役大沢三平御席^江罷出年頭御祝儀申上
- 一 大言院御用席理喜藏殿兵庫殿兵右衛門殿一学殿十太夫殿御受礼ハ兵右衛門殿其外例之通之居残り^ニ而七間廊下大御目付渡部惣馬立合御用番一学殿被仰聞候趣
- 殿様当春御目見被成度ニ付御願被仰上候御積り御決定被成候旨左様相心得候様被仰聞候
- 一 右之演説一統被仰出候ニ付於会所及沙汰役儀相勤候面々計二日御用初退出後

二日 晴

一 御用初御祝儀前御勘定奉行当役御藏奉行御金奉行御席^江罷出御用

初御祝儀申上^早而御吸物御酒頂戴大御目付所^江御礼申達^ス
 一 御用場退出於会所大年寄三人札元三人諸吟味兩人年頭受礼ぬれ敷居之内東に向ひ平太兵衛詰合尤札元諸吟味大年寄月番出合

三日 晴

一 町へ年頭廻勤三宝茶煙草之戸田金左衛門寺田治助ハ格別ニ付盃事致町々年寄出入之面々被申入^ル

一 御駕籠御小道具御箱之者今度御抱ニ付来^ル九日見分有之候様大御目付所中奥目付例之通取計昨日承之触出^ス

四日 晴 五日 晴

一 坪井役所吉田孫右衛門今年頭状則返書遣^ス

六日 晴 会所御用初

一 兵右衛門殿御出ニ相成候

一 一学殿十太夫殿御出被成

一 御用初御吸物御酒差引申合之上三平引之數之子八十頭引之余例之通此前刻御藏元次ニみくり屋西^ニ向せ受礼平太兵衛権六出合右^早而町年寄玄関^ハ西^ニ向例之通^ニ而大年寄披露中之口^ハ入玄関へ出る

一 河端藤太夫岡与兵衛深沢藤右衛門右野井野^ハ錢相場書付取^ニ参^ル年頭状到来

七日 雪 八日 晴 九日 雪 御用場

一 旧冬江戸表御手廻り十助と申者出奔いたし候問御構之義例之通相心得候様一学殿被仰聞候

一 神戸村^ハ入牢十兵衛儀牢賄申付^ル

十日 晴 十一日 雪 十二日 晴 会所無御出席

一久世今年頭状相兼錢相場書付之儀申来り右返答且又先達而申来り候御領内の人参望候者候ハ、此以後其御役所へ参可申旨其段承知被置候様申遣ス右ニ付今日御使組飛脚へ遣ス

十三日 晴

一去ル八日西川役所江例之通鱈式本年初祝書遣ス

十四日 晴 御用場

一座頭惣代として申出候趣於江戸表

万寿姫様御官位被相濟候為御祝儀岡山ニも頂戴相濟候ニ付被下置候様ニ仕度右ニ付来ル廿三日ニ罷出候様ニ仕度旨申候由配當場

集申出候旨忠兵衛御用場江参申聞候則及御沙汰之処一学殿於御次被仰聞候取次共申候趣旨而江戸表江不申来御存不成候 万寿姫様深し美曾喜鳴と「一」相聞候へ共一統御祝儀之筋ニ取次共江被下候儀ニ

候て追而可被下候間夫迄ハ相扣候様可申渡之由被仰聞候ニ付則日忠兵衛江申渡候江戸表江御聞合も被成候上之御事と相見候間其旨も忠兵衛江申聞置

一去ル十二日赤見類助海老原助一出府ニ付舟ニ罷出候処船拵不埒船頭も不参出船之刻限五ツ時前ニも相成候処漸船頭兩人ニ罷出候由

何分他国他所ニ船ニ船ニなと連帯無之処無筋申立もなく船頭共致方諸人江も懸り候儀得と役所心得を以察度致し候而可然旨渡部惣馬ニ申聞則日忠兵衛江申聞則日忠兵衛江申聞之

十五日 晴後雨

十六日 晴

会所無御出

一昨日同心組其外三間屋牢番中間亘事割鯛郡代下代兩人同断

一例歳之通御具足御祝儀諸士登城御用番一学殿御奉行而頂戴而孫

兵衛伊兵太六平御用席江罷出御祝儀申上松之間御縁側ニ町医岩佐孝碩渡部甫庵川嶋桃庵箕作文庵河内友益北山修斎各北ニ向ヒ御退出之砌刀ハ御拂無之 理喜藏殿兵庫殿一学殿十太夫殿渡部惣馬敷居三平下東ニ取合宮干而例之場大年寄札元北名披露又地方目付鍵之手ニ為並同断済御入座又戸田市左衛門いせ屋長右衛門姫路屋伝藏今津屋平藏是又名披露中之口ハ刀御携而

十七日 晴 十八日 晴 御用場

一祇園坊江式百疋被下候於小勘者所藏合孫左衛門罷出相受取尤毎々ニ御初見と申而無之候此後も二度分一度に被下候様ニも可相成又ハ一度百疋ツ、被下候様ニも可相成早竟向方ニ達而上候儀ニ付御会釈之体ニ申達置候

一去ル十四日ニ記有之候田原屋察庵之儀書付差出候处乗船之面々ニ着船之上無滞候旨田原屋江挨拶申来仍之故障も不相聞其分ニ差置候いつれ乗船之面々ニ差詰り答之筋も不相聞候ニ付押而尋も不申付候

十九日 晴 廿日 晴 廿一日 晴 会所無御出

廿二日 雪 廿三日 雪 御用場

一林田百間土手御藪之切レ米俵三斗一升余入捨而居申所去ル十八日見出し林田村庄屋江預ケ置今日及御沙汰町在へ触差出し候文段扣ニ有之

一先達而押入村々半居致候乱心新藏儀去歳母子四国遍路致候此度病氣致平癒罷帰候ニ付何とそ村へ返し遣候様歎之儀村一同に申出候ニ付先達而懸御箇方候者之儀ニ付及御さた願之通承届遣し候

廿四日 晴 廿五日 晴

廿六日 会所御出席

一 村山左仲ハ三年寄共歳暮献上御披露相濟候由書状到来大年寄へ相渡候

一座頭城正義今日於忠兵衛宅配当場役申付候尤城集城古立合ニ申渡

ス 右御用番 # 大御目付中へ申達

廿七日 小雪 廿八日 晴 御用場

廿九日

一 紺屋町年寄灰屋善右衛門借屋平八ト申者去暮廿一日致病死候処其砌内々不埒之義相聞其上小屋之者ニ相任銀札廿拾匁遣之愛染寺へ葬候由相聞へ尤大御目付所へも其段もれ候由其分ニ難差置此間吟味申付候処懸り合之もの家守縫屋治兵衛相借屋要助と申者へ善右衛門伯父喜惣兵衛諸事引受取計候事委細口書差出之ス別書ニ有之

晦日 晴

二月一日 小雪

御用番小須賀一学殿
月番 村山平学

一会所十太夫殿出席被成候

一去月廿七日平野丹下ハ尋候ニ付町分ニ家持ハ五人組ニ借屋者ハ五人組ニ入何ニも変儀或ハ不埒之儀出来咎等申付候節ハ品々ニ合家主又ハ五人組ニもカ、リ候旨委細書付遣

二日 晴 三日 晴 御用場

一 伏見町小田屋伊平次裏垣覆繕足代おろし申達

四日 晴 五日 晴

一 泰良院様九ツ過時御供揃ニ泰安寺江御仏詣被成候ニ付隅田族ハ昨日申来ル同心先払町方掃除之儀例之通申付候

六日 晴

一 昨五日之夕村山平学ハ呼に参罷越候処美濃職人町浜七と申者今七ツ過銀札場金藏造作有之職人も帰リ手代等も引取候後右金藏外戸前之錠をいろひ居申体藏合孫左衛門見咎則取留人たと付置銀札場奉行へ其段相達し候旨奉行目付ハ届有之候付則御用番一学殿へ申達候処町奉行支配之者ニ付可然取計候様ニと被仰聞候よし仍之手鎖又ハ牢番預ニもいか様ニも申付候様被申聞候ニ付早刻同心差向藤森權六ハ中山伝内孫左衛門所ニ手鎖腰繩ニ右町内年寄 # 組合共江預ケ申付ル

一 今日平学江申達シ入牢申付ル親ハ文六と申者之由慎罷在候様申渡ス 同心吉井栄内石名佐五兵衛 差遣シ候賄ハ右親江申付ル各取計村山平学へ相届候

一去月廿九日日記ニ有之候上こん屋町一件ニ付今日斎藤孫右衛門於宅申渡之趣為取計候追込左之通

善右衛門 喜三兵衛 次兵衛 八右衛門 二郎兵衛

和助 後家 彦三郎 メ八人

右之大意□□□□非人共ハ惣野伏行倒者或ハ宿なし之者変死等取仕末申付候事ニ候処町家に住居者縦怪ものニても非人之手にかへ候儀不仁麓末成致方其上喜三兵衛申合せ町内五人組之面々ニも

不申談定法相背候義不届年寄善右衛門義ハ家主之儀役義乍勤別
不届之致方ニ付非人之手にかけ候儀ハ一通り被申渡候文段別有之
御用番大御目付中へ御届申達ス

七日 晴 会所御出被成候

一 東新町松屋茂右衛門家売六百目坂本屋三右衛門買

一 戸川町吉田屋小兵衛と申者野井乃預り処勝南郡吉田村百姓幸右衛門と申者世忤 此度引請候付町方人別離願書及御沙汰候

八日 晴

一 浜七親文六慎申付置候処牢食及び候儀ニ付貧窮之者ニ故及難儀持
參仕度伺出候得共慎申付候旨を差免候今後難申付殊ニ親子兄弟伯
父甥之間柄ニてハ場所柄故相慎事ニ存年寄共 誰人ニても時刻不
移龜末無之様食事持參致候様ニ申付候

九日 晴 御用場

一 浜七尋申付候 口書取之 藤森権六中山伝内室并政治

○ 当月五日之晚七ツ半時 〇 二階町畳屋ニて御酒口申候夫分と申儀有之此儀
大御目付中之文段ニ大かた出之

平吉申ものニ折節相頼ニ付最早御銀札場も御仕廻時分と奉存罷
越候処右平吉も相仕廻罷歸り居不申候ニ付御金藏之御繕御座候故
乍見物御藏之辺相廻り歸りかけ定 御藏之内 大分金銀も御座可
有之とも存式參拾奴もほしきものかと存錠前に手をかけ其儘御銀
札場 罷歸り候処 孫左衛門殿御出被成人もなき所 入込候義不
届と御呵被成候其儘私を留置被成候

一 右場所 參候節孫左衛門宅 誰ニても逢候 又ハ挨拶も致哉
御尋被成候

○ 参りかけ孫左衛門殿宅 下女 挨拶仕候

一 御銀札場御仕廻を心かけ參候儀ハ如何と御尋被成候

○ 此儀ハ私義も折々小遣に被相頼候時分御銀札場不殘掃除等仕候
ニ付小遣之儀ハ余段間取候故其旨を考罷越候儀御座候 右之通
にて相違無御座候以上

十日 雪天

一 浜七申候村山平学 持參差置

一 田中金吾大御目付中御用伏町飛脚戸川町野本屋藤右衛門 相渡し
受取書取之晚方村山平学ハ 尋有之候上取計之

十一日 晴

一 紺屋町年寄善右衛門を致其儘置残り七人之者追込差免申渡候其段
御届御両方へ申達ス

十二日 晴 会所御出席無之

一 去月廿三日記置候百間土手捨候正米申出候ものも無之ニ付林田村
へ申付売払せ六匁五分郡代所 為納候

一 船頭町作人徳治郎家売六百目同町大村屋武兵衛買

一 西今町今田屋伊助去 九日男牛落候 其節注進申出取捨申渡

一 村山平学ハ呼に來り元來竹十郎と申役者之由似せ札致し此者在々
所之経廻り備中宮内辺致徘徊風來もの候由右之札ハ 大戸清八 欠落之者
と申者此間御城下ニて札を遣候処錢目付鍵屋見札之庄兵衛 先目手

段之「」有之由前後之様子大半内分ニ付則刻平太兵衛 内しら
へ申談置候

十四日 晴 御用場

一宮脇町閔貫御修覆之儀及御沙汰書付差出^ス

一船頭町渡し舟御繕及御沙汰書付差出^ス

一松右衛門獄門最早日数も立往来一般行渡可申間掛捨之儀^ニ御座候得共為引取可申旨及御沙汰牢番へ穢多共^江申渡候様申付候地方^江も同断申渡^ス

一灰屋善右衛門儀今般取計不埒之致方借屋者請状を不為致役儀申付置候処不相応之儀仍之年寄取上追込を差免申渡^ス

一相歳寄態屋源左衛門町内右^者不埒有之処存寄も不加心付薄き所不届ニ付追込申付^ル兩様御用番大目付中之届申達^ス

一泰良院様銀之助様二宮^江被為入候四ツ時御供揃御通り例之通本通り在町へ御先弘之儀も申渡^ス

一安岡町藤右衛門と申者先年江戸表へ参候処致病死ニ付所持之屋敷地百匁^ニ同町真嶋屋勘七^江五人組申合売弘親類之由下田邑弥七と申者^江代銀ハ相渡候由願書尤去十二月願申付今日売券出^ス

一賀村玄仙と申上之町^ニ所住ニ付坪井町羽鳥屋十治引請之願差出^ス

一去二月林田町葛屋八十治家屋敷売買ニ付橋本町作人文藏林田町作人甚之丞買取ニ相成右八十治少筋立候様ニ願書差出^シ大年寄共吟味之儀申付候然所橋本町文藏当月五日病死致候ニ付家内人数之儀橋本町年寄へ問合候処文藏儀独身ニ暮申者之由引合之上林田町年寄とも書付差出候ニ付右公事被取上尤相手甚之丞^江も売買之儀不為致五人組共相談之上不法無之相濟候ハ、勝手ニ可申出之旨申渡させ候一灰屋一件ニ付非人頭登際平少呼に参平八を乗候無常駕籠彼等宿ニ懸候物ハ難差遣其方共^江相渡申由^ニ右非人共受取由相

聞候

十五日 雨

一今日御延引

一松右衛門今日獄門引取御届申達^ス

十六日 曇 会所御出席

一山本屋与曾七井口村十七人へ田地質入相滞候処今般村方差引内嘆相濟書付出^ル

十七日 晴

一紺屋町年寄熊屋源左衛門追込差免御届申達^ス

十八日 晴 御用場

一神戸村又助喜兵衛牢食之儀村方一統貧窮ニ付歎書差出^シ今日御聞届之上明日今牢賄之義申渡^ス

一茅町茂兵衛同町市郎左衛門妻右兩人先達^而致駈落日数相立町内人別除ケ願書差出及御沙汰御聞届^ケ申渡^ス旧冬十一月三日之日記ニ有之

一東新町今岡屋忠助方吉左衛門飯嶋嘉右衛門

一同町勘右衛門売同町種子屋伊助買家売式百目

一桶屋町大坂屋次郎右衛兵門檉原前御藪外東之方水車片羽相願近辺雜穀扶ち方搗せ候^而渡世之助力ニ仕度然上^者御運上銀差上可申旨御普請方御役中見分之処故障無之絵図願主合差出此間及御沙汰御聞届被成候ニ付大御目付中^江も申達置申渡^ス

十九日 晴

一宮脇町浦葛屋兵衛家売同町松屋伊左衛門一貫目

廿日 晴朝雨 廿一日 晴 御出席無之

一 伏見町辻屋六郎右衛門家売三貫目二階町組屋勤十郎買

廿二日 晴 廿三日 晴 御用場

一 姫路屋江押入築堰去歳迄致候処当時御献上鮎御用無之ニ付押入村築主共不殘願差出し今日村願之通り御開届被成候

廿四日 晴

一 桶屋町おけや甚助家売百拾匁同町作人喜八買

一 新魚町善治大坂西村考作と申者之方引受町人別離家ハ兄大坂屋平藏江譲り候之旨断書出ス

廿五日 晴

一 十太夫殿出府ニ付被仰渡候

廿六日 雨 御出席 廿七日 晴

一 御奏者番中江廻状例之通町触出之

殿様倍御機嫌支被遊御座去ル十四日御老中御連名之御奉書到来翌

十五日御目見御首尾好被仰上

御懇之被為蒙上意候其上御家来四人御目見被仰付之段申来恐悦之御事候依之明廿八日為御祝御帳付候間辰之刻ハ巳之刻迄之内出仕可有之候

廿八日 晴

一 御帳付例之通廻勤

一 佐渡守様当四月此元御通行可被成御模様ニ付不時之御用意ニ御止宿場等氣を付候様丹下ハ被申聞則日玉置忠兵衛江内分申付置候且又宮川仮橋宮川御門ヨリ十間計ニ被仰付候由 仍之袋町通行之間細合挟き処御作支分

切らせ一濟候得者又元之如く被直候由丹下ハ被申聞候

廿九日 晴

一 同心中山市左衛門申出中之町粗屋文太と申者方ニ目明共扣置候長助と申者三室屋宇左衛門前屋敷ニ小麦表数盜取事売買之訳相聞ハ右長介も白状仕候処大半相違無御座候ニ付伺出候仍之早刻大目付村山平学江及聞達牢番預ニ取計候追々吟味可申付ニ付略之盗長助者当国月田村之者之由右村帳離候由申之候五六年御当所ニ有而ハ其後借屋居候由

三月朔日雨会所御出席 御用番小須賀一学殿 月番 平野丹下

一 長助一通之尋川端又六 中山官左衛門差遣ス

二日 晴

一 大御目付中江廻状町方江触差出候組中同断

水戸宰相様御病氣之処御養生不被為叶去月廿日御逝去被成仍之今日ハ来ル八日迄鳴物高声停止之事之尤普請ハ四日迄三日之内御停止右之趣ニ

三日 晴 御用場無之 四日 晴

一 京町問屋理左衛門忤次兵衛勝山真嶋屋弥兵衛与申者之所江引越渡せ仕度人別離願書出ス

五日 晴

一 正月十四日日記之座頭被下候物ニ付弥岡山備中辺ニも申請候也否配当場江差詰候様御用番ハ被仰聞候ニ付其旨申渡候処今日他所座

頭左之通名印^ニ申出ス

口上

此度 増姫様御官位之御祝儀備前^ニて頂戴仕夫^ハ備中松山足森

庭瀬表無相違頂戴仕候自是口上書印形仕差上申候以上

^{弓削組頭} 繁部 ^{歌野組頭} 城節 ^{新田組頭} 菊部 ^{備前在任組頭} 歌仙部

右之趣及御沙汰候処弥被下候旨被仰渡候且又今般御目見御祝儀^モ
被下候間来^ル 九日^ニ 兩様相渡候様被仰渡候係左衛門^江申渡^ス

一 配當場集城正城古^{吟味役} 三人^ハ御領分^ニ居申候初心^ハ只今^ニて十三
人御座候從 御公儀様何事^ニよらず被下候儀御慈悲之上組頭^ハ人^ニ

^ニ相濟候様^ニ奉願候旨書付差出し聞届置候

六日 雨 七日 晴 会所御出席

一 堺町小山屋徳治郎家売四百匁船頭町作人小三太^江買

一 東新町福岡屋平介娘宮尾村次左衛門養女^ニ遣^シ

一 同町米屋善七娘同村甚右衛門養女^ニ遣^シ

一 二階町伝吉借屋伊兵衛へ勝間田村八右衛門引受及御沙汰

一 中之町重屋平藏家内三人木知ヶ原村平九郎方に引越及御沙汰

一 東新町から屋利兵衛妻弟京三条通桜元町ひのや孫三郎方へ引受

一 坪井町きやう屋庄右衛門方宿屋賄替四十表余滞滞在中へ懸り願差

出し植月新右衛門へ渡^ス

一 京都惠名美檢校^ハ来状^{三月一日出} 城集城正古一三人座用之儀^ニ付先

達^而 御登^シ候様申越候処何角^ト「一」罷登り不申故早々御登候様申

付可仕様頼来り則刻及御沙汰右三人城古^ハ立合孫左衛門宅^ニ其段

申渡し候大目付中^江も申達^ス

八日 晴

一 檢校^江返書飛脚^江相渡^ス

九日 晴

一 配當場^ニおいて同心^{目付川端又六^三船孫八^三為立合^{城秀城正}城古^{取計}}

銀札^メ六百三十匁五分

内一^メ百五十二匁五分 衆分百式十五人内老人^ハ十匁ツ、晴八十式匁

同八十五匁打わけ十七人五匁宛同四拾目初心五十六人二匁五分宛

同八十四匁寿名廿八人三匁ツ、同十匁小女警四人二匁不分ツ、

同四十匁配當場役料同式十匁書役料筆墨紙

右^者 万寿姫様御祝儀 殿様御目見之御祝儀被下置候^ニ付如此

一 平野丹下一昨晚急症^ニて昨晚死去^ニ付今日^ハ村山平学月番相勤

居候

一 大御目付中^ハ廻状

一 来^ル十一日 光円院様二十七回御忌^ニ付泰安寺^ニおいて御茶湯被

仰付此段為御知被成候旨文段先格相伺候^而相触候様大年寄共^江申

渡候

十日 晴 十一日 晴 十二日 晴 会所御出無之

一 紺屋町利生院借屋作人助七悻長太郎大坂高津新地三丁目河内屋佐

兵衛方^江養子^ニ貫候由願

一 船頭町作人儀平^ハ願悻市太郎当歳二十一去^ル正月十八日之夕与風

罷出此間迄帰不申方々調尋候得共行方相知不申候然^而兼^而不所存

者^ニ御座候故何方^ニいか様之義出来仕候も難計奉存候^ニ付義絶勤

当仕度旨願書差出^ス

一 銀札場ハ廣瀬鍛冶場ハ橋明五月取崩候之旨被申聞候

十三日 晴夕雨

一 備中松山川上郡玉村松四郎四十一十五六年此かた入込候飛乗船頭之由今

朝五ツ後檜原前川筋之通ニて宗永寺借屋ニ居申喜八と申者之悴六拾郎風

呂敷包負候而帰候処右風呂敷包を押取ニ可致体及実儀候て凶事ニ

も可及申かけ追剝之致方折節西今町久保田屋理右衛門と申者参リ

懸リ声をかけ候へ者右之狼藉者船頭町さして逃いなく之夫々為知

候ニ付目明其外手を廻しせん頭町ニて捕候由申出及暮牢番江預

御両所江申達

一 鍛冶町次兵衛町内市右衛門借屋妻并兩人大庭郡野川村宇右衛門与申者之

方江引請ニ付人別離

一 西今町嶋田屋伊助養子ニ久米北条郡中北村喜右衛門悴文三郎と申

者養子仕度願承届

十四日 晴 御用場

一 大御目付中ハ廻状近々惣社宮於社地見世物有之候右之場所江自分

并妻子者不申下々迄参候儀御停止之旨御触例之通同心共江申渡

十五日 晴 十六日 雨 会所御出席

一 去ル六日之処惠名美檢校ハ頼来候通上京致候様ニ申渡候処彼等方

今京都江飛札遣し右之段ハ表同役城秀儀病身者何角入用等多ニ

付此者ニて拝借願候へ共御時節柄ニ而不相叶難儀仕何卒工面仕来月

中ニハ上京可仕城秀も先達而飛脚参時分ハ少々ハ快氣之様子ニ候得

共平生ニハ兩人共ニ無間違上京可仕候間右御願可被下旨大久保坊と

申江城正ハ書状遣候処今日右城秀役所江無断致上京候由

一 惣社宮へ参り懸リ之五六人連人形芝居世話焼神主今被頼候ニ付彼

地江罷越世話仕度例之文段ニ而河原町山た屋新太と申者ハ断書出ス

及御沙汰候 十七日 雨

一 吹屋町作人喜兵衛売五十匁同町作人清六買

十八日 晴 御用場

一 東新町並屋三郎兵衛阿州藍玉売昨日留置候段株宿五人之者ハ訴出候遂

吟味処無相違ニ付為引私役所ニ而立置候定法相背候義不届之段追込

申付候旨御伺相濟今日取計御両所江御届申達ス勿論年寄并五人組

呵申付ル

一 戸嶋村彦右衛門と申者之悴去ル頃銀札似せ物遣いたし為遣候清八

と申者召捕入牢申付候様今日於御次被仰渡候則日同心藤森権六江

中含候

一 桶屋町桶屋与太郎借屋さん与申老女八十式歳而独身者にて親類之

者も無之極老ニ而渡世之体ニも不相成当日を送兼組合心を付候得共

甚難義之様子相見候ニ付願書組合ハ差出ス

但桶屋町年寄平治ハ老女母親百余歳ニ相成候節米五俵ツ、而年被下拾三年前戊七

月御蔵江差出し都合を以御渡し被成候由添書有之候

十九日 晴 廿日 晴

一 桶屋町老女江三俵一斗一升勘定所ハ相請取則日相渡ス

代銀札ニ而出ル年寄添書之趣ニ付被下候申ニ者無之候得共格別之御憐愍ニ付被下之候

一 鍛冶場橋去ル十四日引取之儀届候処渡舟繕末出来不致ニ付延引之

由村瀬八兵衛ハ被申聞又ハ大御目付中へ申遣ス

廿一日 晴雨 会所御出席無之

一惣社宮見物昨日ハ法楽役人差出ス

一大坂屋次郎右衛門在分極原前水車運上半輪之分一札札出ス

廿二日 晴

一村山平学ハ目明才兵衛儀ニ付下目付組去ル十五日之夜下ハこん屋町

ニて何者とも不知往掛り名所不定之あわれ者ニ付目付組五六旨之

内長谷川文助才兵衛江申候由「」者付小屋之者江申付追込可致由

申候と申上又文助并右之夜同道之遂吟味候得共決而左様ハ無之才

兵衛ハ追込之儀ハ申聞之由申切候旨仍之才兵衛を吟味之上申聞候

様被申聞候ニ付承置候

廿三日 晴 御用場

一来ル廿八日今般御目見首尾能被仰上候為御祝儀於御城御吸物御酒

被下之番外以上御小姓組以下坊主迄八時先格之場所江登城可仕之

旨年始ハ朔登 城相濟之嫡子之面々も同様江戸留主嫡子之面々江

も同断右之廻状大御目付所ハ出ル

一並屋三郎兵衛追込差免申付ル御届申達ス

廿四日 雨

一去ル十八日被仰渡候清八捕之事先其分ニ致し候様村山平学ニ申聞

候ニ付尚又藤森権六江尋致延引候様申渡ス

一備中松山出飛乗船頭松四郎無宿之由「」長助於会所吟味申付ル

一鍛冶場土橋引取候旨札座奉行中ハ申来其旨御両所江申達ス

一川端又六藤森権六中山伝内三人呼寄目明才兵衛去ル十五日之夜下

目付長谷川文助其外之面々ハ途中行合之他所もの之義懸合如何様

之趣ニ候哉実否吟味可致候尤又六宅役介ものニも候間才兵衛懸り
合之者呼寄相尋可申様申渡ス大意之書面有之候

一右之節皆様ハ追込候様ニ被仰候ニ付酒酔追立參候

一同断ニ付保頭四郎左衛門差添出申候非人小頭迄相渡シ候由届出申候保頭仁右衛門

一同断ニ付小屋之者ニ為追込候様被仰ニ付町内義故年寄
之断才兵衛と一所に非人小屋江參候由

一同断ニ付申候先達而之通被相違候
目明 齋兵衛

右各別ニ有之候又々追而可及吟味候

廿五日 晴

一近衛様内本田左近正と名乗馬駅而散々捨馬罵り堺町鳥屋与惣兵衛

方而段々取持日雇頭新右衛門様々及挨拶上駕籠ニ挺平人増人等差

出し人足質錢も不取之 出し候由此者今日於河辺も種々悪言を申

同様ニ法外有之候由尤昨日之儀今日右町江尋申付候而書付差出ス

廿六日 晴 会所無御出席

一此間之本田左近正謀事顯れ於勝間田散々打擲ニ逢何方江か退き候

由町在沙汰相聞候

一松四郎儀ニ付宗永寺長屋ニ居申候喜八悴六申候村井六兵衛江頼尋

貫候処右場所而我申事を被聞入候て川江はめ可申候口放ちを入可

申なと申候由委細之吟味書に有之候

廿七日 晴

一諸士登城坊主迄御赤飯御吸もの御酒頂戴而廻勤不残尤御祝儀前

一二階町粕屋助六家売百五拾匁茂渡市右衛門買

廿八日 晴 御用席例日之御用場

一諸士登城坊主迄御赤飯御吸もの御酒頂戴而廻勤不残尤御祝儀前

御席^江例之通罷出今日御祝儀頂戴之儀御礼申上^ル

一 明廿九日御預^々之下代同心組之面々御酒被下置候様大御目付所^ニ
被仰渡有之候則日申渡^ス

廿九日 雨

一 今日於宅下代足輕同心組半番三軒屋各御酒頂戴致勿論相応之取計
相濟麻上下^ニ御用番月番大御目付中^江御礼廻勤致候

一 来^ル朔日誕生寺通行^ニ付同心廻り^ハ氣を付取計

晦日 晴

一 京町みそや理左衛門去^ル廿六日大坂^ニ大目付中^江御用状寺田伝
助^ハ請取夕帰差之處不慎^ニ付今朝悴^ニ為持寺田治助所^江大坂^ニ而治
様伝助申之^遣しを治助他行^ニ付家来^ニ為持村山平学^江相届候致方不

法之事故右治助儀同所^江被呼寄其趣被札候処申方不宜且理左衛門
儀も前日夜帰差乍致翌朝迄届候事延引致し兩人とも不埒相聞候仍
之尋呉候様^ニ申聞孫左衛門^江早刻申渡候

四月朔日 晴

御用番小須賀一学殿

月番 村山平学

一 会所無御出座

一 昨日村山平学被申聞候趣相札候昨昨日之通^ニ候得共書付を以申達
候へ^ハ今般^者拙者手前^ニて相呵以来之儀申付候様何分御用^ニ懸り
候事難捨置旨委細得寄等被申聞今晚於宅忠兵衛同道治助呵申付禁
足^ハ役所之存寄^ニて忠兵衛伺候^ニ付

申付候平学^ハ呵計被申聞之

一 味噌屋理左衛門御用状大坂^ニ寺田伝助^ハ為請取去月廿九日之夜罷
帰り不快^ニ付悴^ニ翌朝治助方^江相届候仕方籠略之致方^ニ付以来彼
^ニ不限御下^ニ罷在候者折々御用物も相届候儀旁右^ニ致方^ニ甚等
閑に候間惣体^江之響理^ハ儀急度呵禁足申付候尤是^ハ忠兵衛宅^ニ
例之通立合申渡候

右兩人相札し大年寄覚書両通有之

一 川口藤十郎備前岡山車屋六太夫方^江罷越八日計逗留断出^ル

一 日雇頭新右衛門先月近衛殿内本田左近正と御城下罷通駕籠人足等
貸錢も不取右之者存寄を申を任其意先年大年寄共申渡し公儀御朱
印御證文之外ハ賃錢無之^ハ人馬指出し申問敷旨尚又日雇頭^江申渡
候処私之了簡を以不及沙汰相退候^ハ不届^ニ付及御伺今日右利右
衛門追込申付御届^ケ申達^ス

二日 晴 三日 晴 御用場

一 今日八ツ時御供揃^ニ泰良院様泰安寺^江御參詣成候夫々例之通申付^ル

一 例歳之通一宮市町参候事御停止之旨御触書出夫々相触候

一 今日町在入札開所々枯^ハ雪折等町分入札^ハ外^シ申候

四日 雨 五日 晴

一 下紺屋町^ニ去月十五日夜之一件渡部惣馬宅^ニ被申聞候目付組段々
吟味申付候処弥小屋之者^江追扱はせ候儀^ハ不申付才兵衛^ハ申付候
儀も勝手次第と申候旨併長谷川文助儀も頭^江間違之儀申候事役柄
不相応之致方^ニ付取計方有可之其外之者^ハ夫々申付候間左様相

心得候様ニ被申聞事「一先方吟味書預り帰ル

六日 晴 七日 晴

一日用頭追込差免し申渡及御届

一東新町くら敷屋七左衛門弟治兵衛ニ三年之間大坂出職仕度願聞届

一上紺屋町今屋伝助年寄役申渡ス

八日 晴

一上紺屋町一件ニ付今日会所江才兵衛#町内年寄仁右衛門其外懸リ

合不残呼出し遂吟味候処各此間申通無違ニ付渡部惣馬江伺方以書面及内談候明日双方及御沙汰可申旨被申渡候

一今日江口庄左衛門参去ル六日真木山参同道渡部惣馬茂渡茂左衛門

吉田宇佐治右庄左衛門#御坊主河村三可是も一所ニ船頭町渡へ明

ケ七ツ半頃参り候所船頭一人も居不申候ニ付御藏元今津屋平藏方

江両度及家来遣し候へ共当人も早速不罷越甚不埒ニ付己ニ六ツ半

頃ニも相成候節漸舟見屋佐助参船へ渡し候由然レトモ何れも腹立

ニて帰宅之上町奉行所江届候旨佐助申置ニ罷越候右之致方難捨置

ニ付相届候由承置

九日 晴 御用場

一今津屋平藏右不届ニ付追込申付船頭兩人へ町内預ケ姫路屋伝藏儀

も常々申付疎之旨呵計吹屋町年寄当分假役申付ル御届両所申出ル

一下こん屋町一件ニ付一応御伺申上候処存寄を以取計候様被仰渡候

ニ付大御目付中へ其段申達シ今日取計大年寄宅才兵衛計ハ目付立

相之

○何方之者とも不相知酒醉無礼致候由之処無用

儀其場江罷出非人共に追込せ候趣不届ニ付追込書面有之

目明才兵衛

○町役をも相勤なから其無調法至仍之追込書面別に有之

仁右衛門

○右兩人ハ呵

組頭 忠五郎

一 大御目付中ニも目付組右一件ニ付取計有之候由

大概之覚書

同保頭 四郎左衛門

去月十五日之夜於下紺屋町焼灯も無之訳一緒差免候上才兵衛へ前後差話不行届事之訳尋書請書一已ニ認候文段善悪分「」を致候対し非分を申はる之重々不届ニ付番代ニ申付候由文段別に有之

長谷川文助

同断之訳文助同道乍致了簡も不加前後詰開等不束取計故双方懸り合ニ成候段不調法之至江竟常々心懸り合キ故ニ候以來相慎諸事入念可相勤候

江田清右衛門 日下常八 江口多七 内田五郎治 中村藤兵衛

同断之訳別而其方役義をも申付置候へハ仲間内右体有之節ハ假少事たりとも小頭共ニ該早速可申出之処兼々心掛うすき故ニ候申付方も候得共 追込申付候已来諸事相慎入念可相勤候

大塩弁藏

一 公儀今被仰出候ニ付大御目付処今支配方可相触旨大旨左之通写別ニ有之

燈油之儀寛保三亥年之御触宝曆九年卯年之御触を不相弁亥年大坂町奉行所ニ被仰渡之通今以一国切絞草買請絞油稼致候者相聞心違之至何れ之国ニても手作之絞草ヲ以手絞候其分之油を大坂出油屋共江積登儀ニて一村之内たりトモ他之絞を買請絞油稼致候儀者不相成其旨近年相触候趣無違失可相守候

右今日玉置忠兵衛江申渡し候

十日 晴

一 町在ニ而惣ニ證跡もなく体も無之事善悪ニよらす上之事種々に取成申事不宜候間町々年寄共其段相心得置候様己ニ此間京町江かけ連れ参候女子共立まわき候由是等之儀ハ別ニ体もなき事他之聞江も如何ニ候間相束申渡候様勿論昨日大御目付中之被仰渡候へ共當時ケ様之申出ハ懸ニ如何ニも奉存候旨ケ念ニ及候処大やうに取計候様ニ被申聞候ニ付今夕夕町々年寄老人ヲ大年寄宅ニ取計遣候
一 三年寄共歳暮年頭献上物代金付是迄不参ニ付遣し不申候処上田喜十郎之御勘定所江申来候ニ付今日過不足之訳を申金子老両老歩五匁当リニ上田江書状を以遣候

十一日 晴

一 西新町英田屋平右衛門之願牢居喜三郎儀母病身ニ成其上及老衰明暮喜三郎事うれい候ニ付歎敷出牢被仰付被下候様願差出候ニ付番番江聞合同心遣シ共ニ見請候処全平氣ニ相見候由申出候故一昨日及御沙汰候処御聞濟被成今日聞届ル大年寄申渡し牢屋ニ昌明老人立合セ町内年寄五人組呼出し願人も罷出喜三郎書付を以申渡し取計御届申達ス

一 下紺屋町一件ニ付中嶋免右衛門差扣候得共不及其儀旨申渡し

十二日 晴 会所無御出之

一 西今町松本屋五郎衛門孫伊助先月廿七日与風罷出行方不知候旨相届ル

一 かけ屋惣兵衛儀類族脇暮之者ニ候処向後不及右之旨江戸表之申来

小間もの屋伝切支丹惣五郎嫡男本人同然吉左衛門孫同所吉ケ原町売人甚左衛門妻志ゆん
候ニ付左様相心得可申様宗門奉行中江呼出申渡御座候由京町年娘さし此夫与一屋惣兵衛之きし宝曆七辰之十一月廿八日病死同年十二月御届有之由寄之申出段忠兵衛申出ル

十三日 晴 十四日 雨 御用場

一 田辺村五兵衛娘そめと申女兼ニ義絶之断候へ共御帳面ニ不留記ニ取計置候処此間真壁村万太夫と申者之所ニ木綿一反盜候事頭候柳之土手ニ捕有之趣藤森権六之申出双方引合相濟及御沙汰右女ハ小屋弘ニ申付候

一 江戸表 若君様御袴着御祝儀岡山ニ其外ニも頂戴相濟候旨伺出候ニ付御伺申上候処可被下之旨被仰渡候

十五日 晴

一 今日座頭とも江御祝義被下候川端又六石名左五兵衛差出候銀札八百七十九匁五分内六百九拾六匁分五厘衆分一同三十人晴衆分老人有四拾五匁折かけ十八人六拾式匁五分初心五十人四十式匁寿名廿八人三匁七分五毛小替女三人役料式十匁筆墨紙書役十匁

十六日 晴 会所御出席

一 態野屋治助家売三百五拾目同町沢屋惣左衛門

一 一宮市町ニ付参懸リ世話焼

十人連舞子ふきや町七兵衛四五連ちんかる業みなき屋甚助

六人連輕業下こん屋町岩屋平助六人連舞子中之町岸屋茂助

十人連舞子京町相屋嘉兵衛

十七日 晴 十八日 雨 御用場

一 中之町 藁屋藤吉家売作人伊助買八拾目

一松平出羽守様御嫡子佐渡守様御先触六月十日院庄御休

十九日 晴

一今日一宮田植祭礼役人出シ御届申達ス

一本屋七郎兵衛百五拾匁再封受候由銀札場東来ル

廿日 晴

一北山修斎修安儀五ヶ年已前大坂南本町四丁目北山寿斎方江為医

学午辰迄十三ヶ年差遣置候願ニ候処当年勝手ニ付帰宅為仕度旨願出聞届候

廿一日 晴 会所御出席

一万人講之儀当年も被仰付候旨今日甚左衛門江被仰渡候由通用有之例之通岸権六石名平太兵衛江通達

廿二日 晴

廿三日 晴 御用場

一牢屋御繕未出来不致旨申出申達ス并兩人共やね繕之儀是又申達ス

一万人講来ル十月十九日之日取建札立申度旨及御沙汰御聞濟

一桔梗屋庄左衛門神戸院庄村吉原村役人共宿致し兩三ヶ村之内神

戸村院庄村一相並今日於御吹及御沙汰勿論先日大御目付中へも及噂候処何角在中懸り合ニ付三木甚左衛門へ引合可然申及通用候

処此儀向方ニて了簡ニ不及旨金村伝七返答ニ付無扱今日及御沙汰候

廿四日 晴

一平岡彦兵衛殿支配所勝北郡勝加も東坂上村兵七拙宅江罷越シ手代飯村仙助ハ添翰を以訴状差出し宿ハ新魚町藁屋茂兵衛と申出ル文

段郡代所日記ニ有之大旨酉十月銀納米代銀壹メ八十田原屋六兵衛ハ請取

分差支押入村平蔵月前をわへ当正月迄可相渡證文左之銀納ハ才覚ニ濟以後

催促及候へ共相渡不申致迷惑兩人江掛り訴出る及御沙汰下方江申

渡ス

一先達而入牢申付候浜七親町分徘徊之分差免シ

廿五日 晴 廿六日 雨 会所無御出席

一訴状懸り合請書田原屋六兵衛ハ差出ス一件別ニ有之

廿七日 雨 廿八日 晴 御用場 廿九日 曇り

一東新町嶋屋十兵衛と申者去ル廿四日日記之表坂上村宿ニ立遣候段届出る新魚町いし屋茂兵衛ハ及断候由

一高瀬屋次郎兵衛高瀬屋又助家売替合四百目

五月初日 晴

御用番大橋十大夫殿

月番 村山平学

一今日市町為見分一宮江罷越候石名平太兵衛同道中嶋定八方休息銀

札場江も立寄候無滞相濟御届例之通申達ス

二日 晴 三日 晴 御用場

一古道具取売商売株之者ハ願書差出し近来帳面に不入者所々ニ右道具取売多々有之銘々渡世迷惑致し何とそ触流し申付呉候様ニ申出

早竟御家中長屋もの之内ニ右等之者有之ニ付此儀を申出候訳ニ候

右ニ付今日大御目付中江意味相もの故申懸候ハ兼而長屋もの迎も相応之村商事も仕候へハ其商場所ニ勿論仕出し候時事頭候而計方

も無御座取売に限り候事ニても無之様奉存候殊更彼等ハ株もち候者旁無余義申出ニ御座候旨申候処有無不相決候

四日 晴

一 一宮町今日引払相済届申達ス

五日 晴 六日 晴 七日 晴 今日会所御出席無之

一 去月廿四日日記之表勝加茂坂上村兵七東新町寫屋十兵衛召連させ会所へ呼出平太兵衛伝兵衛出合先達ニ而訴状之趣相糺候処兵七米主

ニ無相違無之ニ付田原屋六兵衛猶村久右衛門へ證文押入村平藏加判ニて米買取よし

押入村平藏兩人江濟口急度申付候間先達ニ而之返書相渡候旨申渡引取せ候尤右濟口承候上御代官所へ御届申由申ニ付其段承置候

一 三丁目若本屋勤兵衛分院庄村庄屋へ懸り訴状之趣兼ニ而庄屋とも桔梗やへ参来候へ共「味屋有之去四月分宿頼候処右賄代米五石一計二升三合相滞迷惑仕候旨相願候ニ付則右村江急度相済候様植月新右衛門へ申渡ス

八日 晴 九日 晴

一 今日九ツ時御供揃ニて銀之助様宮川御門分町筋河辺へ被成御出候此旨隅田族より申来ル

十日 晴後雨

一 鞠負殿江戸表分今日帰着

十一日 雨

一 鍛冶場往来止り御届申達ス

十二日 晴 会所御出席無之

一 鍛冶場川明キ御届申達ス

十三日 晴 十四日 晴 御用場

一 伏見町布屋平兵衛弟三右衛門申者当戌四拾歳是迄新魚町借宅仕罷在候処近年行跡不宜不屈之儀共有之色々異見加へ組合分も申聞候へ共相用不申心底難見届已後如何様之儀難計此度義絶勘当之願差出相済

十五日 曇

一 去月十日之日記江戸表へ大年寄共差上物代過不及ニ無之参候通ニ而相済候由返書到来文段別に有之扣ニ記ス

十六日 晴 会所御出席有之候

一 大坂難波橋わたや市兵衛兄教順と申僧送りもの東江通り

十七日 晴 十八日 晴 御用場

一 二階町山かた屋与次右衛門兄団五郎歌州分婦り住宅願則相済一 佐渡守様来十日御通行ニ付先格之通取計候様渡部惣馬申聞候

十九日 晴 廿日 晴 廿一日 小雨 会所無御出

一 河原町作人長助家売九十五匁同町荒神屋次兵衛買

廿二日 曇

一 明廿三日東本願寺使僧相勤候旨村山平学分申来ル斎藤孫右衛門方江申遣ス此段二三日以前分同人分被申聞候ニ而町方取計先格相尋候其段申達シ使僧宿孫右衛門方ニ相極メ用意申渡ス尤止宿ハ本林寺ニ而逗留之間町分拘り無之候

一 十六日之送り者又々東より送り戻し

廿三日 曇後雨 御用場

一 今日本願日使僧相勤之孫右衛門方^五 出役御取次野条平藏寺社取次
村井六之進詰番土井官治渡部岡次料理引請小勘者高橋小右衛門立
合目付茶道例之通使僧口上之大意、此度西国筋門末為示使僧指留
ニ付御安否之聞度之旨進物有之候得共御断有之候由則本林寺案内
^二御料理相伴之由相濟御用番并大御目付中^五 御届申達^ス

一 大御目付中^五 廻文左之通町方触^レ 不及

四月七日 若君様御儀御元服御祝儀相濟今日^五 大納言様与奉唱
向後 大納言様御台様^与 御順之旨被仰出候此段為相知候様御用所
御申^ニ 付申達候右之趣^一 大年寄^ハ 為知組中廻文

一 二階町いなり屋喜助仕出し目金細工取逢申^ニ 付御家中并町方荷も
ち懸御目度旨願書差出し二通^ハ 可申上^ト 大御目付中迄談置候処是
等之類^ハ 役所聞届^ニ 所々任好^ニ 内山下其外たり共持廻り候儀^ハ 御
下之者故不苦旨心得置候様村山平学被申聞候今日聞届申渡^ス

廿四日 曇 廿五日 晴夜中雨

一 車乘善兵衛病死致候旨魚屋仁太夫^五 届則取捨申渡^ス

一 久世^五 飛札到来薪森村へ真壁村和七と申者百姓参庄屋七郎兵衛^ニ
神「」を買手代多七と致喧嘩其上和七親善四郎組合茂市一同にあ
われ込引取不申候旨今昼時訴出候仍之早速同役東原惣内為吟味遣
し御在会吟味之様候間明朝御役人^ニ 差出候様庄藏殿^ニ 申之候^ニ 付
如此之趣申来り大御目付中へ申達^ニ 置夫々一学殿^五 其段申達之追
付於御宅平学出合評義勅負殿^五 被仰達候上石名平太兵衛へ拙者^五
出役之儀申達候様^{御勘定奉行中へハ}
大御目付中へ其段申達候由^於 会所申渡^ス 岸権六是又
右御用出役之儀平学於宅申渡有之旦又下代兩人并地方目付構口^ニ

付兩人申渡^ス 和七儀昨日吟味被成候由候故今日又々呼出様子相
尋牢番預に申渡^ス 尤右吟味片付不申^ニ 付明日^ハ 延引致度旨久世^五
返答遣^ス 同心組^五 も不意之出役申渡し置候

一 去^ル 廿三日虚無僧本寺京大津明暗寺番僧忍旭と申僧町宿へ入候義
大年寄三人^五 書面差越翌日出立右訳を御当国^五 近來参候事相闕し
候是^ハ 江戸一月寺鈴法寺兩寺^五 明暗寺^ヲ 配下と申懸り合に成出府
候処兩寺は支配頭に申證抛無之明暗寺^ハ 一本寺と證抛有之利運^ニ
此間中絶^ニ 及候五畿内并隣国中国四国山陰道吟味支配候由宗門^ノ
り方且前住去々九月相果当住唯山快旭^ニ 相成候^ニ 付門弟所持之印
形引替等用支引請罷越候由諸事事挨拶^ニ 吟龍罷出候由
○加治場川止り

廿六日 晴 会所御出席

一 広瀬義平^五 去月廿六日之書状去之月十八日^ニ 遣し候返答之四月九
日日記^ニ 有之候趣^ニ 付玉置方綿実絞り油之儀万^一 御手扱になり候
^而 如何と大坂最寄聞合せ之訳表立候^而 挨拶も難成先右御触^ハ 元來
公辺御台所向油之御用聞町人^五 油下直に差上申度候間御触出し之
儀相断り候様之由其表之綿実^ニ 之儀少分之儀此度之事^ハ 尼崎其の
外大懸油仕込候所^五 之御触^ニ も候哉事玉置方綿実油も少分之事故
手作^ニ いたし候分絞り申と号可然旨此段察候様申来^ル 大御目付所
^五 も聞合之返答申越候由別^ニ 書面有之候玉置^五 も心得申聞せ之

廿七日 晴

一 薪森原村一件^ニ 付岸権六石名平太兵衛下代兩人地方目付兩人今日
御茶屋迄遣せ申候一和七儀院庄御茶屋迄同心^{中山伝内} 召連直に相

詰ル

廿八日 晴 御用場 廿九日 晴

晦日 晴

一 去ル 廿六日 福江屋政吉買同町岡本屋勘右衛門後家六百六十匁

六月朔日 会所無御席

御用番小須賀一学殿

月番 渡部惣馬

一 太夫殿江戸表 江 出立

一 明二日 一宮之石為牽候由寺社取次中為知

二日 晴 三日 晴 御用場

一 小性町土橋損し申出申達ス

四日 晴

一 但州幾野御代官所手代飯村仙助少坂上村兵七再訴添翰持罷出孫左衛門少差出ス趣ハ右兵七買米代滞之儀平藏六兵衛 江 相濟候様兩人

申渡候へ共差継勘定等之義同人一向存不申再三及対談候 而も埒明不申ニ付相願候旨別ニ願書写添書共ニ有之候

一 安楽院不動院例年之通会式申出其段申達ス

五日 晴 六日 晴

一 久世御代官所少昨五日之日付書状到来伯州東川中川通り飯岡木知ヶ原口留於番所取立来候木綿実運上当戌年限り請負年季明ニ付跡請負之義村々遂吟味相伺候読り当月廿五日四ツ時入札申触候間当町入札ニ望候ものニて證人差添前日罷出尤同所藁屋清左衛門義是

迄請負人ニ候間入札望有無ニ不拘證人差添前日罷出候様可申付旨書面本城辰右衛門川井三郎治より来ル

七日 晴 会所無御出

一 船頭町髮結伊助妻とめと申当月二日ニ懸出東新町庄助と申とめ伯父ニ彼方へ参暇乞候ニ付則離縁致候処ニ才ニ成候むすめ先方へ請不申此義其及難儀右女子之義候間母かたへ引取候様申付呉候様願出右東新町庄助方返答申付候所種々申訊いたし候へ共妻離縁之上女子之義ニ大法ニ付元「一方へ請取候様申渡ス委細は願留ニ有之」久世少申来候一件ニ付大年寄へ申渡し町方へ触差出ス文段触留ニ有廿三日迄ニ

一 去ル 四日 幾野添翰之田原屋へ急度致納所候様申渡ス

八日 晴

一 田原屋六兵衛 江 坂上村兵七懸合再訴ニ付急度納所致候様申渡ス

一 出役之銘々明日引取候旨飛札夜中来ル中山伝内今夕帰候

九日 晴 御用場

一 紺屋町中之橋損し大御目付所 江 申達ス

一 来ル 十四日 御用場延十五日暑氣御機嫌伺之御帳付候旨廻状出ル

一 佐渡守様御通行ニ付御見通し御堀掃除賃札先三步一ニても受取度

旨御作事方ニ被申聞申渡ス

一 宮川大橋古木追廻シに積有候所内一本物紛失致候旨

一 且又西ノ橋金具逃シ候儀有之候由役筋心得置候様大御目付所被

申聞候則日当番市左衛門 江 申付ル

一 こんや町備前屋定七九拾目家売宮脇町おの屋七右衛門買

一 薪森原村一件出役今晚帰リ候各御届申達^ス

十日 小雨 十一日 雨

一 鍛冶場往来止リ相届^ル

一 今夕和七呼寄候^{中山市左衛門石名佐五兵衛}差越候先宿桔梗屋^江願出候手鎖^ニ而組合

番申付^ル申達^ス

十二日 雨

一 川止往来明

一 上河原村源八出奔跡悴其節親類権四郎与六兩人より東新町河内屋仁兵衛^江願置候处此度帰候て可受取旨申^ニ付相戻し申度断書承届

遣^ス

一 上紺屋町備前屋定七家売百目町内小山屋岩右衛門買

十三日 白雨

一 佐渡守様御通り筋三丁目^江東^江川辺御境目迄見分同心兩人召連候前格有之候町分^ハ目付相隨ひ大年寄孫左衛門諸吟味も罷出候東新

町大嶋屋^ニ而休息

一 今夕和七儀半番預^{中山内橋元伊兵衛}下代神西作兵衛右三人きやう屋^江差向

為取計候村預之建^ニ而メリ付候様御内分^ニ付在賄^ニ而町賄之儀申合

十四日 白雨有

一 今日坪井町^江西^江出夫^江院庄へ罷越神戸河原^江入込見分夫^江御茶屋見計罷帰候御届申達^ス

十五日 白雨烈^シ 御用場

一 徳守宮十四日^江十九日迄祭事^ニ付同心差出^ス

一 佐渡守様御通之節御堀り御見通し^ニ付掃除賃取立差出し候様仕度

旨御作事^江被申聞例^江早々取立先百匁遣之候

一 鍛冶場往来止^ル

十六日 晴曇

一 鍛冶場明^キ又止^ル申達^ス

一 兩所川往来明^キ申達^ス

十七日 晴 十八日 白雨 御用場

一 御使組野田武兵衛と申者去月下旬暇出候へ共「」母妻娘右之屋敷を不立退不届^ニ思召候^ニ付追払被仰付候御勘定奉行中と申談候様於御次大御目付立合候^而一学殿被仰渡候且右之請人安岡町家持五大夫下請細工町定助此者共^ハ相当之儀を以申出候様被仰渡候尤此者共儀^ハ請人^ニて不取計鎮候由

一 今夕御勘定奉行中^江及対談同心差向申渡之儀^ハ何之方^ニて被申渡可然哉又婦人とも異義^ニ及候時之儀共談候处大御目付中申談候儀可然と惣馬対談致候处及異儀候ていか様致候^而も不苦申渡も同心^江申渡し可然之旨被申聞其段及通用

十九日 曇

一 今日四ツ時御使組小頭山根平八部屋目付竹田十右衛門被差越同心目付川端又六出番中山伝内室井政治金鳥喜代扱双方手合申談し家財諸道具^ハ大御目付中^江町奉行方^ニて取計候様被申聞藤森権六申含^メ候右野田野屋敷^江罷向ひ又六^江申渡し候处母妻子三人直に罷出同心三人「」添古城村御境目^江追払庄屋佐治兵衛手形取帰候權六^ハ又六と「」合古道具屋呼寄人札申付十八匁五分之落札^ニ而諸事片付七ツ刻右之屋敷小頭前原平右衛門部屋目付橋本平七^江無滞引

渡し早刻御用番一学殿大御目付中^江も御届申達^ス御勘定奉行中^江も及通用候

一是迄入牢申付候者共書付を以申上^ル

一船頭町林田屋武介高瀬屋藤助家替負銀札式百五拾匁

一魚町美濃屋伊兵衛家売戸川町玉置伝六買巻^メ七百目

廿日 白雨

一鍛冶場往来止り申達^シ昼後川明申達^{「」}

一武兵衛一件ニ付安岡町五太夫細工町定七兩人於会所尋申付町内年寄今申上書取之

一昨日迄^ニ徳守宮祭事済同心^ハ相届^ル

廿一日 曇 廿二日 晴

一安岡町五太夫会所^江呼出し申渡し候事御使組武兵衛儀請人其方相

立罷在候処武兵衛義子細有之去月廿三日晦出同夕其方^ハ申渡承之

然処右之母妻子同人屋敷を立退^ス法外及候処其方手に余り候^ハ実

ニ身を不入役所^江も則時不申出之彼是日数を重狼藉相募候事全請

人之手拔之致方不届^ニ候仍之急度申付も候得共^ハ惱怒を以町内払申

付候^付役介共^ハ年寄申渡^ニて引払せ候

町内年より見届之手形取之帰^リ候

一右役介^ハ年寄申渡し^ニ引払候当日年寄^{「」}禁足当分茅町^ハ構^ヒ申付^ル

一細工之町定助申渡し是^ハ下請人之儀^ニ付一等輕し故に手に余り候

ハ、右請人共^江身を入可及対談之処役所^江も不申出日数を^存

を致させ候儀手拔之致方不届候仍之追込文段別儀不相替此段年寄

ハ呵計り

一御使組小頭部屋目付共^ハ戸^メ被仰付候由

一

廿三日 晴 御用場

一新森原村真壁村一件ニ付石名平太平衛久世御代^{「」}所^江罷越候様

被仰付候

廿四日 晴

一石名平太兵衛右御用^{「」}所切肩衣御免被仰渡候

一去^ル六日之趣^ニ付菊屋清左衛門久世^江差遣^ス

廿五日 晴

一今日平太兵衛久世^江出立郡代日記^ニ有之

一船持共例年之通拜借三俵ツ、当所御登米船賃を以上納^ハ辻百三拾八

表

一馬持共例之通拜借大豆式俵ツ、式十五人八月より十二月迄上納

一安岡町年寄とも禁足差免し申渡^ス

廿六日 晴 会所御出席

廿七日 晴 廿八日 晴 御用場

十橋本町^ハ願書

廿九日 晴

一掃除賃百八拾九匁分四^リ今日遣し去^ル十五日百匁^{「」}式百拾九

匁分四^リ受取有之

一勝部上村之百姓当五月三日不残直訴三平宅発言致候者左兵衛四郎

兵衛半兵衛牢番預ケ申付^ル中山伝内^{橋本伊兵衛}郡代所日記^ニ相知候

西六月廿五日
一京都花屋権兵衛代々真言宗西寺町福泉寺旦那候処去西七月同人

病死悴当人忠八、妙法寺旦那心願故法華宗志家内、真言宗併去
歳宗帳面違候ニ付断書出、両寺共宗門手形之儀、承知之由之文段
之則日宗門奉行中へ平井半平右之儀当否申談置候

晦日 晴

十紺屋町小山屋若右衛門入壳南町備前屋走助代十申

一京町類族例年之通無難之旨届、有之候

七月朔日 晴

会所
無御座

御用番小須賀一学殿

月番 村山平学

一石名平太兵衛久世の罷歸り委細郡代所日記有之且同心藤森権六野

田権兵衛同断

二日 晴

一新魚町作人仁助と申者去月廿五日之夕頃藤本屋跡長屋勘兵衛と申
者妻之儀ニ付理不尽之儀有之馬場喜内請持前後考済ニ而暫相除候得
共仁助不及申町内年寄迄不敬之仕方詫言も不申之懸而無礼之趣相
聞其分ニ難差置追込ニても申付度段被申聞候へとも大御目付中江
も及噂可申旨申聞候ニ付平学江申談候大御目付中へも同人より申
達有之候由

一座頭城古里の市申出

將軍様御官位之由祝儀頂戴岡山ニても相済候ニ付御当所ニ而も頂戴
仕度依之来ル五日より六日迄罷出申候由相伺出ル

三日 晴 御用場

一山本三右衛門橋元屋不幸致候ニ付忌中之処「」場々明後日忌差
免呉候様申来リ、則今日申渡一通申上る

四日 晴

一座頭江被下候義昨日御伺申置候

一銀札場江配当銀札時借之儀手代遣ス

五日 晴

一村山平学江参候様被申聞罷越候処先達而追込申付候細工町定介儀
明朝差免可申旨被仰出候由之申聞候御使組も同様御勘定奉「」同
座ニ而申渡有之候

六日 晴

一定助追込差免シ

一新魚町仁助者之由茂渡市右衛門借屋 馬場喜内江無礼之儀ニ付追込申渡ス此
儀年寄共取計不宜ニ付禁足申付ル

一座頭共江配当銀札相渡ス高六百七拾三匁五分内五百式拾匁衆分百
四人四拾匁打懸ケ拾六人五拾二匁五分初心四十式人式拾八匁五分
寿名警女拾九人式匁五分小警女式人式拾匁配当場役料拾匁書役筆
墨代

右之大公儀 若君様御官位為御祝儀他国他領座頭警女共へ被下

置配当仕候処相違無御座候以上

立会川端又六
石名佐五兵衛

配當場吟味役
城古印

一今日追込申付候仁助儀喜内へ対し幾重ニも相詫候へ者同心慮も致

し可遣候処其儀も無之に小川之町勘七と申者妻を以御免被成難有
と礼を申来候由且年寄も同様礼ニ参候由段々不埒之趣ニ付役筋江
申込有之候上其訳為尋候処仁助申口卒忽成義仕甚恐入候右者近
之者相頼御わひ申上候所御免被遊被下候旨相心得其段年寄中江申
出シ候彼是間違之義ニ御座候尚又恐入候幾重ニも御免被下候様申
之書付差出ス不埒ニ相決候故昨日及御沙汰今日追込申渡今日取計
筋御所江申達ス喜内江之手紙遣ス

一京町国屋忠八一条ニ付平井半平村山平字江罷越一家ニ別宗之儀養
子嫁之儀養家之宗旨之儀外役介ハ其指処有之ニ格別之儀先年御用
番ハ内膳殿月番ハ村山平字宗旨奉行ハ隅田族磯野平太町奉行ハ鈴
木喜右衛門郡代ハ井上弥兵衛右一家別宗之儀ニ付先役分段々之持
寄申達候処決着不付候今般忠八儀ニ付町奉行三平分問合御座候ハ
甚訳御座候儀ニと存候然ルを養子ハ養家之宗旨可為事一統大法と
御座候儀当役筋も其旨被仰聞事右先年各様御場合ニても御不決
之儀を国屋儀ニ付改宗難成と被仰御大法と「」決候ハ、御家中上
下ニも養家宗旨を改メ候面々有之候何分「」来之御形役筋之義心
得申度旨被仰達可被下候段申談候由同役筋へ返達被申聞候
一大年寄とも八国屋忠八ハ右之心得ニ可然為申聞置候様含メ候
七日 晴 八日 晴

一坂上村兵七去四月生野役所飯村仙助分添翰願出候押入平蔵請合
ニ田原屋六兵衛買受候米代銀壹貫八拾目之證文表之通先達申付
候処今日銀受取相済以後兩人江右ニ付申分無之旨済口證文差出候
尤七日之日付

一新魚町年寄共禁足今朝差免候

一佐渡守様八月五日江戸御発駕同廿四日院庄村御休之御先触来ル由

御沙汰候渡部惣馬へ達ス

一盆中例年之御触取計

九日 晴 御用場

一幾野料坂上村兵七田原屋六兵衛押入村平蔵懸り合一件収納銀一貫
八十目相済候趣同人分申出候ニ付今日幾野役所手代杉村千助へ済

口返書相認訴詔人兵七相渡ス此段御所へ申達ス

一元魚町美濃屋伊兵衛義古川村へ病氣為保養十年「」罷越跡之義ハ
伏見町拔屋幾之丞家守町用相勤させ可申旨願書出ル

十日 晴 十一日 晴

一佐兵衛去十一月山北ニ致盜其筋物荒ニ付為五郎牢番預ケ此度追払

一山北村盗人駒平去申十月才右衛門後家宅へはいり衣類盗人牢之処
髪を剃御領分追払取計

一盗人長助当二月下旬中之町三室屋小麦大豆八俵計り盗取入牢此度

髪を剃追払

一備仲川上郡玉村松四郎当三月中旬桶屋町土手下狼藉之義ニ付追払

右此間御伺之上相済今日取計出役藤森権六申渡シ右又佐五兵衛中
山伝内罷出ル

一兼申付置候喜四郎ヲ田辺ニて釣出シ非人とも方へ連帰り候旨同
心分申出及御沙汰牢番預ケ申付ル中山市左衛門神田権兵衛

十二日 晴

一神戸院庄町宿賄代兩村庄屋分無抛任意秋延之儀書面差遣候今日結

梗屋へ委細申聞せ内々ハ庄屋とも書付取之候様村方へも申開候
段尚又村方庄屋へも申渡シ候旨桔梗屋呼出可申渡旨玉置忠兵衛へ
申渡シ在分庄屋へも同様申渡し

一 銀札場へ参込錠前へ手を懸候美濃職人町賓七今日夫婦とも追払申
付候

十三日 晴

一 昨日之取計神戸村十兵衛去ル酉六月村内五助喜兵衛誘出し長七畑
之瓜茄子を盗夕甚あばれ候義ニ付入牢之処昨日於牢屋髪剃御領内
追払一國住居御構被仰出候室井政治
吉井栄内五助喜三郎兩人義ハ構追払ニ
付橋本伊兵衛罷出ル新田村迄送り庄屋之一札取之

一 堺町小林山城と申社人弟長太夫是迄高尾村国米采女方ニ居申候処
内縁有之ニ付此度引請先村ニ而も願相濟候上願差出之聞届ル○寺證
文自分證文村井江差出ス

一 今晩村山平学へ国屋一条ニ付存寄両端ニ而可申達候罷越候処何之方
も被申達候義有之由ニ而其節宗旨奉行中ニ而も申達之有之引統キ拙
者江も被申聞候国屋儀ニ付急度大御目付中ニ而被申達候と申儀ニ無
之拙者共場合ニ而大年寄共江申渡候意ニ而右之右八兼而養子ニ参當時
其家相続人ニ候得者其家之宗旨可相用儀相決候事ニて然ルを是迄
用来リ候迎真言宗之養家相統之身として日蓮宗可相用旨断出候事
可取上筋も無之且此間相聞候ハ権兵衛娘を帳面之当人ニ出し候ハ
忠八儀ハ「」役介之者ニ成候由此等之儀甚難心得左様致候而町奉
行も宗門奉行も通りものになり大目付之場も通りものに成候と申
ニ而不相濟候旁養子之身にてハ養家之宗旨を可用事ニ候夫共相用ニ

ていつれニても其家相統之者を建可申ニ候及難涉候て其旨申出候
様ニ被申聞候委細奉承知引取宗門奉行中江「」申通し置玉置忠兵
衛呼出シ其旨申渡シ尤先町奉行鈴木喜右衛門先那代井上弥三兵衛
宝曆四戊六月十六日宗旨奉行隅田族磯の平太ニ而申聞之儀ニ付兩人
より其時大御目付村山平八を以御用処へ御窺申上候訳日記に有之
候尤此度忠八断書ハ無取上

十四日 晴 晩少し白雨 無御用場

一 盆中見廻り例之通相濟御届御所江申達ス
一 国屋一条大年寄江申渡候旨大御目付中へ申遣ス
一 金嶋喜代治三舟孫八供に罷出ル

十五日 晴

十六日 晴 晩白雨会所無御出

一 新魚町仁助儀ニ付馬場喜内昨夜相見候茂渡市右衛門ハ田口小助を
以相詫申ニ付追込差免し呉候様申ニ「」及御沙汰差免申渡ス喜内
へ手紙遣ス取計届両所江申達ス

一 西新町山口屋留次郎表家ニ上之町市右衛門と申者相指置候と申市
右衛門も借申度と申ニ付組合へ及相談候処組合不承知ニ而暫相濟不
申此儀ニ付内々ハ留次実子之由似者も有之候ニ付又ハ重キ方之内
各種々内言も相聞江見苦敷出入ニ候間無「」今日大年寄宅ニ而役所
存寄ニ為申度候尤組合共趣意為糺候処右市右衛門儀聊ハ無御座候
得共「」配違ニ罷在候者之儀ニ付先延引致可然と存寄可候由此申
方難心得ニ付以来惣町借屋かしかりニ五人組無請ニ存寄を申ニ而ハ
外之差支ニも可相成候尤無「」申ニ随ひ町家之申分ニ相成候儀

年寄共、大意を取違名字も有之者を相手ニ致し書面ニ認め旁不埒之者申渡させ弥双方和順之上ニ候て願差出し候様ニ申渡候

一西新町山根屋茂兵衛方ニ致逗留候東町大和屋善五郎と申者盆前之儀新魚町古川屋源七と申者〆正錢拾式匁請取「」致候段相聞江右魚町、錢目付差込置候由然ル所今日銀札場ニ西新町年寄申渡し族宿山根屋儀預々右他所者、「」候由訴之候是迄終に無之取計故大年寄も伺出候役所も不得心乍席大御目付中宅ニ斯々と咄し申処承知之候故村瀬八兵衛相扣及対談候処金田方取計不宜様も「」以来ハ致方も可有由と申聞候族宿屋銀札場之嚴密「」見せ候仕方ニ候由一通リ相聞候へ共当役所支配之者ニ付拙者存寄申候

一國屋忠八日蓮宗を放れ福泉寺旦那ニ相成権兵衛ニ改号仕候由申出
一昨夕船頭町吹屋町桶屋町ニ迂踊り致し見物「」ニ往來も止り候はとの体ニ付御徒目付藤田弥八郎年寄へ申「」止メ候由町奉行所兼而之心得触等之事村山平学〆被尋候迂踊之儀其外も町家ニ在方之者も入込又見物人も有之騒敷候得廻り同心共へ差留候儀申付置候触も格例ニ申触候段及返答置早日相改候処無相違趣仍之同心急度申付候尤昨夜之廻リハ石名左五兵衛中山佐内是ハ林田へ廻り候跡之由

十七日 晴 白雨 十八日 晴 御用場

一泰良院様明日九ツ半時御供揃ニ泰安寺江御仏詣田町中通り今町通り例之通御先払町分掃除申付候

一新魚町古川屋源七と申者去ル十三日安房師大和屋善五郎江小間物

代正錢拾式匁遣し候旨追込取計可申旨於御次ニ学殿被仰渡書付御渡被成候則日追込申付候御届御両所申達

十九日 晴

一上紺屋町万屋吉助家売百八拾匁福渡町但馬屋忠右衛門借屋清助買

廿日 晴 廿一日 晴 会所江当病

一配當場城集京都〆帰着先達ニ京都恵那美檢校〆申來座用之儀ニ付城集城山古一上京致候処三人之者「」之上古一ハ不届之筋城集城正勝工事ニ候へ共三老〆使之節不致上京非礼有座法候へ者非ハ等々ニ落双方可為難儀旨嘸ニ申聞候得共後料を受候共是非之捌併其上も「」察シ大久保けんぎやう貫に而和睦いたさせ候すへ配当「」遣ニ座本ハ為致不申此趣願卸ニ致し「」ニ不及濟口相決候三老〆尤メ城集城正ハ別ニ十日遠慮申付候輕キ者とも之事ニ候へハ其地江罷下り我かちに可申かと存工事濟披「」ニ入候旨大久保檢校〆城集江添翰ニ差越候且又端事ニ此度儀ニ付城集城正此後いか様之儀申候共取上申さる様ニと申來ル書翰扣ニ有之及御沙汰置候

一古一ハ先達ニ帰宅案内申出

廿二日 晴 廿三日 晴夜白雨 御用場

廿四日 晴

一当四月断書差出候西今町松本屋五右衛門孫伊助今以行衛不相知最早日数百日余も罷成候ニ付人別離願出ル及御沙汰候

一佐渡守様今五日六日兩日之内江戸御發駕御休泊先達ニ先格ニ差出候処御願未相濟仍之御發駕御延引相成候尤近々之内又々御先触可

被差出候条左様御心得可被成候出羽守様御内野津喜久助松屋逸平

日辺伝吉ハ宿々廻文写ニ今夕玉置忠兵衛ハ差出ス御用懸り渡部惣

馬ハ申遣ス

一 賀州金沢大蓮寺弟子旭山ハ申僧西ハ送り出し東在ハ遣ス

廿五日 晴

一 新魚町古川屋源七昨晚御伺相濟今朝追込差免申渡し候段御所ハ

御届申達ス

一 京都大久保檢校ハ此間之返書遣ス尤町次渡ス

廿六日 晴 会所御出席無之

一 去ル廿四日賀州金沢僧岡村ハ支送り戻し

廿七日 晴

一 中之町ニ盜致し長助着物橋元町甫庵借屋もの之娘長介離別之妻彼

方ニ預置候今日会所ハ取上候

廿八日 晴 御用場

一 去ル十六日之日記之表西新町山口屋留二郎懸り合申渡し濟市郎右

衛門ハも在分人別離願町分ハも人別入願聞届ル

廿九日 晴

八月朔日 晴

御用番小須賀一学殿

月番 渡部惣馬

一 恒例之通八朔登城諸士出仕御札有之太田舍人大御目付役被仰付候

二日 晴 三日 晴 御用場

四日 晴

一 一かち町藤九郎悴義右衛門三十四歳七月十八日与風罷出行衛不相知

候旨届書差出ス

一 伏見町辻屋六郎右衛門跡役小桜屋半兵衛ハ申付ル

五日 晴

一 馬場熊治丁場ニ砲術大御目付中ハ為知来大年寄ハ申遣ス

一 当六月廿九日勝部村ハ直訴之者三人牢番預に申付置候所今日呼出

し勝部村ハ遣ス訳郡代日記に有之候

六日 晴

一 寺田治助登坂届

七日 雨 会所御出席無之

一 町方宗旨改帳面宗門奉行中役所ハ相廻ス

八日 曇 九日 曇天夜雨 御用場

一 船頭町土橋損し申出る大御目付所ハ差出ス

一 御藏元共ハ鍛冶場廣瀬両橋掛候儀当年切之儀被仰候旨御月番一学

殿被仰渡候則日申渡勿論委細之義者御勘定所ハ可窺之旨申含候大

年寄宅ニ申渡ス

十日 晴

一 橋元町大工喜太夫と申者之悴仁三郎儀袋町南之方土手ハ付何者之

所持とも不知耳後ハ喉ハかけ切付られ今夕五ツ時頃之由嚔吸も通

ひ候得共直に相果候体橋本町林田町之年寄相届出申候旨今夕四ツ

時分大年寄孫右衛門申聞早速渡部惣馬ハ相届追々同心共かけ付候ニ付右場所ハに押々為被出張候

尤林田町橋本町材木町他參差留候追々軒別ニ尋申付同心共致吟味
候半御用番一学殿江拙者儀ハ右御届ニ參候処而御勘定奉行村田孫
兵衛相見江殺害致候者ハ坊主遠藤畏喉之由粗相聞江追々「惣馬
も被參候而弥畏喉而候旨噂有之ニ付切り手相知候故町分取計相ゆ
るめ可申旨申達し御宅を罷出切り手相知候上ハメリ之ため殊更御
家人故大工喜太夫ハ町内預組合之番申付候処又候大御目付中ハ
同事ニ申渡し候得共最早申付候段申達ス

一疵見分之儀ハ同心罷出候ニ付及間敷御従目付目付組差出し大年寄
町年寄五人組而可濟由惣馬被申聞候ニ付御家人手下而相果候死骸
故此段御尤ニ存尚又同心共所存相尋候処町家之者故前格之通見分
仕候儀ニ存候得共右慮外ニ付相留め候死骸ニ候ヘハ疵を以不審ニ
ハ不及候喧嘩ニてハなく畏喉申趣ニ相違ハ無之道理ニてと善詰り
各同意致候ニ付平太兵衛ヘも通用致候処及承託候而併見分之砌町
分メリ之ため同心兩人大年寄町年寄
組合死骸取扱ハ請人右之通決シ差置候

十一日 晴

一夜前之趣見分差出仕方大御目付中へ申達候従是其通り可申達候為
「旨ニ申聞候大年寄死骸又疵見分ニ罷出候儀是迄例無之候
得とも右ニ付町奉行所ハ出張由見分之内メリニ差出候

一死骸見分今日五ツ時御従目付中沢曾右衛門目付組上田両助此方ハ
申合せ之通り相詰ル同心中山市左衛門神田権兵衛大年寄齋藤孫右
衛門諸吟味いせ屋七右衛門町内年寄五人組罷出無滞濟引取追付檢
使相濟候間仁三郎死骸勝手仕第引取候故大御目付中ハ申来り申渡
ス

一似せ札師左源治大切ニ相成者申達ス追付相果候段「五助届今日

九ツ半時見分中沢曾右衛門目付組五郎治同心川端又六藤森権六
死骸ハ先年啼「源藏似せ札例ニ任せ並之通ニ金田取捨申付候

一今夕四時ニも候や大年寄孫右衛門忠兵衛相見申聞候橋本町大工喜
太夫所持之趣右悴仁三郎慮外ニ付打捨被成候迎も早速私ハ御届被
成候得キ御家人様之儀一言之申分無御座候いかに町人体之悴ニ候
迎犬柄同事ニ慰殺に被成方心外ニ奉存候死骸ハ上ハ御渡し被成ニ
付受取申候得共此事御吟味被成被下候と申義被仰聞無御座内ハ葬
候事て塩漬ニ仕置候而も得不仕候尤書付ニても申度候被仰立も
無御座候得キ同年寄中組合中へ存寄も有之御恨可申所存御座候旨
今夕はし本町年寄申出候由うか、ひ申候得共此段甚聞届かたくし
かしなから葬不致事ニかこ付悴ニ殺シ「申立候儀不届至極ニ
付先渡部惣馬江罷越しかのよし及内分置候

十二日 晴 会所御出席無之

一昨夜一通り大御目付中へ申達置儀ニ付存寄書付致シ惣馬江鞠負殿
ニ御寄合之所江参込及面談候御評義之中へ申上候ハ憚入候得共喜
太夫申儀ニ候御物不被急度葬仕候様申付度旨趣意相調差出し候処
被達御聴候上今夕橋本町年寄組合会所江呼出シ平太兵衛ハ権六市
左衛門喜代治扣大年寄孫右衛門忠兵衛諸吟味長右衛門出合由段々
利害を解喜太夫愁揚之上ニハ候得共一々上江対し不届之申方仍之
右葬ハ急度申付不承引候ヘハ組合共江葬申付候旨申渡し直ニ三人
之同心差向喜太夫江年寄組合先申聞候処甚すなをに請之則葬之用
意致候ヘ共旦那寺栄巖寺證文間ニ合不申無抛及延引候段年寄共ハ
組合一所に書付を取同心共今晩引取らせ候役所申渡し大意一件扣

有之

十三日 晴

一仁三郎死骸榮巖寺江葬届申出則兩御方へ申達ス

十四日 晴 御用場

一御年貢米町在ニて切手替或外私致候儀兼而御停止之處弥可相守之旨例之通今日御書付被成御渡下方江申渡ス

一宮川仮橋上に懸り候故通路袋町へ大半ニ相成り候而橋元町通り難儀仕候旨書付差出し候段申上書付御取上置候得共難被及御評儀今日御下ケ被成候

十五日 晴晚白雨

一今日一学殿江御用向有之候間七半時可罷出間惣馬ハ申来罷越候処村上清大夫遠藤十助取計村田孫兵衛遠藤畏喉拙者儀橋本町大工喜太夫取計申上由各渡部惣馬立会被仰渡候右十助畏喉兩人且又長沢清右衛門岡喜十郎青木辰弥此三人ハ悻弟右畏喉同道之処幼年故心付薄仕方ニ付親々江被仰渡候由各五人ともニ今夕取計有之候由

十六日 晴 会所被御出席

一御通行ニ付宿馬廿五疋人足式拾五人此人足ハ廿人ト今日惣馬ハ被申聞候

一來ル十八日例之場所服部弥左衛門炮術有之候惣馬ハ被申聞候

十七日 晴

一橋本町取計之当月再応申上今日被仰渡候ニ付暮過時会所ニ申渡ス
橋本町 大工喜太夫へ

其方悻弥三郎去ル十日之夕遠藤畏喉へ言過無礼致難見遁相捨候兼而申渡相守候て町家之者考「」不躰無之様可相慎候処無

其儀畢竟親共不慎不念「」上を不恐御家人へ向件之仕義不届至極之

一右御見届相濟無滞死骸相渡遣し候上ハ早速取置可致之処彼義無体ニ殺害ニ逢候存念を合御「」人江懸り合候申分相聞候へ共不及貧着役所江隱便を加年寄併五人組江利害申聞俸候様ニ申付之其方儀悻儀心底取札候半候処 上を申慎し候所存不届之至候仍之急度可申付候へ共右申渡候趣甚恐入「」相聞申ニ付令用捨併葬及滞難渋申之候不届為「」戸メ申付候相慎可罷在之

町内年寄

五人組

右一件ニ付兼而相触候趣当々疎に致右体之儀出来候事不届不念此以後入念友吟味致輕*御ふち人たりとも無礼なき様可相慎候旨急度叱り文段略之万端相 別に有之

右ニ付立会平太兵衛又六左五兵衛又六左五兵衛伝内孫右衛門孫左衛門長右衛門各罷出ル

一筋違ふきハ御作支早ハ出る仕方例之通大年寄町棟梁江申渡し夫ハ町大工江申渡し「」人老人「」ハ出し御作事江参ふきを請取会所ニ扣置申渡相濟「」町内々ニ付引取候跡江左五兵衛伝内大工召連参候而筋違為打せ候貫ハ有次第取計候由相濟御届兩所江申達ス

一二丁目「」屋佐右衛門八木常右衛門と改号三木甚左衛門内抱ニ罷町内人別除願書出ス

十八日 晴

一遠藤畏喉へ被仰渡之趣父十助*青木辰弥弟岡茂十郎長沢清右衛門

一遠藤畏喉へ被仰渡之趣父十助*青木辰弥弟岡茂十郎長沢清右衛門

悴共儀ニ付被仰渡之趣渡部惣馬ハ懸リ合ニ付被見を寫置候

一 佐渡守様勝間田御泊之節何時御立被成候と申義承年々帰候様人遣し可申旨渡部惣馬申渡今日孫右衛紋へ申渡ス前例無之候得共みぎ之通取計候

一 斎藤孫右衛門儀兼而諸々ハ使者宿心懸相勤候ニ付右ニ付而ハ修復等ニも入用可有之上ハ急度被下候と申而ハ無之役所之場相而取計可遣候米五俵被下候趣一学殿被仰渡候則日申渡ス惣馬江も申達ス尤御札不及廻勤

十九日 晴

一 勝山築馬源右衛門渡部五郎左衛門飛札到来十月米平均相場之儀追而為知呉候様申来ル則返書相渡ス

一 佐渡守様江府五日御出駕被成候処大井川出水嶋田江御滞留ニ付御泊休相遣ニ付御議定候江無来廿五日相成候旨御茶屋江廻状到来注進申出候夫々為相知候

一 三平郡代而院庄江罷出候ニ付御勘定奉行村田孫兵衛江奉行仮役而罷出而供廻り例之通先年平野丹下高焼灯為持候而罷出得共前後例無之ニ付此度ハ無之通申該置候江事御通行江別に記之

廿日 雨

一 銀之助様七ツ時供揃二宮江被為入西今町通リ御道筋之者隅田族ハ申来

廿一日 晴 会所御出席

廿二日 晴

一 御通行ニ付 銀之助様町会所へ御忍ヒ被成御出候ニ付場所存寄

惣馬ハ聞合有之候町内年寄大年寄申聞せ置関十治御作事立合可然

取計尤町近辺外往来も平生体ニ致し御道筋ハ横町小性町分ハ「江御堀江為這入草取候様ニ可被仰聞候旨惣馬江」用申達ス
一 宮川大橋仮橋之下河原之間ハ橋本町江取形付候様是ハ先格而掃除ハいづれハ致と「江建ハ無之候尤生立候草迄を拔取らせ候と申儀ハ無之候

一 佐渡守様御先荷物宮尾野合ニて田中之中江おと江宰領相改候処御用相立不申旨見請一宿便江役人と宛ニて可州成せ吉太夫富谷幾ハ呼ニ「江町馬持六右衛門尾高屋六兵衛馬肝煎伝次坪井町江六右衛門と歌州へ參相極メ肝煎伝次ハ帰り申江兩人新庄村本陣種々宰領託を申遣候二部ニて申所断済帰リ候段昨日相届出候尤御荷物別而大切之物之相聞候ニ付御沙汰申置候

廿三日 晴 御用場

一 町会所へ六ツ時御供揃御忍被成候御道筋ハ此母前夫ハ妙願寺通り新魚町小性町之
一 「江六日廿七日五丁八丁之場炮術有之候儀惣馬被申聞大年寄へ為知

廿四日 曇

一 橋本町喜大夫筋違御通行先故普請困申付ル
一 大御目付所ハ廻文出る
御文段郡代所日記ニ有之故不記之
右同心組并三軒屋牢屋番各触出ス

廿五日 晴

一 佐渡守様今朝七ツ半之御供揃二勝間田御出駕被成三昨夜町分四飛脚
帰五り相替 御城下御通行四時分

一 大番所前南一 安藤鞠負殿二 山田理喜藏三 渡部惣馬四

清水多橋

一 風廻り一 古市主馬二

一 村田孫兵衛一 同心組二 藤森権六三 三船孫四 栄内五

一 中山市左衛門室井政次一 神田権兵衛二

一 馬一 川端又六二 金嶋喜代治三

一 「一」之儀二 東新町三升形四へ御懸り被成候時分五
被成候旨六一番之注進中之町曲り七」リ西新町御懸り被成候

時分中之町一 御懸り被成候二 二番注進三」右孫兵衛出張り之場所

ハ林田町例之場所破損家一此節繕相成無扱中之町北横町貫拔東際

ニ而「一」見申上候御目録金式百疋出る

一 大年寄三人之内 蔵合孫左衛門一 孫右衛門と諸事引請取計二
月番三ニ而諸四孫右衛門五合六

斎藤孫右衛門一 取計尤御使番宿相動候二

玉置忠兵衛一是ハ先年二御本陣相動候三付在宿四」一申付御供方二披

露有之院庄一目録金式百疋二」尤先達三出羽守様御頼四付御宿仕

候一付今般御入部被成二」御衆議被下置候

一 いせ屋長右衛門一是ハ大年寄受り二村田孫兵衛出張之場江詰三
見量万端取計四

右之通大概相記一先格之通別帳二留置三」孫兵衛引取御用番中

江御届大御目付中一手紙二」

廿六日 晴 会所無 廿七日 晴

一 宗門帳付紙一相廻る二

一 今日斎藤孫右衛門於宅橋本町一件後メリ之為申一」町々年寄不殘

呼集メ立会一申渡し尤一統に触書差出し候一件之別書に有之候不
記之

廿八日 雨 御用場

一 坪井町音羽屋和助此間御用御葉一」之儀二付三」有之御用達四被取

上候由今日大御目付所一」同人右二付追込申付候様仍之今夕申

渡一

廿九日 晴

一 一かち場往来止る追付明申達一

一 明晦日佐々木紋太夫例之場所炮術申来り町一為二」

卅日 晴

一 遠藤長喉今日御免被成候由一件以来差扣一」遠藤十助同道二案内

有之由是ハ支配方之者一懸り候故と相心二候為心得記三」

九月一日 晴

会所御出 御用番小須賀一学殿
月番 太田舍人

今日理喜藏殿兵庫殿会所一初二御出被成詰所御案内申上三三木甚

左衛門一」伊平二」村田孫兵衛出勤無之其段申上三

一 一学殿一喜太夫差免し之儀二付存寄候ハ、伺候様被仰聞候

一 美濃人町正木甚右衛門家売五百目元魚町豆腐屋一」売渡候

二日 晴

一 堺町作人金藏売家式百目同町作人勤兵衛買

三日 晴

来ル九日御用場無之 御用場

四日 晴

一橋元町大工喜太夫戸メ差免申渡^ス立合石名平太兵衛藤森権六吉井
栄内大年寄藏合孫左衛門斎藤孫右衛門諸吟味戸田市郎左衛門相詰

喜太夫^江申渡

先達^而其方悴仁三郎死骸葬之義及「^一」彼是難洪申之候不屈ニ付
戸メ申付置候得共以御慈悲^ヲ戸メ差免し候此以後諸事心得違無
之様可相慎候

右^者一昨日一学殿^江御伺申上候処昨日於御次大御目付太田舎人
立会被仰渡戸メ差免候様尤日敷之儀^ハ考之上取計候様被仰渡候則
日御宅へ参御伺申上何とそ明日御差免申渡度段申上御聞濟ニ付件
之通今日取計候則御所^江御届申達^ス

五日 雨

六日 晴

七日 晴

会所無御出

一音羽屋和助追込差免申渡候様渡部惣馬^ハ申来取計御届申達^ス

八日 晴

一橋元町大工喜太夫此度段々町内世話被成候へ共元貧窮ニ御座候故
御当地渡世差詰難儀仕候ニ付家財売払支度いつ方^江も罷立申度人
別離願出落着之処迷惑いたし候得共右身分候へ^ハ四人と申者ニ候
間親類を相頼引請申者何方ニも無御座候夫故無執家内「^一」仕当日
之働仕候心当御座候間右御断書仕差上候此外私身分ニ申上候儀^ハ
無御座由申候ニ付私^ハ御断書差上候由年寄山かた屋喜八^ハ書付差
出^ス

此義無余儀候へ共行先宛度も無之^而人別離聞届も例無之処諸事
之申出ニ候段難令評義併一件訳有之候喜太夫ニ候間右之趣大御

目付中へ及噂置候「^一」以上之不所存致事も無覚束候ニ付乍「^一」
御用番中^江為御咄申上置候

九日 晴

一宮川いさい町前石垣下ニ行倒者相煩<sup>備前和氣郡日笠下村一ヶヶ寺参候
長家宗旨往来所持</sup>
由野伏同前ニ候得共右体之者取計方も無之候ニ付及相談候旨大御
目付太田舎人被申聞而役「^一」先格も候哉と被尋候処是迄<sup>右場所ハ大目
付かまひ之場</sup>
所之^{大目付中構}変死之者^{場所ニテ}有之候得共煩候者之例覚書付も無御座候所
ニ取捨成候^ハ非人共^江申付候往来を存煩候^而十四五日も御座候場
所^江飛脚遣候儀^{町在之御條目之}ニ付被仰聞候得^者飛脚書面^ハ大年寄
共^江申付候然^ハ日雇御やとひ被成候^而抱人被仰付候儀可然段申談
候へ^ハ一通り承知有之候処又^ハ呼^ニ参同役惣馬被申由^而先格不存候
て是ハ古格ニテ幾^{町奉行所引請之段}町奉行所引請<sup>場所江御從目付
年も有之事之由</sup>受取計候様^ニ申候故古格之由御役筋^ハ之仰候^者否^ハ無御座候得
共両役中古輩之面留書^ニも不相見候得「^一」私之無案内^も難申何分
今度^ニ限り同様^ニも取計見可申段申之同心藤森権六へ申度候大年
寄^江も為知置

十日 晴

一同心権六遣し候処中々立退休無之<sup>いか様ニ取計追立て候ても其元
不念ニハ不相成よし答へ</sup>付野
伏候故^{往來杯国所委細}知候而も野伏^ハ極^へき^ニ心得<sup>非人頭共三人召連参候^而近町^ハ庭
など取寄横山分河原^江当分差置^由然ル所最早八出村清右衛門不承知^ニ而両
御構口^ニ被差置候もの村方權^ニ被差置候
事不承知^{候段訴る}尤右之者野伏とか又ハ他国^江尋^ニ遣候か落居被付候上非
人小屋^江相渡舎人^江申置候</sup>

一竹垣庄藏殿明日通行ニ付町分掃除同心先<sup>藤森
川端</sup>申渡御用番中へ及

御沙汰大御目付中^六御貸人馬之儀郡代^二申達^ス

十一日 晴

一竹垣庄藏殿通行

一昨日大隅宮^江同心差出候

十二日 晴 会所無御出席

一十ヶ寺行倒今朝相果候由申出其段太田舍人^江申達御用番中^江も及

御沙汰尚又舍人^江趣意を申死骸^ハ夜に入桶^ニ認横山村庄屋組頭林

田町年寄兩人格外^ニ申付備前日笠下村庄屋太左衛門^ハ飛脚為立有

無之返答次第取捨か又ハ葬り兩様^ニ相成候様取計委細^者藤森権六

為吞込役所之昨吞^ニ申付候

十三日 晴

一竹垣庄藏殿小中原^ハ着坂^コへ津山宮脇町^ニ錦織村^ハ參候人馬繼替

用兼馬人足^{三人斗}直に成道寺角^ニ同心先^ニ相止る尤先格^ニ付御家中

屋敷之間同心共引請候様^ニ大御目付中被申聞此段此方^ニても先例

相覚居申椿高下高石垣^ハ川瀬官兵衛前夫^ハ元魚町三丁目^江掛^リ

致案内候御家中通筋掃除被仰付候同心組^{石名左五兵衛 中山伝内}相濟御届申達

十四日 晴 御用場

一此間行倒者之儀^ニ付入用之払出之儀最寄之場所^ハ町^ニ出人人用等

も引請可申事かと大御目付中^ハも被申聞候得共此段難申付^一候

付存寄も申達し以來大御目付中御構場所^ニ候得^者出人医師番人

等之申付^ハ町奉行取計之相果候得^者先格之通野伏^ニ極候得^者非人

申付又^ハ平人に候得^者町方^ニて同用に申付病人^ハ養生死人^ハ陰

「一」^ニても其段申立候様可仕旨今日大御目付所^ニ太田舍人月番^ニ
○同役揃^ニ相定^メ候於会所平太兵衛^江も具申達^ス

一去^ハ八日之書面^ニ橋本町喜太夫儀不束之願又候昨日年寄共罷出申

候趣諸道具悉売私妻子共も近々罷出様子喜太夫のミ右之願御聞届

被成候哉又^ハ相濟不申哉困窮^一詰候^ニ付有無之儀伺呉候様^ニ申

候旨尤有無^ニ付覚^一仕候様^ニ相聞候者孫左衛門申出候^ニ付段々

難渋不届之申方欠落致候か又為忤発心致候^而も諸人之憐愍を以身

上可立我儘之所存且又定法有之儀^ニ付追払^ニても被仰付候義と申

上候処何分申出候義^ニ付右願行先宛も無之趣^ニ付宛も有之候ハ、

格別左も無之候^ハ、不及貧着候旨申渡之可然^ニ思召^ニ付則日孫右

衛門其段申渡候

十五日 晴 十六日 雨 会所無御出

一昨日之趣申渡候処今日又候年寄共同候^ハ喜太夫儀家を明渡し候旨

申候由重て不束^ニ候何方^江參候哉又何れ之町^ハ引越候哉と申聞候

へ^ハ如何存替候哉百日之往来^ニ西国可仕旨相願候旨申出候故大御

目付中^江も談候処申上候^而可然^ニ付御内達^ニ及候^ハ其通^ニ宜き

哉と御差詰被成事不容易猶又大年寄共^ハ差結候様申渡^ス

十七日 晴

一喜太夫年寄共^ハ差込候^者右西国之儀申出候事きやすく被仰付候事

有之間敷候様子^ニ先方宛も無之人別離を相願ひ其儀も御定法^ニ

背き候上又候家を明可申段申上之を輕め申候道理甚心得違と存候

旨段々利害申聞せ候^ハ、殊外及迷惑此度之存念^ハ忤菩提之為を存

発心^ニて三十三所順礼御願申候問是迄之不調法恐入奉存候何卒別

紙之通被仰付可被下様断書出し候大御目付中へ談候処可然ニ存候
大御目付被搔取御沙汰被下候様相頼置候

一 倒死之者諸入用八拾三匁三分本伝寺へ葬^{年寄庄屋}申合右寺へ申談 一札ハ庄屋

ハ差出之無滞相濟右参候儀三郎申者葬之仕方丁寧成事見届於後
日申分無御座旨一札差置今朝罷掃之尤寺社方^江も表に出候事ニ付
最初ハ之趣三平ハ葬之引合申談置候

十八日 晴 御用場

一 備前日笠村林蔵倒死取置之訳及御沙汰候

一 喜太夫西国願礼ニ罷出候願ニ付差詰り受書等及御伺之上書面御受
取被成候

十九日 晴

一 今日徳守宮祭礼ニ付警固部屋^江弁当^{重一組}無滞相濟大御目付中^江
相届^ル

一 竹垣庄蔵殿ハ先日御使者被遣候為御返礼来書右御返書御奏者番中
ハ差越候様御用番中申来候^而状箱伊達隼人ハ相廻り宿不相知候
ニ付取計相渡候様被申越則刻孫左衛門方へ為指遣候

廿日 晴 廿一日 晴 会所御出席有之

一 喜太夫願書先御下^ハ被成候先般之不束申候由今般之願トハ事を分
与申聴候得共外察^{ニテ}ハ一体に見^江候右一件之儀江戸表^江も被仰
遣出羽守様^江も御伺も御座候儀尤喜太夫盆究之上^ハ候得共間もな
き場合^ニ候得^者今一応趣意をも「」可申出之旨被仰聞候

一 明日銀之助様杉山^江御出被成候旨申来^リ為知

廿二日 晴 廿三日 晴 御用場

一 喜太夫西国願大御目付中^江も如何被成可被候哉御聞合申候処右願

之儀被仰付候儀可然ニ付太田舎人ハ被申達候へ^者此間之三平^江被
仰聞候趣意を申候様ニとの事ニテハ無之思慮致候様思召^而何分先
^者貢不申候儀「」大御目付中も被存候間左様ニ心得可申旨其分ニ
承置候尤思慮致かたも無御座段ハ申上置候

一 今日七ツ過頃上こんや町灰屋善右衛門借屋長八ト申独身者留主之
内^而藁ふすばり候由早速佐五兵衛罷越見届候処輕^キ事^而則左五兵
衛を太田舎人遣し一通り申達置候

一 大坂広瀬義平近藤伊左衛門ハ来書大坂新斎橋四丁目木挽町中之丁
吉文字屋市兵衛と申者ハ其表今町^{是ハ}書違^{本屋七郎兵衛方}江書物代滞
銀式貫四拾八匁八分段々及催促候へ共不埒ニ付御番所^江も訴出候

積り候へ共何とそ右之通承届御国元御奉行被仰合銀子相濟候様被
仰付下候ハ難有奉存候左様難成義ニ御座「」不得止事訴出申義御
座候御屋敷^江罷出委細申聞願書致持参ニ付写書通相廻し申由先年
も鈴木氏町奉行之節銭屋七郎右衛門ハ願書取扱^而相濟候儀も書面
有之外略之書翰扣^ニ有之候

廿四日 雨

一 大坂吉文字屋書付を以坪井町本屋七郎兵衛^江濱口之儀申わたす
一新魚町なた屋七郎兵衛家売三百目同町かと屋理助^江
一 伏見町小田屋伊平治借屋紙屋伝吉久世金沢屋ハ三ヶ年奉公

廿五日 曇

一 大工喜太夫西国願之通可被仰付旨一学殿於御宅被仰渡候併思召に
不相叶儀申上候速可被仰付様無御座ニ付大御目付中^江及御尊置候

廿六日 晴 会書無御出

一喜太夫西国願之儀大御目付太田舎人^江も町奉行被仰渡^一御沙汰被成候仍之右今日申渡候尤本手形年寄共之往来手形相渡書面ニ申付候

一新魚町塩田屋後家之娘徳と申女と出入之儀右塩田屋市左衛門之讓^リ證文之儀新魚町出か、屋治介清水友三之受取置候処後家之相戻し呉候様ニ申之娘徳も相渡し呉候様ニ申之母むすめ之出入ニ相成双方書面^ニ出雲屋治助以上三通今日差出す書面扣^ニ有之

廿七日 晴

一喜太夫廻国願申渡候旨御届申達^ス

廿八日 晴 御用場

一目明七右衛門儀明日可申付旨目付兩人^江申渡す尤是迄仮役之本役ニ申付候

廿九日 晴 晦日 雨

一昨夜小島屋米吉方^江青蓮院之節御家来之由福田主鈴和田村右衛門

^ニ役下岩川要人と申者止宿致し御領内^ニ先払も不出掃除之体も無之甚疎略之事ニ候此間先触之触之外に燈灯杯出し可申と何角事六ヶ敷く賃錢之外人を差出し申事不相成と申候へ共無聞入仍之孫左衛門罷越致面談候処色々申候へ共御大名様方御通行^一格別御当

人様御旅行^ニも候へ^者段々之被仰出も可有御座候得共日光御門主様^ニても是迄御家来中御通之節右之御取計無御座候御賃人足^ハい

か様^ニも相成申候旨事をわけ申談候^一しから、書付を致し候様之一通り之書付認候へ^者無滯候右要人致出立候粗之様噂申出。今

日粗及御沙汰置候

十月一日 晴 会所無御出

御用番小須賀一学殿
月番 村山平学

二日 晴

一去月廿九日小島屋止宿之者^江孫左衛門調出し候書面小島屋多吉西在迄差添罷越候処世話之よし一札之上帰候^而土産ニ致し候様ニ申右之書面致返脚候由

一広瀬義平近藤伊左衛門^江吉文字屋之本屋七郎兵衛へ懸り滞銀之儀濟口申付候段一通り之返答申遣^ス

三日 晴 御用場

一川辺村庵主一忍之来歳七日別時之建札両橋へ建度大年寄ともへ申出候得共見合候様申含^メ置候

四日 晴 五日 曇

一林田中之町宝寿院前に行倒候者此間町之心を付候処今朝相果候元来其町に住居候者近来之剃髮致^シ住所も無之馴染町之儀故之趣ニ候由市助と申^而甥^ハ新魚町に借屋住長右衛門と申候由是又独身も

の引取候儀も得不致候得共右市助を非人之手とも難懸旨申彼是勝手事^也申^ニ付急度中之町へ参引請取片付致候様大年寄共場相^ニて申渡し候由相届出。

一西川役所之当月米平均直段之儀被知呉候様申来り候

六日 晴

一久世川村三郎治本紺屋右衛門今来書御廻米粗川下ニ付小桁御番所
江 手代中印鑑差越相廻ス且御蔵元之儀今津屋伊右衛門江 申付候間
火難等有之節ニ添呉候様尚又御年貢米石代直段相用候当十月十五
日今廿九日迄上中下米相場書差越呉候様申来ル十一月二日三日迄
一院庄村喜右衛門義兵衛神戸村茂右衛門平蔵儀御所務筋勤方不宜候
ニ 付役義取上入牢申付候様郡代所江 火被仰渡候上同心中山官左衛
門と橋元伊兵衛差添取計御届申達ス

七日 晴 会所無御出席 八日 晴

一寺田伝助当月三日於大坂病死致候由申出ル御届申達ス

九日 晴 御用場

一相手方去ル四日安岡町村永屋甚右衛門と申者悴甚吉十三歳二宮原畑へ参

候処兄兵吉十六歳茂参り右畑並ニ今町鳥羽屋和助畑有之同人悴源

五郎并甥五郎参候而此兩人甚吉を嘲を兄兵吉堪忍心外ニ為承兼打

擲可致と申候へ共甚吉ハ其分ニ致置候処兵吉不致堪忍立向ひ候所

源次郎砂を打かけ候故兵吉突倒し候而以前之処へ帰り候源五郎ハ

脇ニて見物致し候而後源次郎連立帰り鳥羽屋下人ハ土貢無之罷在

候由此外兄申候親甚右衛門申候及有之書面別に有之玉置忠兵衛方

二而同六日ニ尋候趣之

一新松方町鳥羽屋和助甥源次郎与申者十二三歳二宮原へ罷越候処村永屋甚右

衛門悴甚吉口論之儀甚吉兄兵吉罷出さる棒を持擲り候へ共手向も

不致逃退申候所跡ハ追かけ足下ニ踏へ理無尺ニ打擲ニ逢漸連帰り

候所惣身痛片腕大ニはれ及難儀丁内ハ西田屋勘右衛門と申もの遣

し相尋候処親甚右衛門今日之義申分有之候ハ、存寄次第ニ可致旨

我ま、申方年長居申兵吉右躰ニ源次郎を打擲致其上甚右衛門理不
尽儀申之無拗訴訟ニ及候吟味呉候様申出る渡部甫庵療治勿論様体
聞書大年寄より出ス

右両様今日及御沙汰置取捌筋追而御伺申上候旨大御目付村山平
学江も申達置候

一京町種屋平平当戊八十壹歳ニ罷成久々老病細工難仕親類も無之近
来組合町内之助力而助命候処当度以来米高直ニ付一統困窮仕丁内

江 も度々申尽殊更衰ニ及難儀至極ニ付小油屋平治郎家守紅屋次右
衛門初組合共願差出ス

此段先日以来及御沙汰候所老厄之者無拗願ニ付三俵余町奉行切

ニ取計候様ニ被仰渡候勿論以来共ニケ様之類取計置候而御沙汰

申上候様大御目付村山平学申聞候

一來ル十一月万人講日取十五日ニ御聞届被成申渡ス

十日 雨 十一日 晴

一川端又六藤森権六廻り而鳥羽屋源次郎様子為見分差遣甫庵申趣痛

も強く袋打之体はれもの多く候由相届ル

十二日 晴 会所無御出席

一京町円平江 三俵被下候義御勘定奉行中へ聞合相済候證文相廻ス

十三日 晴

一川下裏印通ひ證文ニ宛所月日記し候様ニ申渡ス

十四日 晴 御用場

一追廻し而鳥屋佐助横山村ハ願花相撲被仰付候町分江も出則申渡ス

一鳥羽屋一件ニ付安岡町村永屋兵吉儀再応之尋申付候処委細を不申

突倒し候と斗申之鳥羽屋申出置様体ニ致相違弥吟味懸り手錠申付之川端又六藤森権六廻り申付候

一 大坂吉文字屋江本屋七郎兵衛へ懸り再応願書之本書相廻り文段写し置七郎兵衛江申渡候様大年寄江申渡之尤広瀬義平近藤伊左衛門江其段添書来ル

一 来ル十九日十一月十五日万人講ニ付例之御停止触出ル

一 御家中之面々相凶火之儀ニ付御触出ル郡代所日記ニ有之

十五日 雨 十六日 会所無御出席之

一 銀之助様四半時御供揃ニ河辺庵へ御出被成例之取計

一 祇園三位江来書及返答書翰扣ニ有之尤例歳御礼ハ相納扇子指上候

得共是者孫左衛門江為及断いづもの通り札差出し候計ニ来歳ハ

「」翰不参候様ニと孫左衛門江申含候

一本屋七郎兵衛江大坂江之指引書付差出し候ニ付尚又両所江返書遣

ス書翰扣に有之候

十七日 晴 十八日 晴 御用場

一 万人講大鼓之事及御沙汰

○豆腐店三文に相成候儀及御沙汰候
一 林田江潜岩文太と申者大隅社地ニ相撲地取興行仕度願出在中同様

ニ相濟

一 配当場城集方ニて町家之子共を集メ武家之格名役名を呼立身不座

之事之宜ニ褒美又ハ咎メを申付出合事之例をまね武芸まねをし何

之何某と家名を付町家不相成遊ひ之手引致候由近来相聞江候ニ

付今日御伺申上城集へ申渡之趣其方ニ家業「」之儀ニ格別不益之

遊子供集候儀粗相聞候急度相止候様申渡ス城正も指添江且右ニ付

町内年寄ともへハ右之武家格役を以戲遊ひ候儀急度申渡ス尤外町年寄江演說致候様と申含メ候

十九日 晴

一 今日万人講ニ付出役大沢三平江口庄左衛門其外例之通り無滞相濟

御両所江御届申達ス寄札三ツ万三千七百九十四枚之六拾八メ九百

七拾九内式拾メ六百九十三匁残四十八メ式百七十九匁三匁引五十番割

式メ七百五十八匁八分十匁式メ式メ四百八十式匁九分式り同二十番 三番

メ式百七拾六匁四分四十番式メ四百八十式匁九分式り五十番五メ五百十七

匁六分同番五百五十匁匁七分五り

廿日 晴 廿一日 晴 会所御出席有之

一 河辺行念庵當時ハ一恩来亥二月廿七日江一七日別時之建札之儀大

年寄江頼来候へ共いづれ之未庵ニても無之外例ニも可相成と存不

聞候尤去ル三日頃忠兵衛江申含メ候

一 大隅宮へ地取相撲ニ付同心見廻りニ罷出候

廿二日 晴 廿三日 晴 御用場

一 堺町小島屋多吉ハ陰陽師宮井宮内と申者宿仕度願出候へ共此類之

者ハ為指益も難成懸ニ右体職業之面々害ニも可成事と大御目付所

江及噂置願書無取上

一 稻荷之辺枯木倒候旨番人断出大御目付所江申達置

一 東新町野田屋礮右衛門他所「」細工手伝引請申度旨願差出候得

共兼ニ兩人「」屋之儀御用向も相勤来候儀礮右衛門儀ニも是迄

牢屋御用ニも罷出以来御用向も相勤出精も致候ハ、其節ニ至り

他所もの手伝も起ことより可申付候旨申致し願文取上候

一 是迄兩人わら屋^江右之趣為申聞以來、礮右衛門儀も中間之事ニ候へ、御用向等有之節、御作事被申聞候て召連可出候旨申渡^ス

廿四日 晴 廿五日 晴 廿六日 晴 会所御出席

廿七日 晴 廿八日 晴 御用場

一 追廻し花相撲今日初め例之通同心罷出之郡代下代も例之通罷出^ル

一 三軒家番人申出候、先代測之上笹之内ニ明^キ俵五俵斗ニなりへ盆六人分ころ木綿壱升斗捨り置候由取置候由注進申出及御沙汰候

廿九日 小雨有

一 配当場城秀儀城正申出書付奥書、城古書印^ニ城正月番之節一度も罷出用事有之候^而も此方分罷こし^一不埒仕仲間用滞り彼^レ月番之節皆々参候^而も法用籠末ニ仕私用斗ニ懸り各とやかに申私へ相断候得共色々延し置申候此度何れも急度申出候ニ付此段申出候去^ル四月上京仕候節も道中京都逗留之内も万事我儘之儀候へ共其ま、差置申候此度仲間申出ニ付申上候旨書面ニ付及御沙汰則日配当場役之儀、其訳を不顕役所存寄ニ付差上候段申渡させ候

十一月朔日 曇

御用番小須賀一学殿

月番 渡部惣馬

一 例年之通御祝儀頂戴御用席^江罷出候

一 久世御廻米明二日分積出^シ

二日 晴

一 御対面所相撲被仰付御用席初日参候面々^江大御目付中分御噂有之今日罷出、尤鳥屋佐助分も罷出候儀届申出^ル

一 追廻相撲二日之加日^{横山村町分}伺出及御沙汰申渡^ス

一 相場付^{久世高田}飛脚泰清治西川^江魚山平藏各明日罷越

一 野井乃分飛脚来相場付今日相渡^ス

三日 晴 御用場

一 戸田市郎左衛門^江他国請酒株一ツ差免^シ是、所持之造酒追々取立申渡旨相聞^江市郎左衛門、格段之者ニ付諸事含^メ候^而申付之勤切立候中合候て、不申渡候

一 美濃職人町家売作人平八式百五十匁町内甚兵衛買

一 伏見町檜物屋清兵衛後家家守兵助五兵衛小中原村こほり屋善五郎方^江奉公下こん屋町山形屋太郎右衛門妹ふゆ備前和気村綿屋佐次右衛門養女ニ遣候

一 水谷信濃守殿内鈴木谷甚太夫へ町相場平均書付相認大御目付渡部惣馬^江申談^{江戸表}可^可遣旨^右書付并状小勘者中へ相渡^ス

四日 晴

一 渡部惣馬分被申聞候、主計殿横町石橋之下ニ脇差^{至而籠末成仕立老腰有之候由町奉行所}被相渡候為持参り候ハ、受取置候様被申聞追付来り相受取^{書付家臣福井助太夫宛}受取書状^江相渡し置候

五日

一 今朝渡部惣馬分被聞候、右脇差触之儀町分^兵延引可然之旨被申聞候

六日 晴 七日 晴 会所無御出席

一京町宮嶋屋源助_江 宮尾村十右衛門弟佐助養子_ニ 貫

一去_ル 二日魚住藏人參候者進物例之通

一近來町方_ニ 手裏劔を修行致候もの相聞然れ共表立候所無之一統之
触出しもいか、_ニ 付か治町年寄呼出させ東西之加治_江 も同様町在
番へ詔候て畏候てケ様之触も候間一通り_江 申達候_而 打不申由申候
様_ニ かし頭_江 申含させ候

八日 晴 九日 小雨 御用場 十日 晴

十一日 曇

一京町三家屋幸三郎家守伊兵衛借屋木地屋忠助_与 申者寺田治助請負
津川山下請世話いたし候_ニ 付談算用之為悴菊治郎召連右治助方_ハ
忠治郎と申者同道_ニ 先月廿九日津山へ參候処当月朔日之晩_与 風小
屋_ハ 罷出何方へ參候哉行方不相知候旨断書差出_ス 京町年寄宛之

十二日 晴 会所無御出席シ

一昨十一日隅田族_ハ 齋藤孫右衛門義御小鼓指南申上候筈相成右之趣
同人_ハ 今日可申渡旨_ニ 付知らせ「_一紙到來尤渡部_一」太_ハ 孫右衛門
方へ昨晚切紙今日御用之儀_ニ 付御下屋舖へ遣置候様申来平服_ニ 罷
出候是又同人へ聞合候由役所へ相届_ル

一江戸表御飛脚到来去月廿九日五節旬月次御登城御願之通被仰出去
_ル 一日初_而 月並御登城_ニ 被成無御滞被仰上之旨申来候来_ル 十五日

御帳付候旨御奏者番中_ハ 廻状到来末々触出_ス

一十四日之御用場十五日に相成候

十三日 晴

一六百目美濃職人町三吉屋三郎兵衛家売二丁目河内屋平吉買

一戸川町布袋屋豊吉家売うたの屋藤吉買貳百貳拾目

一渡部惣馬_ハ 申聞竹十郎と申似世札師捕来り候由銀札場_ハ 届有之候
間今晚奉行中へ引合捕牢へ遣候様被申聞其旨村瀬八兵衛_江 同心左
五兵衛を遣し候処原田屋に罷在候由_ニ 付伝内と兩人罷越_シ 夜_ニ 入
牢へ遣候

一大坂吉文字屋_ハ 再願書広世近藤_ハ 委細申来り候添状来孫右衛門_江
申渡_ス

十四日 晴

一鳥羽屋和助_ハ 懸り合取計可仕旨御伺申御聞濟_ニ 今晚会所_江 双方呼
出し左之通

一件_ニ 付一通り相尋候処弟甚吉

安岡町甚右衛門_ハ 倅_今 吉

と鳥羽屋甥源次郎と口論之荷擔_ニ 打擲不致と申候得共打疵
之様子片輪_ニ 可相成事不定之体_ニ 付親甚右衛門へ手鎖_ニ 預
ヶ申付候書面扣有

同断_ニ 付段々呵申渡し兼_而 倅とも

親甚右衛門

不行跡をも不相改見逃_ニ 致し候処_ハ 様之悪事出来不念不
届候源次郎儀片輪に可相成儀_も 難斗全快数日可相懸「_一仍
之先組合願差免し兵吉儀手鎖_ニ 印元_ニ 相改預ヶ申付候追_而 載許可
申付候書面扣有

同断_ニ 付大旨申聞せ打擲_ニ 逢候儀平生

鳥羽屋和助

右甚吉_江 過言なども申候儀_ニ 相聞_江 兼々不行跡之遊ひ等致
し候所_ハ 此発端と相成其方養育致遣候上行儀等氣を付可申

一 処元来心付薄く成り合に致置此仕義ニ及候段甚不届ニ候仍

一 之追込申付候源次郎痛所未全快不致事ニ候得^者追込^ニ「」

一 内医師出入差免し候書面扣有

一 右立合石名平太兵衛同心川端又六
金嶋喜代治
三舟孫八大年寄斎藤孫右衛門
玉置忠兵衛諸吟味戸田市

一 郎右衛門御届申達^ス

十五日 晴 今日御用場

一 万人講ニ付出役去月十九日之通無滞御届申達^ス

一 寄札高老万六千八百七十式枚此銀八拾四メ三百六拾匁内式拾五メ

一 三百八匁三步引残^而五十九メ五拾式匁六十番ニ割一番式メ五百三

一 拾匁八分拾番老メ六百八拾七匁式分二十番同三十番拾メ百廿三匁

一 二分四十番老メ六百八拾七匁式分五十番同六十番三メ八百八十匁

一 五分間々六百七拾四匁八分「」屋

一 於講場領家村山伏愛染院と申者不快ニ候へ共新田村平兵衛と申方

一 縁家ニ付引請快相成会所^江札ニ出る

一 奥津川和助と申もの右場所^而不快其上入合ニて踏れ致難儀候処東

一 新町八木屋善七方へ引取講元引合^而無滞村へ連帰り候由此もの下

一 津川村平七家来ニ付一札差置候

十六日 晴 会所御出席成候

一 昨日御帳出役ニ付御断申候文間廻勤

一 江戸表へ御飛脚到来去^ル四日以上使柳原「」三兵衛殿御鷹之鷹初

一 而御拜領被成候旨申来り御怡として明後十八日御帳付候之旨御奏

一 者番中より廻状到来夫々相知らせ候

十七日 晴 十八日 晴 御用場

一 御帳付廻勤

一 今日孫右衛門儀御下屋敷御目見被仰付

一 竹十郎儀昨日川端又六
中山市左衛門
神田権兵衛牢中吟味ニ遣候所「」来

一 阿波之者^而十式歳^而京^而出四年罷在以来、大坂へ下り三年夫々

一 年大戸村へ参藤兵衛と申方ニて紺屋手間致し当正月八日同村武助

一 と申所^江参候所戸嶋村清八と兩人紙に似世札候事見せ頼候へ共及

一 断候得、大事を打明し異儀ニ及候へ共差殺と申ニ付無是非判行彫

一 候由勿論四百目出来内七拾匁遣其余、板行も銀札もいろいろ^江くへ

一 申候同廿二日大戸村^江罷出申候由之候

一 此段今日一学殿^江申達^ス大御目付中同断

一 一町棟梁権八儀年罷寄難相勤ニ付右跡勤方之儀悴^江申付候様御作事

一 石垣伝太夫池部八右衛門^江申聞候ニ付古格考之上役所取計ニ不及

一 右承知之旨及返答候

十九日 晴

一 一西今町鳥羽屋追込差免し申渡之御両所^江御届申達^ス

廿日 晴 廿一日 会所御出席無之

廿二日 雪

一 竹十郎申趣ニ付大戸村武助様子為何趣ニ付先役所^江も書面遣し可

一 申哉何分取計可申旨一昨日被仰聞則同心共^江申合候処段々手段を

一 付夫助、隣村へ参り手遊致し候処^江忍を入置候由相聞尚又及御噂

一 候処途中捕^ニ致し不苦由ニ相決昨晚川端又六三船孫八差向手遣^而

一 途中^而捕大戸村庄屋^江対面右之者尋筋有之捕へ連帰候

一 一当村之者ニて候哉差詰り候へ、右之者左様「」も帳外ものニ御座

候^与申^ニ付庄屋源六弁右衛門兩人印形^ニ書付取帰今日入牢吉井榮

二日 晴

内室井政治則尋申付候御所^江委細申達^ス

廿三日 晴 御用場

一安岡町村永屋甚右衛門追込差免申渡御届済

廿四日 曇

一清八儀捕候儀御伺申上候処^ハ怠慢心かけ見合次第召捕候様同心共

^江申渡候儀奉存候旨申上候処甚可然旨一学殿被仰聞候勿論在中^江

親^江召連来候様申置候得^者相济候儀之旨被仰聞候

一大戸夫助捕候儀^者銀札場^ニ諸入用懸り合不申之由被申聞候竹十郎

^ハ銀札場^ハ入用遣候由今日乍序村瀬八兵衛^ハ承之候

廿五日 晴 廿六日 晴 会所御出席

廿七日 晴 廿八日 晴 御用場

一馬指大豆三俵拜借之儀例之通申出候御聞届

一「^ニ新町西新町京町類族共無難之届書付差出^ス

一西今町久保田屋理右衛門借屋いとや源兵衛と申者当戌四十一歳独

身之由去^ル廿一日之夜罷出不知行方欠落之届申出^ル

廿九日 晴 晦日 雪

十二月朔日 晴 会所御出席

御用番小須賀一学殿
月番 太田舍人

一御年貢相济候^ニ付端米町方請取候儀不苦旨御勘定奉行中へ申談其

段今日及御沙汰申渡^ス

一今津屋伊右衛門福渡村徳三郎と申者^ハ野村源四郎本郷義平掛り合
米七拾俵銀壹貫目取次之訳有之郡代所日記有之

三日 晴 御用場

一非常銀此節払底^ニ付借入之儀渡部惣馬へ内談申候処御内々御聞届

^ニ付御勘定所へ引合借請之体致し受取候様被申聞村田孫兵衛へ

置

一御奏者番中^ハ廻状

江戸表^ハ飛脚到来去月十四日^ハ殿様御水痘被遊同廿二日御酒湯

益御機嫌支被成候之旨申来候恐悦之御事^ニ候仍之為御怡来六日御

帳付之間辰之刻^ハ巳之刻之内出仕可有之候此旨同役同列組合支配

方^江も可被相達候以上

一御用所^ハ同紙之奥^ニ

来^ル六日寒氣為御伺御機嫌御帳付之間右刻限之通出仕可有之——

一斎藤孫右衛門へ米五俵^{香包^ニ付與^斗}今日小勘者吉田文左衛門へ受取拙者

^江之談急度表有之^ニも無之^ニ付取計「^ニ尤之趣^ニ付拙者請取候

^而孫右衛門^江渡^ス八月十八日日記^ニ有

四日 晴 五日 晴 六日 晴 御用

一大年寄共江戸表^江献上もの披露状遣^ス

一大坂広瀬義平近藤伊左衛門へ本屋七郎兵衛吉文字屋懸り合^ニ付七

郎兵衛^ハ断再返答書差出候^ニ付添書両所^江遣^ス

七日 晴 会所御出席無之 八日 晴

九日 晴夜風有 御用場 十日 晴

一鳥羽屋和助源次郎呼出し痛疵所追々順快致し相手方へ対し少々申分無御座旨書付差出候ニ付最早懸り合相濟候段申渡且安岡町甚右衛門^并甚吉是又呼出し鳥羽屋申出候趣申渡併右之節甚吉^江荷擔せしめ源次郎を理不尽^ニ打擲し疵所相揺為及難儀ニ付為過代鳥羽屋^江療治代申付候懸り合ハ相濟候ニ付親類ハ差免^ス

一右村永屋儀昨日廻り同心^ハ申出候由申付置候手鎖をはつし候趣段々相糺候処不埒之趣仍之手鎖ハ取あけ甚吉ハ別付ニ警メ甚右衛門ハ組合預ニ仕罷帰候由申出候則刻御用番中へ申達候処先兩人ともニ手鎖申付置追^而可申出旨被仰聞候ニ付其段取計置候^而今朝御伺申御聞濟^而今夕鳥羽屋一件ハ濟シ右御政道を以申付候手鎖親子申合せはつし候同罪ニ付入牢申付候年寄とも追込組合禁足候

一無宿権四郎と申盗人此間安岡町明石屋へ這入油樽木綿盜候処二宮原^而捕^江小屋^江連帰候今夕入牢申付ル兩様御用番中^并大御目付中^江手紙^而御届申達^ス

十一日 晴
一久世役所^江来^ル十八日菊屋清左衛門請人同道^而罷越候様申来返書則日遣之候扣ニ有之候則申付候

十二日 晴 会所御出席無之
一鳥羽屋甥源次儀大坂へ用事ニ付三十日斗之逗留^而罷越今津屋伊右衛門是又罷越候此儀安岡町一件相濟候上^而之段記置候

十三日 晴 十四日 晴 御用場
一安岡町年寄組合差免し御伺之上申渡^ス
一林田東新町山内屋藤右衛門儀会所呼出申渡之

其方儀札元手伝被仰付候仍之三人扶持被下置門松大文字相印御免被成候年頭登 城之儀も可致旨申渡^ス

右今日大御目付太田舍人同道御勘定奉行三木勘平太拙者兩人^江被仰渡候御請ハ拙者申上^ル

右ニ付会所^江御勘定奉行村田孫兵衛罷越立会拙者^ハ申渡し相濟候^而町奉行中申渡有之通之念人相勤候様被聽候早^而札元茂渡市右衛門大年寄宅^江呼出し右之趣申渡させ同道廻勤為致候

今日立会平太兵衛同道ハ孫左衛門
十五日 昨夜^ハ雪 十六日 晴 会所御出席無之

一御奏者番^ハ廻文

從東武去^ル六日出飛脚到来 殿様益御機嫌能恐悦之御支候右ニ付為御悅明後十八日御帳付候間辰之刻^ハ退刻迄出仕可有之
右ニ付夫々相知らせ候

十七日 晴

一佐渡守様来二月十一日玉置忠兵衛宅御止宿之御先触来^リ尤先方役人^ハ飛札到来之旨忠兵衛申出即刻及御沙汰置宿請印形今日右之返書申付候右役人ハ青沼東兵衛と申候

一新魚町塩田屋とく訴状之一件ニ付今日とく兄弟之もの母其外懸リ合但合役之会所へ呼出裁許申渡し右書面印形呼出之面々より取之委細ハ扣ニ有之

十八日 晴

一今日御帳付候
十九日 晴

一 今般御袖留御元服之御祝儀来ル 廿四日頂戴仕度座頭とも申出候ニ
付及御沙汰置

廿日 廿一日 晴 会所御出被成候

一 東新町魚屋左七家売四百目五人組忠右衛門伊兵衛兩人買

廿二日 晴

一 新魚町今田屋小七と申者神戸村先庄屋茂右衛門平藏取次ニ置櫃八
十俵辻質として銀札「」百目貸遣之處返済不埒ニ付催促之義ニ付
此間右村へ入込言葉を荒シ糺旨曲事可及も難斗迎ニ参連帰り候段
申出ル

一 菊屋情左衛門来亥巳迄七ヶ年季木綿実運上取立請負久世ニ被申
付候由

一 東西御廻米積切相済候由申出ル

廿三日 晴 御用場

一 牢中之者名面を以申上ル年内御仕置伺無之

一 郷中非人番不行届義も有之候由相聞之寄依之地方ニ穢多四郎兵衛
定七宗四郎此者とも内々心掛目明底ニ諸方氣付候様郡代所ニ取計
有之候

一 新魚町多田屋勘三郎家売三百目同町作人勘右衛門買

一 野井野役所申来候今津屋平藏福渡村佳三郎懸り合米銀之義訴状添

翰郡代所ニ印ス

廿四日 晴

一 今般 御袖留ニ付座頭ともへ御祝儀被下之今日配當場へ例之通役
人ニも差越候勿論此間之御触御袖留御元服ニ有之ニ付二ツ頂戴シ

申出候得共五百七拾弍弍分五厘

○衆分八十八人○打かけ十弍人

○人数百四十九人内○初心三十三人○寿心十三人

○小髷目三人

右 配当城正宅ニ藤森権六三舟孫八罷出候

廿五日 晴

一 寺田治助親伝助死後被仰付候訳無之ニ付御「」付置候処今日被仰
下候者只今ニ難及貧着候間建来リ之門松ハ其儘ニ宜候間其通りに
心得可然旨被仰下御移りを孫左衛門ニ為知遣候

一 西川ハ寒中見舞例之進物到来ス

一 橋本町黒茶屋長三郎ハ訴状門屋虎吉返答去戌四月一間七歩五厘虎
吉ハ長三郎ハ為請取候処裏之長屋叔母ト兩人住居候を長三郎長屋
を売払候ニ付裏ハ越候ハ申遣是ハ去年被仰渡ニ「」之処長三郎
一人なら之申方不快存出入ニ相成昨日大年寄宅ニおいて取揃為申
渡之趣長屋ハ横山分年貢地上立ものニ付年寄とも先払代物割
入を以叔母と長三郎ハ相渡し叔母義ハ是迄虎吉ハ養育ニ逢候ニ付
尚以可懸深切旨以来右等之出入申出候ハ、曲支申段申渡之請書印
形年寄組合とも迄申付候一件別ニ有之

廿六日 晴 会所無御座 廿七日 晴

廿八日 雪天 御用場

一 去ル廿四日配当相渡候員数及御沙汰

一 今津屋伊右衛門仲人ニ福渡村徳三郎ハ米銀高借受野村長屋之もの
とも今年内余日無無御座候ニ付来正月末迄日延願差出ニ付今日今

津屋平藏同道^ニ徳三郎呼出対面之上右日延之儀申聞候処早速致承
知^ニ付野井野両所へ其段書面認返書同人へ相渡^ス尤今日御用番中
大御目附中へも御噂申達置候

廿九日 晴天

一 歳暮廻勤御家老中御年寄中大御目附月番迄相勤候

津山郷土博物館紀要第六号

津山松平藩町奉行日記三

平成六年三月三十一日 発行

編集 津山郷土博物館 ©

発行 岡山県津山市山下九二番地

印刷 津山朝日新聞社

岡山県津山市田町十三

